

平成27年度 昼間・土曜スクーリング(後期)の手引

スクーリング受講手続日程

① 受講手続説明会	9／19（土）	在学生 ^{※1} 新入生 ^{※2}
② 受講届提出締切	10／1（木）	web の場合【締切日 24 時 00 分まで】 窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【締切日消印有効】
③ 受講許可・不許可通知発送予定日	10／16（金）	*受講届提出者のみ
④ 振込用紙発送予定日	10／16（金）	*発送予定日から 5 日経過しても振込用紙が届かない場合は、会計課へ連絡してください。
⑤ 受講料振込期限	10／30（金）	銀行窓口にて【締切日厳守】
⑥ 結果通知	平成 28 年 2 月中旬	発送予定

※1 在学生…平成 26 年度以前に入学した在学生及び、
平成 26 年度の科目履修生で平成 27 年度継続者
※2 新入生…平成 27 年度 1 学年入学生及び編入学生、教職生、科目履修生

開講日程

昼間開講日程	9／24（木）～1／27（水）
土曜開講日程	【10月】3・10・24 【11月】7・14・21・28 【12月】19
補講予定期	平成 28 年 1 月 9 日（土）、21 日（木）、22 日（金）

開講日程

開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
		2	3	4	5	6	7	8
		夏		休		み		
		30	31	1	2	3	4	5
平成27年	9月	6	7	8	9	10	11	12
		13	14	15	16	17	18	19
		20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24 後期 年1	25 後期 年1	26
		27	28	29 後期 年1	30 後期 年1	1 後期 年2	2 後期 年2	3 後期 土曜年1-2
	10月	4 創立記念日	5	6 後期 年2	7 後期 年2	8 後期 年3	9 後期 年3	10 後期 土曜年3-4
		11	12 体育の日	13 後期 年3	14 後期 年3	15 後期 年4	16 後期 年4	17
		18	19	20 後期 年4	21 後期 年4	22 後期 年5	23 後期 年5	24 後期 土曜年5-6
		25	26	27 後期 年5	28 後期 年5	29 後期 年6	30 後期 年6	31
平成28年	11月	1	2	3 文化の日	4 後期 年6	5 後期 年7	6 後期 年7	7 後期 土曜年7-8
		8	9	10 後期 年6	11 後期 年7	12 後期 年8	13 後期 年8	14 後期 土曜年9-10
		15	16	17 後期 年7	18 後期 年8	19 後期 年9	20 後期 年9	21 後期 土曜年11-12
		22	23 勤労感謝の日	24 後期 年8	25 後期 年9	26 後期 年10	27 後期 年10	28 後期 土曜年13-14
		29	30	1 後期 年9	2 後期 年10	3 後期 年11	4 後期 年11	5
平成29年	12月	6	7	8 後期 年10	9 後期 年11	10 後期 年12	11 後期 年12	12
		13	14	15 後期 年11	16 後期 年12	17 後期 年13	18 後期 年13	19 後期 土曜年15・試験
		20	21	22 後期 年12	23 天皇誕生日	24 後期 年14	25 後期 年14	26
		27	28	29	30	31	1 元日	2
平成30年	1月	3	4	5	6	7	8	9 後期 土曜補講日
		10	11 成人の日	12 後期 年13	13 後期 年13	14 後期 年15	15 後期 年15	16
		17	18	19 後期 年14	20 後期 年14	21 補講日	22 補講日	23
		24	25	26 後期 年15	27 後期 年15	28	29	30
		31	1	2	3	4	5	6

…授業日及び補講日

後期補講は1月9日(土), 1月21日(木), 1月22日(金)の3日間だけでなく, その他の月曜日・土曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合, 指定された補講日に出席する必要があります。

また、補講を行う时限は他講座の補講日程の関係上、必ずしも通常と同じ时限で開講されるものとは限りません。以上のこととを承知した上で申込みをしてください。

はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学習では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

昼間・土曜スクーリングの特色

昼間・土曜スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、学期を通して一貫した内容の授業を行うことにあります。

また、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演 習 講 座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

〔調整方法等〕

- 1 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目的講座に振り分けることがあります。
- 2 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 3 上記1・2の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 4 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることができます。
- 5 「受講許可講座」及び「講師」の決定は、受講許可通知書にて通知します。したがって、受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目 次

I	受講申込から受講料納入までの流れ	2
II	時間割	4
1	2学年以上の時間割	4
2	1学年学部学科別の時間割	6
3	卒業論文指導時間割	10
III	開講講座表	12
1	「開講講座表」の見方	12
2	開講講座表	13
IV	受講講座の選定	20
1	受講申込対象者	20
2	受講講座数	20
3	受講制限	20
V	受講手続	22
1	講座を申し込む	22
2	受講届を提出する	26
3	申込講座の変更・追加	26
4	受講許可通知書を確認する	27
5	受講料等の納入	28
6	使用教材の購入	29
VI	受講及び試験	32
1	講座受講時の注意点	32
2	スクーリング結果の確認	33
VII	シラバスと使用教材	34
VIII	通学定期券の購入手続	92
IX	各種用紙	95
	「為替」送付時の注意事項	96
	教材購入用紙（丸沼書店用）	97
	教材購入願（通信教育教材購入用）	99
平成27年度 昼間スクーリング受講届		

I 受講申込から受講料納入までの流れ

① 受講手続説明会

『昼間・土曜スクーリング（後期）の手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



② 授業開始までの準備

授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を事前に確認すること。
①開講日程及び時間割 ②使用教材（教科書）の有無
③準備学習 ④成績評価基準
【要確認】授業期間に出席可能のこと。



③ 履修登録

・単位修得を希望する科目的履修登録をする。
以下の2通りで登録してください。
①在学生専用ページ
②「履修届」用紙
「履修届」用紙の配布は『部報』3月号、『部報』8月号に同封（1枚）にて行います。



④ 授業開始

第1週

9月24日（木）

～30日（水）

各授業の第1週目は、ガイダンスを行うことが多く、今後の授業の方法、授業計画、準備学習、テキスト及び成績評価基準についての説明があります。

※選択した講座を受講するか確認してください。

○ 受講講座決定の学生

受講届に必要事項を記入し、10月1日（木）までに教務課へ提出。

● 受講講座再度検討の学生

別の講座を選択し、第2週から受講する。

※その際、第1週を受講していなかった旨を担当講師に伝えること。

※火・水曜日の講座については、受講申込締切日の関係から、2週目を受講してから申し込むことはできませんので、注意してください。

受講希望者が多い講座や少ない講座は、大学側で受講の調整を行なことがあります（「受講の調整について」参照）。

特に「情報概論」（パソコン台数制限有）、外国語科目・演習科目（受講者数上限有）については、受講希望者多数の場合、受講調整を行ないます。あらかじめ了承の上検討してください。



⑤ 授業 第2週

10月1日（木）

～7日（水）

各授業の第2週目は、本格的な授業に入ります。

第1週の授業を受講し、受講講座を選定の上、10月1日（木）までに受講届を提出してください。

※ただし、土曜日の講座については、受講申込締切日の関係から、受講してから申し込むことはできませんので、注意してください。

○第1週で講座を決定し手続を済ませている学生は、必要ありません。



**提出締切：10月1日（木）
18:00（事務取扱時間）まで
(web) 締切日 24時00分まで**

**提出先：(郵送) 提出締切日 消印有効
(窓口) 教務課窓口提出のみ 事務取扱時間内厳守
1号館ポストの提出は不可
(教務課で確認し受付をするため)**

※ 1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。

※ 2 提出期限を過ぎてからの講座変更及び辞退はできません。また受講講座の追加募集は行いませんので、10月1日（木）までに受講する全ての講座を決定した上で提出してください。



⑥ 受講届提出

提出された「受講届」に基づき、大学が受講審査を行い、「スクーリング受講許可・不許可通知書」を送付します。

⑦ 受講許可・不許可通知書の発送

届き次第、必ず以下の記載内容を確認してください。

※ 1 申込講座・時間割の確認及び担当講師

※ 2 充当科目コード

特に外国語科目、各種演習科目は注意（後掲25ページ参照）。



⑧ 受講料の振込用紙発送

受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。

⑨ 受講料の納入

発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。



「スクーリング受講許可・不許可通知書」及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

受講料納入期限：10月30日（金）

銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで

※ 受講料（1講座10,000円、情報概論は13,000円）



⑩ 昼間・土曜スクーリングの手続完了

昼間・土曜スクーリング（後期）の手続は完了しました。
「スクーリング受講許可・不許可通知書」は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

II 時間割

1 2学年以上の時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限目 9:00 ~ 10:30	政治学	関根 二三夫	商法Ⅱ	大久保 拓也
	西洋史入門	高草木 邦人	経済地理学	田村 和彦
	経営学	山田 敏之	英語 K	小澤 賢司
2 時限目 10:40 ~ 12:10	文学	野口 恵子	英語 C	飯野 朝世
	英語基礎 A	八木 茂那子	ドイツ語 I・II	中島 伸
	民法Ⅲ	根本 晋一	憲法	名雪 健二
	日本史特講Ⅱ	鍋本 由徳	英語音声学	森 晴代
	マーケティング	佐藤 稔	考古学概説	野中 和夫
			商学総論	佐藤 稔
3 時限目 13:00 ~ 14:30			【卒業論文指導】	田村 和彦
	英語 A	アレックス ブラウン	歴史学 A	堀井 弘一郎
	民法 I	根本 晋一	心理学 A	野村 康治
	国際政治学	大八木 時広	英語 D	北原 安治
	金融論	谷川 孝美	国文学基礎講義	木村 一
	商業政策	佐藤 稔	英語学概説	青木 克憲
4 時限目 14:40 ~ 16:10			日本思想史 I	島田 健太郎
	法学 A	根本 晋一	歴史学 B	渡邊 浩史
	中国語 I・II	稻葉 明子	法学 B	高須 則行
	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	心理学 B	野村 康治
	スピーチコミュニケーションI	アレックス ブラウン	国文学講義V(近代)	永岡 健右
	科学哲学	江川 晃	日本史概説	横山 則孝
5 時限目 16:20 ~ 17:50	史学概論	高綱 博文	経済原論	片平 光昭
	法学 C	高澤 弘明		
	【卒業論文指導】	佐藤 稔		
	【卒業論文指導】	猪野 恵也		
	哲学 A	江川 晃	文化史	渡邊 浩史
	英語 B	小山 誠子	英語 E	石川 勝
	日本政治史	瀧川 修吾	法哲学	高須 則行
	イギリス文学史 II	猪野 恵也	国語学概論	保科 恵
	日本経済史	飯島 正義	国文学基礎演習	木村 一
			東洋史特講II	堀井 弘一郎
	【卒業論文指導】	根本 晋一		
	【卒業論文指導】	中澤 瞳		
	【卒業論文指導】	高綱 博文		

後期期間：平成 27 年 9 月 24 日～平成 28 年 1 月 27 日

土曜日のスクーリングの名称は、「土曜スクーリング」とする。

開講日程

後 期	9 / 24 ~ 1 / 27	補 講 予 定 日	1 / 9, 1 / 21, 22
-----	-----------------	-----------	-------------------

木曜日		金曜日		土曜日	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
英語 F	鈴木 ふさ子	刑事訴訟法	船山 泰範	経済学	田村 和彦
行政学	関根 二三夫	東洋思想史 I	本間 直人	TOEIC B	町田 純子
東洋史入門	綿貫 哲郎			国文学講義 II(中古)	笹生 美貴子
情報概論 A	中村 典裕			中国経済論	斎 中凌
情報概論 C	久東 義典			簿記論 I	遠藤 洋介
				教育の方法・技術論(後期)	古賀 徹
英語 G	岡田 善明	哲学 B	中澤 瞳	土曜スクーリング日程	
TOEIC A	鈴木 ふさ子	フランス語 I・II	大庭 克夫	授業時間 9:00~12:10	
国文学演習	近藤 健史	西洋史特講 I	池本 今日子	【後期】 9月:なし 10月 3日・10日・24日 11月 7日・14日・21日・28日 12月 19日	
英語史	真野 一雄	広告論	樋口 紀男	試験日:12/19	
哲学基礎講読	瀧田 寧				
【卒業論文指導】		関根 二三夫			
英米文学演習	猪野 恵也	英語 J	中村 則子		
東洋史概説(後期)	菊池 敏夫	政治学原論	吉野 篤		
日本史演習	鍋本 由徳	アメリカ経済論	小林 通		
経済学概論	陸 亦群	市場調査論	最上 健児		
商業史	横山 則孝				
現代教職論(後期)	古賀 徹				
【卒業論文指導】		真野 一雄			
英語 H	大住 有里子	社会学	服部 慶亘		
英文法	真野 一雄	英語基礎 B	中村 則子		
哲学演習	中澤 瞳	政治学特殊講義	秋山 和宏		
		国文学概論	山崎 泉		
		宗教学概論	合田 秀行		
【卒業論文指導】		鍋本 由徳			
【卒業論文指導】		陸 亦群			
西洋思想史 II	中澤 瞳	英語学演習	青木 克憲		
東洋史演習	高綱 博文	西洋史演習	藤井 信行		
国際経済論	陸 亦群	情報概論 B	一島 力男		
社会科・公民科教育法 I(後期)	古賀 徹	社会学 B	服部 慶亘		

後期: 9 / 24 ~ 1 / 27	
曜日・時限	講座名
木曜3時限	生徒指導・進路指導論
木曜5時限	社会科・地理歴史科教育法 I
土曜	教育原論／教育の思想

2 1学年の時間割

① 1年生が昼間・土曜スクーリングにおいて修得可能な科目

授業科目区分	総合教育科目	外国語科目	保健体育科目	専門教育科目	自由選択科目
① 卒業所定単位	20 単位	8 単位 ・文学専攻（英文学）のみ英語で10単位が必要。	2 単位	94 単位 ・文学専攻（英文学）のみ92単位 ・経済学部・商学部のみ82単位	経済学部・商学部のみ12単位
② 昼間スクーリングにおいて1学年で修得可能な単位数	20 単位	8 単位 (英語を選択した場合) 2 単位 (英語以外を選択した場合)	2 単位	学部・専攻部門により異なるため、学修要覧にて確認してください。	
③ 昼間スクーリングにおいて1学年で修得可能な科目	哲学 歴史学 文学 法学 社会学 政治学 経済学 ^{※1} 心理学	英語 I 英語 II 英語基礎 ^{※2} TOEIC ドイツ語 I フランス語 I 中国語 I	保健体育講義 I 体育実技 I	下表のとおり	総合教育科目、外国語科目又は、自学部の専門教育科目の中から選択

	法律	政治経済	文学専攻 (国文学)	文学専攻 (英文学)	哲学専攻	史学専攻	経済	商業
③ 昼間スクーリングにおける開講科目	憲法 民法 I 経済学原論	憲法 政治学原論 国語学概論	国文学基礎講義 国文学概論	英文法 東洋思想史 I	哲学基礎講読	西洋史入門	経済学概論 経済原論	簿記論 I 経営学 商学概論

※ 1 経済学科では「経済学」を総合教育科目の20単位の中に含めることができません。ただし、自由選択科目（12単位）に含めることができます。

※ 2 文学専攻（英文学）は受講できません。

申込にあたって	①講座名について 科目名の後ろにあるアルファベットは複数開講講座を識別するために与えています。 複数開講講座の場合は、必ず「科目名」+「アルファベット」を『講座名』として表記しています。
	②講座選択について 総合教育科目や外国語科目には、複数開講講座があります。その講座についてはどちらか1つを選択してください。 ●総合教育科目 20単位以上になるよう講座を選択してください。 ※「哲学 A」「哲学 B」、「歴史学 A」「歴史学 B」、「法学 A」「法学 B」はそれぞれどちらか1つを選択してください。
	●外国語科目 外国語科目「英語」の場合： ・「英語」の講座は複数開講しています。この授業内容は「英語 I」「英語 II」を含んでおり、各自が申込む際はどちらで受けるか意思表示をする必要があります。必ず申告してください。 ・「英語基礎」「TOEIC」講座は複数開講していますが、1つしか受講できません。
	※文理学部文学専攻（英文学）受講可能科目：「英語 I」「英語 II」「TOEIC」 それ以外の学科専攻の受講可能科目：「英語 I」「英語 II」「TOEIC」「英語基礎」
	外国語科目「ドイツ語」の場合： 「ドイツ語 I・II」を選択してください。科目としては「ドイツ語 I (D10100)」で登録されます。
	外国語科目「フランス語」の場合： 「フランス語 I・II」を選択してください。科目としては「フランス語 I (E10100)」で登録されます。
	外国語科目「中国語」場合： 「中国語 I・II」を選択してください。科目としては「中国語 I (F10100)」で登録されます。
	●専門教育科目 上記③専門教育科目に記載された科目が受講可能科目です。

(2) 学部・専攻部門の時間割

時限	火曜日			水曜日		
	講 座 名	担当講師名	備 考	講 座 名	担当講師名	備 考
1 時限目 9:00 { 10:30	政治学	関根 二三夫	全員可	英語 K (I・II)	小澤 賢司	全員可
	西洋史入門	高草木 邦人	史学専攻のみ			
	経営学	山田 敏之	商業学科のみ			
2 時限目 10:40 { 12:10	文学	野口 恵子	全員可	英語 C (I・II)	飯野 朝世	全員可
	英語基礎 A	八木 茂那子	英文学専攻のみ不可	ドイツ語 I・II	中島 伸	全員可
				憲法	名雪 健二	法律学科のみ
				商学総論	佐藤 稔	商業学科
3 時限目 13:00 { 14:30	英語 A (I・II)	アレックス ブラウン	全員可	歴史学 A	堀井 弘一郎	全員可
	民法 I	根本 晋一	法律学科のみ	心理学 A	野村 康治	全員可
				英語 D (I・II)	北原 安治	全員可
				国文学基礎講義	木村 一	国文学専攻のみ
4 時限目 14:40 { 16:10	法学 A※	根本 晋一	法学部・文理学部	歴史学 B	渡邊 浩史	全員可
	中国語 I・II	稻葉 明子	全員可	法学 B	高須 則行	全員可
	法学 C※	高澤 弘明	経済学部・商学部	心理学 B	野村 康治	全員可
				経済原論	片平 光昭	経済学科のみ
5 時限目 16:20 { 17:50	哲学 A	江川 晃	全員可	文化史	渡邊 浩史	全員可
	英語 B (I・II)	小山 誠子	全員可	英語 E (I・II)	石川 勝	全員可
				国語学概論	保科 恵	国文学専攻のみ

※前期にて、定員超過のため、振分を行っている講座です。そのため、備考欄のとおり前期で受講した先生以外には申し込みできません。

時限	木曜日			金曜日		
	講 座 名	担当講師名	備 考	講 座 名	担当講師名	備 考
1 時限目 9:00 ~ 10:30	英語 F (I・II)	鈴木 ふさ子	全員可	東洋思想史 I	本間 直人	哲学専攻のみ
2 時限目 10:40 ~ 12:10	英語 G (I・II)	岡田 善明	全員可	哲学 B	中澤 瞳	全員可
	TOEIC A	鈴木 ふさ子	全員可	フランス語 I・II	大庭 克夫	全員可
	哲学基礎講読	瀧田 寧	哲学専攻のみ			
3 時限目 13:00 ~ 14:30	経済学概論	陸 亦群	経済学科のみ	英語 J (I・II)	中村 則子	全員可
				政治学原論	吉野 篤	政治経済学科のみ
4 時限目 14:40 ~ 16:10	英語 H (I・II)	大住 有里子	全員可	社会学 A	服部 慶亘	全員可
	英文法	真野 一雄	英文学専攻のみ	英語基礎 B	中村 則子	英文学専攻のみ不可
				国文学概論	山崎 泉	国文学専攻のみ
5 時限目 16:20 ~ 17:50				社会学 B	服部 慶亘	全員可

時限	土曜日		
	講 座 名	担当講師名	備 考
1 時限目 9:00 ~ 10:30	経済学	田村 和彦	全員可
	TOEIC	町田 純子	全員可
	簿記論 I	遠藤 洋介	商業学科のみ
2 時限目 10:40 ~ 12:10	土曜日程		
	授業時間 9:00 ~ 12:10		
	【後期】 9月:なし 10月 3日・10日・24日 11月 7日・14日・21日・28日 12月 19日		
	試験日:12/19		
3 時限目 13:00 ~ 14:30			
4 時限目 14:40 ~ 16:10			
5 時限目 16:20 ~ 17:50			

3 卒業論文指導時間割

- ① 昼間・土曜スクーリング開講期間中、下表の時間帯で開講されます。
なお、補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は、通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 事前予約等は不要です。指導開始時間になりましたら、実施場所にて待機してください。
- ※ 開始時間に希望学生がいない場合には、指導を取止める場合がありますので、ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」、「専門」指導は、当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日			水曜日			木曜日			金曜日	土曜日
1 時間目 9:00 ~ 10:30											
2 時間目 10:40 ~ 12:10				講師 田村 和彦 〔経済学科〕	講師 関根 二三夫 〔政治経済学科〕						
3 時間目 13:00 ~ 14:30	講師 近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕	講師 小澤 賢司 〔文学専攻（英文学）〕		一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項		一般 卒論作成に関する一般事項				
4 時間目 14:40 ~ 16:10	講師 佐藤 稔 〔商業学科〕	講師 猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕		一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項		一般 卒論作成に関する一般事項				
5 時間目 16:20 ~ 17:50	講師 根本 晋一 〔法律学科〕	講師 中澤 瞳 〔哲学専攻〕		一般 卒論作成に関する一般事項	一般 卒論作成に関する一般事項		一般 卒論作成に関する一般事項				
	指導区分 一般 個別 専門	指導区分 一般 個別 専門		指導区分 一般 個別 専門	指導区分 一般 個別 専門		指導区分 一般 個別 専門	指導区分 一般 個別 専門			
	経済地理学 地域経済	英語学		英語学	イギリス文学		日本史 日本考古	国際経済論 経済開発論			
							指導担当学生のみ	専門			
	高綱 博文 〔史学専攻〕										
	指導区分 一般 個別 専門	指導区分 一般 個別 専門		指導区分 一般 個別 専門	指導区分 一般 個別 専門		指導区分 一般 個別 専門	指導区分 一般 個別 専門			
	アジア近現代史			哲学							

MEMO

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラバスと使用教材
(火曜日)

シラバスと使用教材 (水曜日)

ラバスと使用教材
(木曜日)

シラバスと使用教材
(金曜日)

シラバスと使用教材 (土曜日)

通学定期券の
購入手続

III 開講講座表

1 「開講講座表」の見方

(表は見やすいように網掛けが入っています)

【曜日】 【時限】

各講座の開講される曜日・時限を記載しています。

【講座コード】

スクーリングで開講される講座のコード番号です。講座（担当講師）を識別するために設けられています。受講届の講座コード欄（4 行）にはこの講座コードを記入してください。

【開講講座名】

英語等は複数開講されていますので、講座名の後ろにアルファベット等を記載し各講座を識別しています。講座名の記入にあたっては必ず識別毎の講座名を記入してください。

【充当科目コード・充当科目名】

開講講座の単位修得により充当される科目名及びその科目のコード番号です。充当したい科目をこのコード番号によって申告してください。

受講届の充当科目コード欄（6 行）には、この充当科目コードを記入してください。

【制限・注意】

【配当学年】

各講座を申し込むことができるようになる学年が記載されています。記載された学年に達していない学年は申し込むことができません。

【受講条件】

その他の受講制限及び諸注意等を記載しています。

2 開講講座表【曜日・時限順】

※見やすいように1講座ごとに網掛けをしております。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
火	1	AB11	政 治 学	関根 二三夫	B11700	政 治 学	1年		
火	1	AB12	西 洋 史 入 門	高草木 邦人	Q20300	西 洋 史 入 門	条件参考	史学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
火	1	AB13	経 営 学	山田 敏之	S20200	経 営 学	条件参考	商学部のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
火	2	AB21	文 学	野口 恵子	B11300	文 学	1年		
火	2	AB22	英 語 基 礎 A	八木 茂那子	C10600	英 語 基 礎	1年	英文学専攻は申込不可	
火	2	AB23	民 法 Ⅲ	根本 晋一	K30200	民 法 Ⅲ	2年		
火	2	AB24	日本史特講 Ⅱ	鍋本 由徳	Q30900	日本史特講 Ⅱ	2年		
火	2	AB25	マーケティング	佐藤 稔	S30500	マーケティング	2年		
火	3	AB31	英 語 A	アレックス ブラウン	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
火	3	AB32	民 法 I	根本 晋一	K20200	民 法 I	条件参考	法律学科のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
火	3	AB33	国際政治学	大八木 時広	L30200	国際政治学	2年	法・文理学部のみ申込可。	
					R32700	国際政治論		経済学部のみ申込可。	
					S33200	国際政治学概論		商学部のみ申込可。	
火	3	AB34	金 融 論	谷川 孝美	R31800	金 融 論	2年		
火	3	AB35	商 業 政 策	佐藤 稔	S31000	商 業 政 策	2年		
火	4	AB41	法 学 A	根本 晋一	B11500	法 学 (日本国憲法2単位を含む)	1年		
火	4	AB42	中 国 語 I・II	稻葉 明子	F10100	中 国 語 I	1年	I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					F10200	中 国 語 II			
火	4	AB43	国文学特殊講義	近藤 健史	M311S0	国文学特殊講義 I	2年	I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					M312S0	国文学特殊講義 II			

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
火	4	AB44	スピーチコミュニケーションI	アレックス ブラウン	N30900	スピーチコミュニケーションI	2年	英文学専攻のみ申込可。	
火	4	AB45	科 学 哲 学	江川 晃	P31300	科 学 哲 学	2年		
火	4	AB46	史 学 概 論	高綱 博文	Q30100	史 学 概 論	2年		
火	4	AB47	法 学 C	高澤 弘明	B11500	法 学 (日本憲法2単位を含む)	1年		
火	5	AB51	哲 学 A	江川 晃	B10700	哲 学	1年		
火	5	AB52	英 語 B	小山 誠子	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
火	5	AB53	日 本 政 治 史	瀧川 修吾	L30400	日 本 政 治 史	2年		
火	5	AB54	イギリス文学史II	猪野 恵也	N30100	イギリス文学史II	条件参照	英文学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
火	5	AB55	日 本 経 済 史	飯島 正義	R30500	日 本 経 済 史			
水	1	AC11	商 法 II	大久保 拓也	K30600	商 法 II	2年		
水	1	AC12	経 済 地 理 学	田村 和彦	R32600	経 済 地 理 学	2年	法・文理・経済学部のみ申込可。	
					S32200	経 済 地 理		商学部のみ申込可。	
水	1	AC13	英 語 K	小澤 賢司	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
水	2	AC21	英 語 C	飯野 朝世	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
水	2	AC22	ド イ ツ 語 I・II	中島 伸	D10100	ド イ ツ 語 I	1年	I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					D10200	ド イ ツ 語 II			
水	2	AC23	憲 法	名雪 健二	K20100	憲 法	条件参照	法学部のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
水	2	AC24	英 語 音 声 学	森 晴代	N30600	英 語 音 声 学	2年		
水	2	AC25	考 古 学 概 説	野 中 和 夫	Q30500	考 古 学 概 説	2年		
水	2	AC26	商 学 総 論	佐 藤 稔	S20100	商 学 総 論	条件参考	商学部のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
水	3	AC31	歴 史 学 A	堀 井 弘 一 郎	B11100	歴 史 学	1年		
水	3	AC32	心 理 学 A	野 村 康 治	B12100	心 理 学	1年		
水	3	AC33	英 語 D	北原 安治	C10100	英 語 I	1年	I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
水	3	AC34	国 文 学 基 礎 講 義	木 村 一	M20100	国 文 学 基 礎 講 義	条件参考	国文学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
水	3	AC35	英 語 学 概 説	青 木 克 奕	N30700	英 語 学 概 説	2年		
水	3	AC36	日 本 思 想 史 I	島 田 健 太 郎	P30800	日 本 思 想 史 I	2年		
水	4	AC41	歴 史 学 B	渡 邊 浩 史	B11100	歴 史 学	1年		
水	4	AC42	法 学 B	高 須 則 行	B11500	法 学 (日本国憲法2単位を含む)	1年		
水	4	AC43	心 理 学 B	野 村 康 治	B12100	心 理 学	1年		
水	4	AC44	国 文 学 講 義 V (近 代)	永 岡 健 右	M30900	国 文 学 講 義 V (近 代)	2年		
水	4	AC45	日 本 史 概 説	横 山 則 孝	K32200	日 本 史 概 論	2年	法学部のみ申込可。	
					Q30200	日 本 史 概 説		文理・経済・商学部のみ申込可。	
水	4	AC46	経 済 原 論	片 平 光 昭	R20100	経 済 原 論	条件参考	経済学部のみ1学年以上申込可。文理・商学部は2学年以上申込可。	
					L20200	経 済 学 原 論		法学部政治経済学科のみ1学年以上申込可。法律学科は2学年以上申込可。	
水	5	AC51	文 化 史	渡 邊 浩 史	B11200	文 化 史	1年		
水	5	AC52	英 語 E	石 川 勝	C10100	英 語 I	1年	I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
水	5	AC53	法 哲 学	高須 則行	K318S0	法 哲 学	2年		
水	5	AC54	国 語 学 概 論	保科 恵	M20300	国 語 学 概 論	条件 参照	国文学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
水	5	AC55	国文学基礎演習	木村 一	M317S0	国文学基礎演習		国文学専攻のみ申込可。	
水	5	AC56	東 洋 史 特 講 II	堀井 弘一郎	Q31100	東 洋 史 特 講 II	2年		
木	1	AD11	英 語 F	鈴木 ふさ子	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
木	1	AD12	行 政 学	関根 二三夫	L30100	行 政 学	2年		
木	1	AD13	東 洋 史 入 門	綿貫 哲郎	Q202S0	東 洋 史 入 門	2年		
木	1	AD14	情 報 概 論 A	中村 典裕	R32300	情 報 概 論	2年		
木	1	AD15	情 報 概 論 C	久東 義典	R32300	情 報 概 論	2年		
木	2	AD21	英 語 G	岡田 善明	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
木	2	AD22	T O E I C A	鈴木 ふさ子	C108S0	T O E I C	1年		
木	2	AD23	国 文 学 演 習	近藤 健史	M404S0	国文学演習 I	3年	国文学専攻のみ申込可。I～VIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					M405S0	国文学演習 II			
					M406S0	国文学演習 III			
					M407S0	国文学演習 IV			
					M408S0	国文学演習 V			
					M409S0	国文学演習 VI			
木	2	AD24	英 語 史	真野 一雄	N30300	英 語 史	2年		
木	2	AD25	哲 学 基 礎 講 讀	瀧田 寧	P20100	哲 学 基 礎 講 讀	条件 参照	哲学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
木	3	AD31	英 米 文 学 演 習	猪野 恵也	N404S0	英米文学演習 I	3年	英文学専攻のみ申込可。 I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					N405S0	英米文学演習 II			
					N406S0	英米文学演習 III			
木	3	AD32	東 洋 史 概 説	菊池 敏夫	K32300	東 洋 史 概 論	2年	法学部のみ申込可。	
					Q30300	東 洋 史 概 説		文理・経済・商学部のみ申込可。	
木	3	AD33	日 本 史 演 習	鍋本 由徳	Q401S0	日本史演習 I	3年	史学専攻のみ申込可。 I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q402S0	日本史演習 II			
木	3	AD34	經 濟 学 概 論	陸 亦群	R20300	經 濟 学 概 論	条件参照	経済学部のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
木	3	AD35	商 業 史	横山 則孝	S32100	商 業 史	2年		
木	3	AD37	現 代 教 職 論	古賀 徹	T10100	現 代 教 職 論	2年		
木	4	AD41	英 語 H	大住 有里子	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
木	4	AD42	英 文 法	真野 一雄	N20200	英 文 法	条件参照	英文学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
木	4	AD43	哲 学 演 習	中澤 瞳	P401S0	哲 学 演 習 I	3年	哲学専攻のみ申込可。 I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					P402S0	哲 学 演 習 II			
木	5	AD51	西 洋 思 想 史 II	中澤 瞳	P30600	西 洋 思 想 史 II	2年		
木	5	AD52	東 洋 史 演 習	高綱 博文	Q403S0	東 洋 史 演 習 I	3年	史学専攻のみ申込可。 I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q404S0	東 洋 史 演 習 II			
木	5	AD53	国 際 経 済 論	陸 亦群	R31100	国 際 経 済 論	2年		
木	5	AD55	社 会 科 · 公 民 科 教 育 法 I	古賀 徹	T20700	社 会 科 · 公 民 科 教 育 法 I	2年	法学部・哲学専攻・史学専攻・経済学部・商学部のみ申込可	
金	1	AE11	刑 事 訴 訟 法	船山 泰範	K31700	刑 事 訴 訟 法	2年		
金	1	AE12	東 洋 思 想 史 I	本間 直人	P20300	東 洋 思 想 史 I	条件参照	哲学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件	
金	2	AE21	哲 学 B	中澤 瞳	B10700	哲 学	1年		
金	2	AE22	フランス語 I・II	大庭 克夫	E10100	フランス語 I	1年	I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					E10200	フランス語 II			
金	2	AE23	西 洋 史 特 講 I	池本 今日子	Q31200	西 洋 史 特 講 I	2年		
金	2	AE24	広 告 論	樋口 紀男	S30900	広 告 論	2年		
金	3	AE31	英 語 J	中村 則子	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
金	3	AE32	政 治 学 原 論	吉野 篤	L20100	政 治 学 原 論	条件参照	政治経済学科のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
金	3	AE33	ア メ リ カ 経 済 論	小林 通	R312S0	ア メ リ カ 経 済 論	2年		
金	3	AE34	市 場 調 査 論	最上 健児	S317S0	市 場 調 査 論	2年		
金	4	AE41	社 会 学 A	服部 慶亘	B11600	社 会 学	1年		
金	4	AE42	英 語 基 礎 B	中村 則子	C10600	英 語 基 礎	1年	英文学専攻は申込不可	
金	4	AE43	政 治 学 特 殊 講 義	秋山 和宏	L311S0	政 治 学 特 殊 講 義 I	2年	I・IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					L312S0	政 治 学 特 殊 講 義 II			
金	4	AE44	国 文 学 概 論	山崎 泉	M20200	国 文 学 概 論	条件参照	国文学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	
金	4	AE45	宗 教 学 概 論	合田 秀行	P30400	宗 教 学 概 論	2年		
金	5	AE51	英 語 学 演 習	青木 克憲	N401S0	英 語 学 演 習 I	3年	英文学専攻のみ申込可。I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					N402S0	英 語 学 演 習 II			
					N403S0	英 語 学 演 習 III			
金	5	AE52	西 洋 史 演 習	藤井 信行	Q405S0	西 洋 史 演 習 I	3年	史学専攻のみ申込可。I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q406S0	西 洋 史 演 習 II			
金	5	AE53	情 報 概 論 B	一島 力男	R32300	情 報 概 論	2年		
金	5	AE54	社 会 学 B	服部 慶亘	B11600	社 会 学	1年		
土	1・2	AF11	經 濟 学	田村 和彦	B11800	經 濟 学	1年		

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意	
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件
土	1・2	AF12	TOEIC B	町田 純子	C108S0	TOEIC	1年	
土	1・2	AF13	国文学講義Ⅱ(中古)	笹生 美貴子	M306S0	国文学講義Ⅱ(中古)	2年	
土	1・2	AF14	中国経済論	斎 中凌	R313S0	中国経済論	2年	
土	1・2	AF15	簿記論 I	遠藤 洋介	S20300	簿記論 I	条件参照	商学部のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。
土	1・2	AF17	教育の方法・技術論	古賀 徹	T21700	教育の方法・技術論	2年	

※ 平成 23 年度 1 学年入学生

平成 24 年度 1 学年入学生、2 学年編入・再入学生、科目履修生

平成 25 年度 1 学年入学生、2 学年編入・再入学生、3 学年編入・再入学生、科目履修生

平成 26 年度以降の全入学生

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラバスと使用教材
(火曜日)シラバスと使用教材
(水曜日)シラバスと使用教材
(木曜日)シラバスと使用教材
(金曜日)シラバスと使用教材
(土曜日)通学定期券の
購入手続

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

各種用紙

受講対象者及び受講条件

昼間・土曜スクーリングの受講者は、下記の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

1 受講申込対象者

(申込時点において右記の条件を満たすこと)

- ① 年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができるること。
- ② 昼間・土曜スクーリング受講料を納入期日までに納入することができるること。
- ③ 昼間・土曜スクーリングの授業日程に出席できること。
- ④ 昼間・土曜スクーリングの試験日程に出席できること。

2 受講講座数

【申込講座の上限】 14 講座まで

火曜日から土曜日までの各時限から 1 講座ずつ、最多で 14 講座まで申し込むことができます。

※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。

3 受講制限

上記 1, 2 の条件を満たしていても、全ての講座を申し込めるわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。

① 学年・学科専攻による受講可能講座の制限について

このスクーリングは平成 27 年度のスクーリングであり、平成 27 年 10 月現在の学年で受講できる講座を選びます。

(1) 1 学年生

『学修要覧』「授業科目一覧」の表中で「面接配当学年」欄に「1」と記載されている総合教育科目・外国語科目・各自が指定配本されている専門教育科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」とある講座です。また、科目によっては特定の専攻部門しか申し込めない科目もあります。『学修要覧』又は本誌 13 ページ「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

また、1 学年の各学科ごとに時間割がありますので、そちらも参照してください。

(2) 2 学年生

『学修要覧』「授業科目一覧」の表中で「面接配当学年」欄に「1」「2」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」「2 年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学修要覧』又は本誌 13 ページ「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

(3) 3・4 学年生

『学修要覧』「授業科目一覧」の表中で「面接配当学年」欄に「1」「2」「3」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1年」「2年」「3年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学修要覧』又は本誌13ページ「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

(4) 科目履修生

入学時に申請登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

② その他の理由による受講可能講座の制限について

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

- (1) 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している講座
- (2) 通年スクーリングを受講する場合
- (3) 受講希望者が適正人員又は授業講堂の収容定員を超えた場合

③ 他のスクーリングとの日程重複による受講可能講座の制限について

昼間・土曜スクーリングの火曜日の講座を申し込む場合、地方スクーリングが月曜日に終了した後、東京に移動し昼間・土曜スクーリングに出席する必要が生じます。

同じく、昼間・土曜スクーリングの金曜日の講座を申し込む場合、授業終了後、地方スクーリング会場に移動しなければなりません。

遅刻しなければ出席できないなど、出席が無理な場合は受講申込みができません。自己責任の元に判断し、申込みをしてください。

1 講座を申し込む

スクーリングを受講するためには、ポータルサイトから「スクーリング申請」もしくは、別添の「受講届」の提出が必要となります。受講届は本誌 13 ページ「開講講座表」を参照しながら作成してください。

申し込み上の注意事項

「在学生専用ページ」と「受講届」の両方で申込みがあった場合は、「在学生専用ページ」の内容を有効とします。

① 「在学生専用ページ」による申込み

●申込みの前に

1	申込みには、ID とパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字 8 桁）
2	申込みには、パソコンのメールアドレスの登録が必要です。 登録していない場合は、「在学生専用ページ」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアカウント）」を参照して登録してください。

●申込方法

1	通信教育部公式ホームページ (URL : http://www.dld.nihon-u.ac.jp/index.html) の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「スクーリング申請・取消」をクリックしてください。	 <p>【昼間・土曜スクーリング（後期）のWeb申込期間】 2015年9月19日（土）10:00～2015年10月1日（木）24:00</p>

<p>3 「未申請スクーリング一覧」から申請したいスクーリングのチェックボックスを選択し、申請ボタンをクリックしてください。</p>	<p>スクリーニング申請一覧</p> <p>■ 未申請済みスクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理学概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理学</td> <td>□ 併用</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">取消</p> <p>■ 未申請スクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理学概論</td> <td>012D100130</td> <td>倫理学</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> <tr> <td>□ 夜間</td> <td>01CE</td> <td>哲学 A</td> <td>01CEB10700</td> <td>哲学</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> <tr> <td>□ 昼間</td> <td>01BN</td> <td>英語 B</td> <td>043D100430</td> <td>英語Ⅲ</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">申請</p>	登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26	登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	申請期限	開講日程	開催場所	□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100130	倫理学	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	□ 夜間	01CE	哲学 A	01CEB10700	哲学	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	□ 昼間	01BN	英語 B	043D100430	英語Ⅲ	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部
登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日																																												
□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26																																												
登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	申請期限	開講日程	開催場所																																														
□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100130	倫理学	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部																																														
□ 夜間	01CE	哲学 A	01CEB10700	哲学	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部																																														
□ 昼間	01BN	英語 B	043D100430	英語Ⅲ	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部																																														
<p>4 併用を希望しない場合、申請実行をクリックしてください。併用を希望する場合、「受講希望方式」の「併用」のチェックボックスを選択し、申請実行をクリックしてください。</p>	<p>スクリーニング申請確認</p> <p>■ スクリーニング申請確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理学概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理学</td> <td>□ 併用</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">申請実行 戻る</p>	登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26																																
登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日																																												
□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26																																												

●受付完了

申請受付が完了すると、登録されているパソコンのメールアドレスに申請受付メールが配信されます。配信されない場合は、「スクーリング一覧」で申請受付が完了しているか確認してください。

●申込確認

申込期間に限り、「在学生専用ページ」で確認することができます。

<p>1 申込方法の1～2の手順で、申請中のスクーリングの画面まで進んでください。</p>	<p>スクリーニング申請一覧</p> <p>■ 未申請済みスクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理学概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理学</td> <td>□ 併用</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">取消</p>	登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26
登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日												
□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26												

●申込内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り、「在学生専用ページ」で変更・取りやめをすることができます。

<p>1 申込方法の1～2の手順で、申請中のスクーリングの画面まで進んでください。</p>	<p>スクリーニング申請一覧</p> <p>■ 未申請済みスクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>□ 昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理学概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理学</td> <td>□ 併用</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09~01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">取消</p>	登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26
登録期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日												
□ 昼間	84B6	倫理学概論	012D100120	倫理学	□ 併用	2015/04/01	04/09~01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26												

* 申込期限後に、スクーリング申込はできません。

② 「受講届」による申込み

(1) 「受講届」記入欄の説明（記入例参照）

(ア) 曜日・時限

それぞれ「開講講座表」にあるとおり、記入してください。

(イ) 講座名について

「開講講座表」にあるとおり記入してください。

間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

(ウ) 講座コード

「開講講座表」の「講座コード」欄にあるとおり記入してください。

(エ) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。「開講講座表」の「充当科目コード」欄及び以下の②を参照し、記入してください。

(オ) 学生番号・氏名・電話番号

電話番号は記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

提出年月日 平成 年 月 日			
昼間スクーリング受講届			
学生番号	□□□□□□□□□	フリガナ	
種別コード	□□	前期は(A1), 後期は(A2)	
曜日	時限	講座コード	講座名
1		□□□□	
2		□□□□	
3		□□□□	
4		□□□□	
5		□□□□	
6		□□□□	
7		□□□□	
8		□□□□	
9		□□□□	
10		□□□□	
11		□□□□	
12		□□□□	
13		□□□□	
14		□□□□	

記入例 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ 合計 講座 → 14講座まで登録できます。

※ 保健体育講義Ⅰ及び体育実技を申し込む場合、曜日時間の記入は不要です。
※ 書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。
※ 本票で他のスクーリングの受講申込みできません。

(2) 注意事項（「英語」等の外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では4桁の講座コードと6桁の充当科目コードによって、受講講座(科目)を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

記入例（英語 C を英語Ⅲとして申込む場合）

曜日	時限	講座コード	開講講座名	充当科目コード	科目名（充当科目名）
火	1	●●●●	英 語 A	C10100 C10200 C10300 C10400	英 語 I 英 語 II 英 語 III 英 語 IV
水	2	●●●●	英 語 B	C10100 C10200 C10300 C10400	英 語 I 英 語 II 英 語 III 英 語 IV
木	4	●●●●	英 語 C	C10100 C10200 C10300 C10400	英 語 I 英 語 II 英 語 III 英 語 IV

(1) (2) (3) (4)

- (1) 希望する講座を選択……「英語 C」を選択
- (2) 「英語 C」を選択したことによって講座コード「●●●●」と記入
- (3) その講座でどの科目を充当したいのか選択する……「英語Ⅲ」を選択
- (4) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「C10300」を記入

※ 「……演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習 I」「英語学演習 II」「英語学演習 III」という科目全てを含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習 I～III」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記載する充当科目コードによって各自が大学に申告しなくてはなりません。

注 意 事 項

記入上の注意

- (1) 黒のボールペン（消せるタイプのペンは不可）を使用し、楷書で正確に記入してください。
- (2) 受講届提出締切後の追加、変更はできません。
- (3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
- (4) 下記の場合、大学の判断により事務的な処理を行い講座の決定をいたしますので、希望講座を受講できない可能性があります。
 - ・乱雑な記入
 - ・記入誤り、記入漏れ
 - ・記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致

2 受講届を提出する

受講届の記入が終わったら、受講届を教務課宛に提出しなければなりません。提出方法は以下の2つがあります。

① 教務課窓口に直接提出

記載内容等を確認し、受け付けするため、必ず係員に提出してください。【締切日当日の受付は事務取扱時間までとします。】

② 郵送で提出する

受講届に切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日までの消印有効】

郵送提出における注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学受領の記録が残らない取扱いとなりますので、「受講許可通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず大切に保管ください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、リポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。受講届は単体で送付してください。

3 申込講座の変更・追加

いったん受講届を提出した後に、申込講座の変更、追加及び一部辞退が生じた場合には、以下の手続きを行ってください。

① 申込講座変更届用紙

申込講座の変更・追加をする場合は、市販の便箋を使用し、次ページの記入例を参考に変更届を作成してください。

※変更・追加のために、複数の「受講届」を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申し込みが判別不能となり、申込が「無効」となりますので、決して使用しないでください。

② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに、変更前の申込講座の「開講曜日・時限」「講座コード」「講座名」「充当科目コード」を明記してください。また、自身の所属学部・専攻部門・学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

④ 提出期間

10月1日（木）（受講届提出締切日）までに提出してください。

※受講届提出期間内に到着した場合のみ有効となります。

《記入例》

日本大学通信教育部教務課長 殿	平成〇年〇月〇日																
平成 27 年度昼間・土曜スクーリング申込講座変更届																	
<p>標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ昼間スクーリングにおける申込講座を下記のとおり変更したく、書面をもってお願ひいたします。</p>																	
記																	
(当初の申込講座)																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>曜日・時限</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>充当科目コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>火曜 1 時限</td> <td>●●●●</td> <td>政治学</td> <td>B11700</td> </tr> <tr> <td>火曜 2 時限</td> <td>●●●●</td> <td>文学</td> <td>B11300</td> </tr> <tr> <td>火曜 4 時限</td> <td>●●●●</td> <td>英語 A</td> <td>C10100</td> </tr> </tbody> </table>		曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード	火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700	火曜 2 時限	●●●●	文学	B11300	火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100
曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード														
火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700														
火曜 2 時限	●●●●	文学	B11300														
火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100														
(変更後の申込講座)																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>曜日・時限</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>充当科目コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>火曜 1 時限</td> <td>●●●●</td> <td>政治学</td> <td>B11700</td> </tr> <tr> <td>火曜 4 時限</td> <td>●●●●</td> <td>英語 A</td> <td>C10100</td> </tr> <tr> <td>水曜 5 時限</td> <td>●●●●</td> <td>歴史学 A</td> <td>B11100</td> </tr> </tbody> </table>		曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード	火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700	火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100	水曜 5 時限	●●●●	歴史学 A	B11100
曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード														
火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700														
火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100														
水曜 5 時限	●●●●	歴史学 A	B11100														
上記のとおり相違ありません。																	
文理学部文学専攻（英文学） 学生番号：24153999 氏名：日大 太郎																	

4 受講許可・不許可通知書を確認する

提出された「受講届」に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を「スクーリング受講許可・不許可通知書」により送付します。

なお、「スクーリング受講許可・不許可通知書」の発送は、10月16日（金）を予定しております。左記予定日から数日経過しても通知が届かない場合は、至急教務課へ連絡してください。

「スクーリング受講許可・不許可通知書」が届いたら、以下の要領で、大学から許可された内容を確認してください。

充当科目コードの確認

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」、及び「単位」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「I, II, III…」の区別のあるものや、科目の名称がよく類似している科目がありますので十分注意してください。

講座コード・講座名・時間割の確認

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合や受講をお断りしている場合があります。

5 受講料等の納入

受講許可の下りた講座に対し、振込用紙を送付します。

申込講座の辞退がない場合、受講料を期限までに納入してください。

振込用紙の発送は、10月16日（金）を予定しています。

① 受講料：1講座 10,000円 × 受講講座数

「情報概論」のみ 13,000円（コンピュータ等実習料を含むため）

② 納入期限：10月30日（金）銀行窓口 ※当日取扱時間まで

③ 納入方法：必ず、大学から送付される振込用紙により銀行窓口から振り込んでください。

注 意 事 項

① 納入に際しての注意事項

(1) 銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送等での納入はできません。

(2) 自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受け付けできません。

銀行係員が勧めても使用しないでください。

(3) 振込用紙に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。

② その他の注意事項

(1) 発送予定日から数日経過しても振込用紙が届かない場合は、至急会計課に連絡してください。また、期日までに納入できない事情が発生した場合は、至急、教務課に連絡してください。

(2) 領収書は受講期間中、常に携帯してください。

(3) 一度受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があったとしても、受講料等の返還は行いません。

6 使用教材の購入

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学修効果が期待できません。受講許可通知書を受け取った後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を購入してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材購入方法の見分け方は、後掲の「③教材購入方法の見分け方」を参照してください。

注意事項

「配本申請」、「教材購入」による配本を受け、所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を購入してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

① 使用教材が『通信教育教材』の場合

通材印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材購入願」を使用し購入してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材購入願」によって購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約1週間を要しますので、「受講許可通知書」を確認した後、速やかに手続きを行ってください。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話03-5275-8890）に問い合わせください。

② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、**丸沼**印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店

（所在地）〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-8-12

（電話）03-3261-4540

（FAX）03-3261-0118

（営業時間）9:00～20:00（日曜日は休み）

（購入方法）直接店頭（裏表紙案内地図を参照）で購入のほか以下（1）～（3）の方法で通信販売も可能です。

（1）代金引換払（手数料250円が別途かかります）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又はFAXをしてください。

（2）郵便為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して上記あてに郵送してください。

（3）現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わることもあります。あらかじめご了承ください。

③ 教材購入方法の見分け方

※事前資料送付・当日資料配布については、教務課（電話 03-5275-8911）にお問い合わせください。

④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目をスクーリング受講する場合、特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので、各自用意の上、授業に臨んでください。

通信教育部指定の六法について

スクリーニング試験時に参考が許可される『六法』は、次の9種類に限ります。ただし、担当講師から別途指示がある場合は、この限りではありません。

《試験時に参照が許可される六法》

岩波書店『コンパクト六法』,『セレクト六法』,『基本六法』
有斐閣『六法全書』,『ポケット六法』
第一法規『司法試験用六法』,『旧司法試験用六法』,『新司法試験用六法』
三省堂『デイリー六法』

注意事項：(1) 上記指定の『六法』に、書き込み等がある物は、参照物として認められません。したがって、『六法』は学習時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。
(2) 判例・解説つきのもの（『六法』付録の小冊子等を含む）は参照物としては認められません。

MEMO

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラバスと使用教材
(火曜日)シラバスと使用教材
(水曜日)シラバスと使用教材
(木曜日)シラバスと使用教材
(金曜日)シラバスと使用教材
(土曜日)通学定期券の
購入手続

各種用紙

1 講座受講時の注意点

① 掲示板で最新情報の確認

昼間・土曜スクーリングで登校の際は、通信教育部 1 号館 1 階学生ホールにある掲示版で最新情報を確認してから講義に出席してください。

【掲示内容】

- ・ 9月 「時間割・講堂表」
- ・ 10月 「時間割・講堂表」（講堂変更後）
- ・ 1月 「後期試験講座一覧」

また、「講堂変更」「休講」等、日々の授業に関する情報についても隨時、掲示板でお知らせします。

② 受講上の注意 (出席・欠席・遅刻等)

【出席について】

スクーリングは、毎回出席することを原則としています。
交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けください。

※授業を途中から受講することは、担当教員や周りの受講者に対しても迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。

【欠席について】

止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は、次回の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。

※事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けられません。

③ 受講上の注意 (休講・補講)

【休講について】

スクーリング期間中、担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。

- ① 事前に情報を得ている場合は、掲示板でお知らせします。
- ② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、授業講堂において出席を取り、次回担当教員に出席していたことを伝えます。
(この場合は、掲示板には休講掲示を出しません。)
- ③ その他、天候により急きょ、休講となる場合はホームページにてお知らせします。

【補講について】

スクーリング期間中に休講した場合、必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。

- ① 補講日程に実施
1月9日(土), 21日(木), 22日(金)
- ② 学事日程上、空いている月曜日・土曜日に実施

「スクーリング試験」受験上の注意

- ① 「学生証」及び「振込用紙」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
 - ② 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。
 - ③ 携帯電話等は、電源を切り、鞄等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
 - ④ 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。
 - ⑤ 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
 - ⑥ 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
 - ⑦ 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
 - ⑧ 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
 - ⑨ 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
 - ⑩ 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。
- ※ 試験中の参考物等の貸し借りは不正行為とみなす。

2 スクーリング結果の確認 ※はがきによる受講届提出者のみ

スクーリングの結果は、教務課から平成27年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトまたは郵送にて通知します。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行えませんので、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などはポータルサイトの単位修得状況確認で確認、又は「単位照合票」等の交付を受け、確認してください。

結果発表時期	平成28年2月下旬
--------	-----------

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、シラバスに記載されている開講単位数を修得したことになります。また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

◆政治過程を基礎から学びましょう

〔政治学〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学修到達目標** 基礎教育としての講義を行います。前期の講義を踏まえ、選挙や政党、圧力団体など、政策の立案や政策の決定に影響を及ぼす要因を、基礎から学んでみたいと思います。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々に身近な現象であることを学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めていきます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学修** 政治学は社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会における問題点を把握し、あるべき社会を考える必要があります。学修の準備として、メディアの情報に関心を持ち、テキストを熟読するなど、それぞれの单元について2時間程度の予習をし、また同様に2時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 選挙制度 ※原則や選挙権について説明します。	9回目 わが国の圧力団体 ※特徴を中心に説明します。
2回目 選挙区 ※画定や選挙区制について説明します。	10回目 コミュニケーション ※機能・類型について説明します。
3回目 代表選出の形態 ※少數、多數、比例代表などを説明します。	11回目 コミュニケーション ※方向について説明します。
4回目 政党 ※概念・特徴・発展過程を説明します。	12回目 リーダーシップ ※リーダーの役割を中心に説明します。
5回目 政党 ※形態・機能を説明します。	13回目 地方自治 ※わが国における沿革を中心に説明します。
6回目 政党 ※問題点を説明します。	14回目 政治と行政 ※二分論・連続論・関連論を説明します。
7回目 圧力団体 ※概念・特徴を説明します。	15回目 講義内容の総括
8回目 圧力団体 ※活動・問題点を説明します。	

◆**教科書** 通材『政治学 B11700』 通信教育教材（教材コード 000279） 1,800 円（送料込）

◆**参考書** 丸沼『教養政治学』岩井奉信 黒川貢三郎 関根二三夫他 南窓社 3,132 円（税込）（送料 350 円）

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、小テストへの解答等、平常点も重視します。

◆授業相談（連絡先）：

◆西洋史を学ぶためのスタート地点

〔西洋史入門〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：高草木 邦人

◆**学修到達目標** 本講義では、西洋史を学ぶうえで必要とされている知識と技術の基礎を学習します。具体的には、文献収集の方法、概説書や専門書の読み方、研究テーマの設定、史料批判などです。また、西洋史において重要な研究・理論なども取り上げ、歴史を研究するうえで何が重要であるかも学びます。本講義の学習により、受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。

◆**授業方法** 基本的に講義形式をとりますが、文献・史料の講読や授業内レポートといった演習的な要素も盛り込んでいます。また、講義で学習したこと自分自身で実践するために、数回の課題レポートを課す予定です。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することができます。

◆**準備学修** 高等学校の教科書を受講前までに必ず読んでおいて下さい。本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史 A の教科書などを事前に読んで、歴史の知識を蓄えながら、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 前学期の復習と本講義のガイダンス	9回目 史料を読む：言説研究と政治文化
2回目 専門書を読む【概要編】	10回目 史料を読む【実践編】
3回目 専門書を読む：古代・中世史研究	11回目 理論書を読む【概要編】
4回目 専門書を読む：近現代史研究	12回目 理論書を読む：近代世界システム論の把握
5回目 専門書を読む【実践編】	13回目 理論書を読む：言語論的展開からの問い
6回目 史料を読む【概要編】	14回目 理論書を読む【実践編】
7回目 史料を読む：プロソポグラフィの調査	15回目 後学期のまとめと確認
8回目 史料を読む：ミクロヒストリアの世界	

◆**教科書** 丸沼『歴史学って何だ?』小田中直樹 PHP 新書 PHP 研究所 2004 年 734 円（税込）（送料 215 円）

また、〔当日資料配布〕講義当日にプリントの配布も予定しています。

◆**参考書** 授業中に適時指示する。

◆**成績評価基準** 試験 (40%)、課題レポート (20%)、平常点 (40%)。平常点は、授業中に配布するリアクション・ペーパーや授業内レポート、そして授業態度などを参考に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆経営学の基本を理論と事例で学ぶ

[経営学]

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：山田 敏之

◆**学修到達目標** 本講義では、現代企業の本質及び直面する諸問題を明らかにしつつ、経営学の基礎的な概念、考え方、手法について理解を深めることを目標とします。新聞、雑誌、テレビのニュース等で報道される企業の行動を、経営学の理論によって説明できるようになることが到達点となります。後期は経営組織、モチベーション、リーダーシップ、経営財務、企業の社会的責任といった問題を扱います。

◆**授業方法** 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な企業経営のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に、その日の講義の内容あるいは企業経営に関する時事的な問題に関する小テストを毎回実施します。

◆**準備学修** 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営学の諸概念について、分からぬ言葉や用語等があれば事前に経営学辞典、経済学辞典あるいは参考書を用いて調べてください。経営学はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 イントロダクション	9回目 リーダーシップの基礎的概念と資質理論
2回目 組織の定義と伝統的な組織原則	10回目 リーダーシップの行動理論
3回目 組織構造Ⅰ：職能別組織と事業部制組織	11回目 リーダーシップのコンテンジエンシー理論
4回目 組織構造Ⅱ：マトリックス組織	12回目 経営財務Ⅰ：財務諸表の見方と分析
5回目 組織構造Ⅲ：カンパニー制と持株会社	13回目 経営財務Ⅱ：損益分岐点分析
6回目 モチベーションの定義と理論の概要	14回目 企業の社会的責任
7回目 モチベーションのコンテンツ理論	15回目 まとめ
8回目 モチベーションのプロセス理論：期待理論	

◆**教科書** 丸沼『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』十川廣國 中央経済社 2,592円（税込）
(送料 300円)

◆**参考書** 丸沼『人と組織を活かす経営管理論』青木幹喜編著 八千代出版 3,024円（税込）(送料 300円)
丸沼『経営学イノベーション3 経営戦略論 第2版』十川廣國編著 中央経済社 2,592円（税込）
(送料 300円)

◆**成績評価基準** 平常点（毎回の小テスト）(20%)、最終試験 (80%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆文学の表現を考える

〔文学〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：野口 恵子

◆学修到達目標 21世紀の我々からすると異文化の世界にある『万葉集』の表現を考察しながら、文学作品の表現史の展開の様相を把握し、古代文学の全体像への理解を深める。

◆授業方法 講義形式。板書も行うので、各自ノートを持参すること。もちろん自分の「ノート」を作成することを求める。

◆準備学修 歌の内容については説明するが、口語訳は行わない。各自で不十分な箇所を調べておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 額田王の歌を学ぶ①	9回目 大伴坂上郎女の歌を学ぶ②
2回目 額田王の歌を学ぶ②	10回目 大伴坂上郎女の歌を学ぶ③
3回目 額田王の歌を学ぶ③	11回目 大伴家持の歌を学ぶ①
4回目 柿本人麿の歌を学ぶ①	12回目 大伴家持の歌を学ぶ②
5回目 柿本人麿の歌を学ぶ②	13回目 東歌を学ぶ
6回目 大伴旅人の歌を学ぶ①	14回目 防人歌を学ぶ
7回目 大伴旅人の歌を学ぶ②	15回目 まとめ
8回目 大伴坂上郎女の歌を学ぶ①	

◆教科書 丸沼『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院 1,944 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 授業内で紹介する。

◆成績評価基準 レポート試験（80%）、平常点（20%）。遅刻は認めません。

◆授業相談（連絡先）：

◆楽しく読めるエッセイで英語の基礎力を向上させましょう 〔英語基礎 A〕

火曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：八木 茂那子

◆学修到達目標 基礎的な英語の向上、特に初級・初中級レベルの方を対象に読解力を伸ばすこと、そのために効果的な学習方法を授業で体得し実践、英語の総合運用能力を向上させることを目的とします。

◆授業方法 平易な英語で書かれた色々なジャンルの、楽しい話題を取り扱ったエッセイを読み、練習問題で内容の把握と文法力の向上を図ります。授業では基礎力を養うのに効果的な様々なトレーニングを、個人で、あるいはペアで、また時にはグループで、と、色々なアクティビティを取り入れながら演習を行います。（受講者のレベルに応じ、シラバスの内容を変更することができます。）

◆準備学修 授業で取り上げる各 Unit を① CD チェック ②語彙チェック ③ CD を流しながら同時に音読する。一回目は辞書を引かずに、2度目は辞書や参考書を診ながら練習問題を解きます。指定された『English Grammar』を各1回につき2頁をやって来ること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 Unit 16 / Chapter16
2回目 Unit 11 / Chapter11	10回目 Unit 17 / Chapter17
3回目 Unit 12 / Chapter12	11回目 Unit 18 / Chapter18
4回目 Unit 13 / Chapter13	12回目 Unit 19 / Chapter19
5回目 Unit 14 / Chapter14	13回目 Unit 20 / Chapter20
6回目 Unit 15 / Chapter15	14回目 期末試験
7回目 Review Test	15回目 試験の解答・解説
8回目 解答・解説	

◆教科書 丸沼『It's Time to Read !』（楽しく読んで学ぶ基礎英語）八木 町田 S. Ryan 共著 南雲堂 1,404 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『English Grammar（ビジュアル英文法）』黒川 裕一 著 南雲堂 1,296 円（税込）（送料 215 円）

◆参考書 丸沼『Forest』総合英語 Forest（フォレスト）石黒昭博 監修／塙タカユキ他 著・編著 桐原書店 1,641 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準 筆記試験 50% + 平常点（提出物、小テスト、発表、Oral Test 他）50%による総合評価（受講者のレベルにより調整を加えることがあります。）

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆債権総論の体系と論点

(民法Ⅲ)

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：根本 晋一

◆**学修到達目標** 民法学における債権法と債権総論の位置づけ、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解することを目指といたします。

◆**授業方法** 1 受講者数が多いことから、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用いたします。
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあります。

◆**準備学修** 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直してください。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目（前期の続き）債権の効力③	9回目 多数当事者の債権債務関係①
2回目 同上④	10回目 同上②
3回目 同上⑤	11回目 同上③
4回目 同上⑥	12回目 債権の消滅①
5回目 債権譲渡①	13回目 同上②
6回目 同上②	14回目 同上③
7回目 同上③	15回目 まとめ
8回目 同上④	

◆**教科書** 指定いたしません。

◆**参考書** 通材『民法Ⅲ K30200』 通信教育教材（教材コード 000354） 2,600 円（送料込）

◆**成績評価基準** 全回出席を原則として、筆記試験または、本講義終了後に提出していただくレポートの評価点 80%、その他授業態度など 20%

◆**授業相談（連絡先）：**

◆江戸時代初期の歴史的特質とは

(日本史特講Ⅱ)

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：鍋本 由徳

◆**学修到達目標** 江戸幕府が創設されてから当面の間は、閣僚個々の能力に依る政治が展開されますが、徐々に組織としての体裁を整えていくようになります。また外国人は江戸幕府をどうみたのでしょうか。本講義では、徳川家のもつ特質を家臣団、対外関係などから理解すること、史料の読解を通じて歴史を思考する能力向上させることを目標とします。

◆**授業方法** 専門教育科目であることから、史学専攻生が主として日本史の研究を進めていくための視点の置き方に留意して講義を進めます。配布プリントを使い、その内容を中心に講義します。江戸時代の深い知識は問いませんが、基礎は必要です。準備学修は忘れないでください。授業終了直前に、理解度チェックを適宜おこないます（正誤問題）。

◆**準備学修** 講談社『日本の歴史』シリーズなど、織豊政権から江戸時代初期のことを記したものをおさらいしてみてください。下記シラバスのキーワードは調べておきましょう。日本史を学習する機会がなかった受講生は高校日本史を事前に勉強してから講義に臨んでください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 德川秀忠・家光政権～講義の概要～	9回目 戦国大名から近世大名へ
2回目 德川家の家臣団編成	10回目 家光の目指した政治とは何か
3回目 出頭人政治の特質	11回目 大名の区分と問題点
4回目 老中制形成と江戸幕府	12回目 家綱・綱吉政権への橋渡し
5回目 幕閣譜代藩の役割	13回目 幕藩官僚制の確立・展開へ
6回目 秀忠政権と外国人	14回目 江戸幕府政治史研究の今後の展望
7回目 家光政権と外国人	15回目 まとめ
8回目 武家女性の政治への関わり	

◆**教科書** [当日資料配布] 当日プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『日本近世の歴史2 将軍権力の確立』 杣田善雄 吉川弘文館 3,024 円（税込）（送料 300 円）
[当日資料配布] その他、適宜プリントにて提示する。

◆**成績評価基準** レポート試験（授業内提出）(70%)、平常点（理解度チェック 30%）をベースにした総合評価。なお、講義に毎回出席した場合に 100% の評価対象となります。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆現代マーケティングの構成 [マーケティング]

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 現代マーケティングの構成要素、マーケティング・ミックスの内容のちプロモーション、販売経路などについて理解する。

◆授業方法 テキスト及び参考資料を通した講義形式。

◆準備学修 テキストに目を通しておくこと。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 販売経路の役割	9回目 販売員活動の重要性
2回目 販売経路の形態	10回目 販売員のあり方
3回目 販売経路政策の基本	11回目 販売促進（狭義）の意義
4回目 店舗づくりのコンセプト	12回目 販売促進（狭義）の対象
5回目 店舗づくりの展開方向	13回目 商品陳列の方法
6回目 広告の役割・種類	14回目 物流の意義と機能
7回目 広告に対する社会の評価	15回目 物流システム化・まとめ
8回目 広告計画	

◆教科書 通材『マーケティング S30500』 通信教育教材（教材コード 000182） 2,200 円（送料込）

◆参考書 講義の中で必要に応じ指示。

◆成績評価基準 授業への参加、テストにより総合的に評価。

◆授業相談（連絡先）：

◆ English Communication Skills [英語 A]

火曜日 3 時限

開講単位 1 単位 担当者：アレックス ブラウン

◆学修到達目標 In this course we will study, comprehend and use natural English dialogue from scenes of a popular movie. Big Fish, starring Ewan McGregor.

◆授業方法 We will use the scenes from the movie for listening comprehension, vocabulary usage and expansion with further practice of idioms and expressions used in the dialogue of the movie.

◆準備学修 Prepare to discuss comprehension questions provided by the teacher in a group format.

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 Introduction, Movie viewing Scene 1 vocabulary study	9回目 7&8 Continued
2回目 Scenes 1&2 comprehension questions and role play	10回目 Scenes 9&10 vocab,comprehension questions and role play
3回目 Scene 3&4 vocabulary study	11回目 9&10 Continued
4回目 Scenes 3&4 comprehension questions and role play	12回目 9&10 Continued
5回目 Movie viewing Scenes 5&6 vocabulary study	13回目 Vocabulary quiz #2
6回目 Comprehension questions and role play	14回目 Review for Final
7回目 Vocabulary quiz	15回目 Final Test
8回目 Scenes 7&8 vocab,comprehension questions and role play	

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts. Students are expected to bring a notebook and a folder to keep handouts in.

◆参考書 None.

◆成績評価基準 Grades will be based on participation, two quizzes, and a final test.

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆民法総則の体系と論点

〔民法 I〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解することを目標といたします。

◆授業方法 1 受講者数が多いことから、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用いたします。
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあります。

◆準備学修 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直してください。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 法律行為①	9回目 条件と期限・期間①
2回目 同上②	10回目 同上②
3回目 同上③	11回目 時効①
4回目 同上④	12回目 同上②
5回目 同上⑤	13回目 同上③
6回目 同上⑥	14回目 同上④
7回目 同上⑦	15回目 まとめ
8回目 同上⑧	

◆教科書 指定いたしません。

◆参考書 通材『民法 I K20200』 通信教育教材（教材コード 000407） 2,300 円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を原則として、筆記試験または、本講義終了後に提出していただくレポートの評価点 80%、その他授業態度など 20%

◆授業相談（連絡先）：

◆国際政治の基礎

〔国際政治学〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：大八木 時広

◆学修到達目標 後期の授業では、まず理論を取り上げる。古典的リアリズムからネオリアリズムに至る流れ、そして国際レジーム論や「民主主義による平和論」といったリベラリズム理論の流れを中心に取り上げる。また地域、グローバル・イシューの視点も検討する。

◆授業方法 基本的には講義主体。ただし一方的な講義ではなく、対話形式も試みる予定。また授業の中でまとめを兼ねた小テストを実施の予定。

◆準備学修 事前にテキストを読み概略を予習しておくことが望ましい（とくに 1, 4, 6～12 章）。なお予習の際、大きな流れを理解しておくことが重要である。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 国際政治理論の入門	9回目 地域研究～EU①
2回目 古典的リアリズム（1）	10回目 地域研究～EU②
3回目 古典的リアリズム（2）	11回目 地域研究～アジアの民主化①
4回目 リベラリズムの理論	12回目 地域研究～アジアの民主化②
5回目 ネオリアリズムの理論（1）	13回目 地域研究～アジアの地域協力
6回目 ネオリアリズムの理論（2）	14回目 グローバル・イシュー（1）
7回目 相互依存論とレジーム論	15回目 グローバル・イシュー（2）
8回目 民主主義による平和論	

◆教科書 通材『国際政治論 R32700／国際政治学 L30200／国際政治学概論 S33200』

通信教育教材（教材コード 000501） 2,850 円（送料込）

〈この教材は市販の『NEXT 教科書シリーズ 国際関係論』佐渡友哲 信夫隆司共編（弘文堂）と同一です〉

◆参考書 授業内で紹介。

◆成績評価基準 筆記試験（70%）+平常点（30%・小テストを含む）

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆金融政策の基礎を学ぶ

〔金融論〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：谷川 孝美

◆**学修到達目標** この講義では、わが国の中銀である日本銀行の機能や役割を含めて、現在行われている異次元の金融緩和などの金融政策がどのようなものなのか、また、その理論的な背景にはどのようなものがあるのかなどを理解し、経済を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**授業方法** 授業計画にしたがって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では基礎的な事柄を中心に、平易な解説をする予定です。講義の進行状況によっては授業計画が前後することもあります。なお、貨幣の定義や金利などの基本的な事柄は取り扱いませんので、昼間の前期、および春期スクーリングを履修しておくことがぞましいでしょう。また、夏期スクーリング受講者は同一内容となるので受講不可とします。注意してください。

◆**準備学修** 金融政策の影響などを理解するためには、マクロ経済学の基礎が重要になります。事前準備として確認をしておくと良いでしょう。また、理解を深めるためにも、授業計画にあるトピックスについて、参考書などで予習をしておくとよいでしょう。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 伝統的な金融政策
2回目 さまざまな金融市场	10回目 現在の金融政策と金融調節
3回目 直接金融、間接金融、市場型間接金融	11回目 ゼロ金利政策、量的緩和政策
4回目 銀行の役割と機能	12回目 異次元の金融緩和政策
5回目 中央銀行の役割	13回目 金融政策の理論—貨幣数量説
6回目 日本銀行の機能と業務—発券銀行	14回目 金融政策の理論—IS-LM 分析
7回目 日本銀行の機能と業務—銀行の銀行	15回目 まとめ 試験
8回目 日本銀行の機能と業務—政府の銀行	

◆**教科書** 指定しない。〔当日資料配布〕当日プリントを配布します。

◆**参考書** 『現代の金融入門【新版】』池尾和人 筑摩書房

〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉

〔丸沼〕『はじめて学ぶ金融のしくみ』家森信善 中央経済社 2,592 円（税込）（送料 300 円）

〔丸沼〕『日本銀行の機能と業務』日本銀行金融研究所編 有斐閣

（日本銀行のホームページ <http://www.imes.boj.or.jp/japanese/pf.html> にあります）

その他、授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 最終（期末）試験を中心に、レポートや課題の提出、平常点などにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業政策と消費者問題**[商業政策]**

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 消費者取引における適正化のあり方について理解する。**◆授業方法** 配布資料に基づく講義形式。**◆準備学修****◆授業計画【各 90 分】**

1回目 消費の起源と消費者の概念	9回目 消費者保護法の概要
2回目 表紙者問題の発生	10回目 消費者保護法から消費者基本法へ
3回目 大衆消費社会の到来	11回目 消費者取引の適正化
4回目 消費者問題の背景	12回目 契約締結過程の諸問題
5回目 消費者被害の発生	13回目 具体的取引の適正化
6回目 消費者政策の意義	14回目 安全対策の推進（1）
7回目 消費者保護の視点	15回目 安全対策の推進（2）・まとめ
8回目 消費者保護法制定の背景	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 必要な資料は配布。**◆参考書** 講義の中で必要に応じ指示。**◆成績評価基準** 授業への参加、テストにより総合的に評価。**◆授業相談（連絡先）：****◆法学入門****[法学 A]**

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 大学に学び、学士の称号を取得する者に相応しい法的教養の涵養をめざします。**◆授業方法** 1 受講者数が多いことから、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用いたします。
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあります。**◆準備学修** 前回講義における板書事項を、しっかりと読み直してください。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきください。**◆授業計画【各 90 分】**

1回目 国家と法(公法・最高法規としての“憲法”)①	9回目 財産関係と法(私法・財産法としての“民法”と“商法”),家族関係と法(私法・身分関係・相続関係を規定する法としての“民法”)⑥
2回目 同上②	10回目 犯罪と法(公法・犯罪と刑罰に関する法としての“刑法”)①
3回目 同上③	11回目 同上②
4回目 財産関係と法(私法・財産法としての“民法”と“商法”),家族関係と法(私法・身分関係・相続関係を規定する法としての“民法”)①	12回目 同上③
5回目 同上②	13回目 裁判と法(公法・裁判のプロセスを規定する“訴訟法”)①
6回目 同上③	14回目 同上②
7回目 同上④	15回目 まとめ
8回目 同上⑤	

◆教科書 指定いたしません。**◆参考書** **〔通学 B11500〕** 通信教育教材（教材コード 000394） 1,700 円（送料込）**◆成績評価基準** 全回出席を原則として、筆記試験または、本講義終了後に提出していただくレポートの評価点 80%、その他授業態度など 20%**◆授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆漢字に頼らないリスニング力

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：稻葉 明子

◆学修到達目標 漢字の意味がわかることは大きな強みでもあります。初期の閑門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を発揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特な世界観を、実際の場面から把握し、文法的理解へ繋げていきます。

◆授業方法 前期に学習習慣が確立した人は、授業をペースメーカーにして毎週一定量の単語と言い回しを覚えていきましょう。あと一歩というひとも、毎回発音記号から始めますので挽回する時間は十分にあります。朗読を意識した教材ですので、できれば本文を暗誦するくらいに読み込みます。

◆準備学修 授業で初見の場面を自力で把握する訓練をしますので、予習ではなく、復習と翌週の小テスト対策が毎回の家庭学習となります。教科書のさまざまな例文や「おんどうくプラス」も、日本語に訳すのではなく、場面を想像しながら音が口についてでてくるところまで練習してください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 第9課：「いつ」／年齢	9回目 第16課：存現文／受身文
2回目 第10課：「有点」「一点」	10回目 まとめ
3回目 第11課：時刻／連動文	11回目 第17課：方向補語／持続相
4回目 第12課：「了」／前置詞／助動詞	12回目 第18課：比較文／助動詞
5回目 まとめ	13回目 第19課：可能補語／「是～的」
6回目 第13課：進行相／使役	14回目 第20課：処置文／程度補語／兼語文
7回目 第14課：量詞／結果補語	15回目 教場試験・まとめ
8回目 第15課：様態補語／時量補語	

◆教科書 丸沼『音読中国語（入門編）』相原茂・蘇紅 朝日出版社 2,484 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 教場で指示します。

◆成績評価基準 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングを中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません

◆授業相談（連絡先）：

◆風土記の世界を楽しもう

〔国文学特殊講義〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 律令国家の完成をめざし、『古事記』『日本書紀』の編集を命じた朝廷は、諸国に『風土記』の提出を命じた。同時期に成立し、内容的にも重なる部分が少なくないのに、『風土記』は、あまり読まれない。今回、読むことで、当時の諸国の人々の生活や考え方などを知ることができる。また『風土記』の旅、ゆかりの地をめぐる楽しみも増す。

◆授業方法 テキストを用いて、五つの国の『風土記』を読む。

地名起源伝承、古の伝説・伝承を中心に、地図などを見ながら楽しむ。

◆準備学修 五つの「風土記」が入っているテキストであれば、訳本でもよいので、「あらすじ」を読んでおいて欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 豊後国風土記を読む（1）
2回目 『風土記』誕生の背景	10回目 豊後国風土記を読む（2）
3回目 成立事情	11回目 肥前国風土記を読む（1）
4回目 播磨国風土記を読む（1）	12回目 肥前国風土記を読む（2）
5回目 播磨国風土記を読む（2）	13回目 常陸国風土記を読む（1）
6回目 出雲国風土記を読む（1）	14回目 常陸国風土記を読む（2）
7回目 出雲国風土記を読む（2）	15回目 『風土記』逸文を読む・まとめ
8回目 出雲国風土記を読む（3）	

◆教科書 五つの国の「風土記」と「逸文」が入っているものであれば、何でも可。口語訳本、文庫でも可。

◆参考書 丸沼『風土記』新編日本古典文学全集 小学館 5,029 円（税込）（送料 460 円）

入門的には

丸沼『風土記 謎解き散歩』瀧音能之 新人物文庫 925 円（税込）（送料 300 円）

丸沼『図説 地図とあらすじでわかる風土記』坂本勝 青春出版社 1,223 円（税込）（送料 215 円）

◆成績評価基準 「最終試験」による。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Speech Communication 1**[スピーチコミュニケーション I]****火曜日 4 時限****開講単位 1 単位 担当者：アレックス ブラウン**

◆学修到達目標 This course will focus on communication skills, mainly speaking and listening. The emphasis will be on using English in an authentic context and developing fluency.

◆授業方法 We will be using a topic-based syllabus where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used relating to the topics. Students will then perform activities that incorporate the language covered in the section such as group tasks or role-plays.

◆準備学修 Be prepared to speak English each and every class.

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 Orientation, Ice breakers.	9回目 Topic 8 Future
2回目 Topic 5 Obligations	10回目 Topic 8 continued
3回目 Topic 5 continued	11回目 Topic 9 International culture
4回目 Topic 6 Suggestions	12回目 Topic 9 continued
5回目 Topic 6 continued	13回目 Topic 9 continued
6回目 Topic 7 Conditionals	14回目 Prepare for testing
7回目 Topic 7 continued	15回目 Writing Test : Speaking test
8回目 Group presentation	

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆参考書 Please bring a dictionary to class.

◆成績評価基準 students will be graded on class participation, one group-presentation, quizzes, and a final test.

◆授業相談（連絡先）：

◆認識の構造に迫る**[科学哲学]****火曜日 4 時限****開講単位 2 単位 担当者：江川 晃**

◆学修到達目標 人間の認識行動の機構を、理性論と経験論、実在論と観念論、という哲学的観点から把握し、さらに、認識を発展（動態）的にとらえる立場を考察することにより、新しい形而上学の可能性について考える。

◆授業方法 教科書 3・4 分冊を講義する。授業後に簡単な感想、質問等を書いていただき、次回はそれに対してコメント対話・討論する。質問討論会予定。

◆準備学修 教科書の第 2 章を読んでおくと理解しやすい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 科学哲学とは何か	9回目 哲学的認識の素材と対象
2回目 認識行動の機構	10回目 哲学的認識の方法的特質
3回目 理性論と経験論	11回目 哲学的認識の基本的構造
4回目 実在論と観念論	12回目 哲学的認識の学問形態
5回目 実在の模擬認識論	13回目 新しい形而上学の理念
6回目 質問・討論会	14回目 まとめ
7回目 認識の静態と動態	15回目 質問・討論会
8回目 哲学的認識論	

◆教科書 通材『科学哲学 P31300』 通信教育教材（教材コード 000142）1,750 円（送料込）
〔当日資料配布〕プリント配布。

◆参考書 授業中に提示します。

◆成績評価基準 レポート (80%) と平常点 (20%) *平常点とは、感想・質問ペーパー等による。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史学の論文を書くために

〔史学概論〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方について考える。

◆授業方法 歴史学の技法について論述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆準備学修 参考書『歴史学入門』福井憲彦（岩波書店）を読んでおくことが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス及び前期の復習	9回目 歴史学の技法（5）
2回目 歴史学の史資料とは何か（1）	10回目 歴史学の技法（6）
3回目 歴史学の史資料とは何か（2）	11回目 歴史論文の作法（1）
4回目 歴史学の史資料とは何か（3）	12回目 歴史論文の作法（2）
5回目 歴史学の技法（1）	13回目 歴史論文の作法（3）
6回目 歴史学の技法（2）	14回目 卒論構想報告（1）
7回目 歴史学の技法（3）	15回目 卒論構想報告（2）
8回目 歴史学の技法（4）	

◆教科書 [当日資料配布] 授業中に資料を配布します。

◆参考書 丸沼『歴史学ってなんだ?』小田中直樹 PHP 新書 734 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『歴史学入門』福井憲彦 岩波書店 1,836 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 試験（50%）、リポート及び卒論構想報告（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆日本国憲法の基礎を学ぶ

〔法学 C〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：高澤 弘明

◆学修到達目標 日本国憲法に関する基礎知識の習得を達成目標とするが、最終的には憲法の本質的問題を追求し、自身の見解を述べられるような能力の習得を目指す。

◆授業方法 講義形式で行う。また理解度を把握するために、簡単なレポートを 2 回提出してもらう。

◆準備学修 出席するにあたり、必ず日本国憲法の全条文が掲載されている資料（インターネットからプリントアウトしたものでも可）を用意し、初回の授業時の準備としてそれを読んでくること。他の回は前回の復習。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 憲法の概念・分類	9回目 精神的自由2（表現の自由）
2回目 日本国憲法成立の法理	10回目 経済的自由
3回目 天皇	11回目 社会権・教育権
4回目 平和主義	12回目 統治機構1（国会）
5回目 人権総論1（人権の制約）	13回目 統治機構2（内閣）
6回目 人権総論2（幸福追求権）	14回目 統治機構3（裁判所）
7回目 人権総論3（法の下の平等）	15回目 まとめ
8回目 精神的自由1（思想・良心の自由）	

◆教科書 なし。

◆参考書 適宜指示する。

◆成績評価基準 レポート（100%）で評価。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆現在を生きる哲学

[哲学 A]

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：江川 晃

◆**学修到達目標** 現在、情報科学、生命科学、そして脳科学が目覚ましく発展し、その様子がマスコミ等で紹介されています。そこで、私たちがこのような現代を自律的に生きていくには、これらの科学技術から生じる問題に振り回されずに、深く考えていく力、哲学力を鍛える必要があります。

◆**授業方法** 講義形式で、教科書と配布プリントを中心に、パワーポイント、DVD や板書にて行う。授業終りに感想、質問等を書いていただき、次回はコメントし、対話・討論しましょう。

◆**準備学修** 教科書等に書いてあることを覚えるのではなく、考えたことを書く習慣を意識しよう。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 哲学とは（語源・歴史）	9回目 言語行為論
2回目 キルケゴーの実存主義	10回目 心の哲学・心脳同一説
3回目 パースの探究の理論	11回目 ロボットの心
4回目 パースの記号論	12回目 脳科学と自由意志
5回目 ヴィーチャル・リアリティーの哲学	13回目 クローンはつくってはいけないのか
6回目 分析哲学とは	14回目 ES 細胞と iPS 細胞の哲学的問題
7回目 ウィトゲンシュタインの哲学	15回目 科学は何をもたらすか・まとめ
8回目 論理実証主義	

◆**教科書** **通材**『哲学 B10700』 通信教育教材（教材コード 000404） 3,350 円（送料込）
〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫・齋藤隆編著（北樹出版）と同一です〉
〔当日資料配布〕プリント配布。

◆**参考書** 授業中に提示します。

◆**成績評価基準** レポート（80%）と平常点（20%）

◆**授業相談（連絡先）：**

◆リーディング中心の総合的英語学習

【英語 B】

火曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：小山 誠子

◆学修到達目標 イギリスと日本との比較について書かれた英文(400word／章, TOEIC450程度)を音読(正確な発音, 一定の流暢さ)及び構文の理解(文法等)の確認を行い, 加えて語彙力の増強やトピックに関する意見を英語で表現(英作文)することで総合的な英語の習得及び英語圏の文化への理解を深めます。

◆授業方法 下記準備学修を前提とした演習形式(受講者分担による発表)にて(1)語彙の確認／(2)本文音読和訳／(3)理解を確認した後, 'GRAMMAR FOCUS'を使って英文法の基本事項の解説／確認を行います。さらに'Free Writing'(テキスト)の質問への回答を英作文し, トピックに対する自分の意見を英語で表現できるようにします。加えて, 各章終了後に単語テストを実施し, 発表等授業への取り組みと併せ成績評価の一部とします。

◆準備学修 ① テキスト添付のCDに従い'READ and LEARN'の英文を正確に読めるまで発話・音読する。
② 未習の語彙は辞書にあたり(1)発音記号(2)品詞(3)代表的定義／意味を記録する。(各章終了後の単語テストは成績評価の一部となります。)構文に留意し, 本文の理解の確認作業として全文和訳を行う。(TOEIC等英語検定試験の受験を視野に入れている人は, 上記①の前に'COMPREHENSION QUESTION'を確認のこと。)

◆授業計画【各 90 分】

1回目 初回ガイダンス及びレベルチェック	9回目 Chap. 10 単語テスト及び Chap. 11 文法
2回目 Chapter 7 語彙チェック及び本文	10回目 Chap. 11 単語テスト及び Chap. 12 本文
3回目 Chapter 7 文法解説及び Chap. 8 語彙	11回目 Chap. 12 解説及び Chap. 13 語彙／本文
4回目 Chap. 7 単語テスト及び Chap. 8 本文	12回目 Chap. 12 単語テスト及び Chap. 13 文法(分詞)解説
5回目 Chap. 8 文法解説及び Chap. 9 本文	13回目 Chap. 13 単語テスト及び Chap. 14 本文／解説
6回目 Chap. 8 単語テスト及び Chap. 9 文法(仮定法)解説	14回目 Chap. 14 単語テスト及び Chap. 15 文法(関係詞)解説
7回目 Chap. 9 単語テスト及び Chap. 10 本文	15回目 全体のまとめ及び試験
8回目 Chap. 10 解説及び Chap. 11 語彙／本文	

◆教科書 丸沼『Cross-Cultural Views on Britain—比較文化で考えるイギリスと日本』南雲堂 2,160円(税込)
(送料300円)

◆参考書 大学／社会人レベルの英和／和英辞書(電子辞書可)を毎回携帯のこと。PC／タブレット／携帯の辞書替わりの授業中の使用は一切認めません。

◆成績評価基準 ①平常評価(40%)：発表等授業への積極的取組及び単語テスト結果等学習効果の客観的評価
②最終試験(60%)：※語彙問題を含む

◆授業相談(連絡先)：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆通史：大正・昭和・平成

〔日本政治史〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：瀧川 修吾

◆**学修到達目標** 本講義は、大正から昭和、平成に至るまでのいわばオーソドックスな政治史について学習することを目的とするものである。大正デモクラシーが如何にして軍国主義的な体制へと暗転し、第二次世界大戦を経て、現在の戦後デモクラシーが誕生したかについて学ぶことで、皆さんの「過去から現在を見る目」が涵養され、「温故知新」の引き出しが増えれば幸甚である。

◆**授業方法** 基本的には、教科書に沿って講述するスタイルを探るが、極力、受講生との対話を重視し、小テストやクイズを実施することで「皆さんの生の声」を反映させた「双方向性のある講義」にしたいと考えている。基礎知識の修得も重要であるが、折に触れ、「皆さんならどう決断するか」という、いわばキーパーソンの視点に立って歴史上の重要なテーマにつき、主体的に考える楽しみも提供しつつ、講義を進めていきたい。

◆**準備学修** テキストの当該箇所を参考してくること、それから特に購入の必要はないが、電子辞書や用語集などを持参することをお勧めする。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス（講義のながれ）	9回目 日米交渉とその決裂
2回目 第一次憲政擁護運動と大正の政変	10回目 アジア・太平洋戦争
3回目 第一次世界大戦と対華二一力条要求	11回目 GHQ の占領政策と日本の民主化
4回目 平民宰相内閣と政党政治	12回目 政党政治の復活と吉田長期政権
5回目 政党政治の隆盛と国際的孤立	13回目 55年体制と高度経済成長
6回目 戦争とファシズムへの道	14回目 多党化時代
7回目 軍部傀儡政権と日中戦争	15回目 総括
8回目 第二次世界大戦と戦時体制の確立	

◆**教科書** **畠沼『近代日本政治史Ⅱ 大正・昭和・平成』 黒川貢三郎・瀧川修吾著** 【9月に改訂版出版予定 価格未定】

◆**参考書** 講義の中で、適宜紹介する。

◆**成績評価基準** 試験結果と出席時の状況（小テスト及びクイズの得点、ノートの筆記具合等）を総合的に勘案して評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆19世紀末から James Joyce まで

〔イギリス文学史Ⅱ〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：猪野 恵也

◆**学修到達目標** 19世紀末の英文学から James Joyce の文学までを学ぶ。

◆**授業方法** ハンドアウトを配布しそれらを読み上げてゆく。原文にも触れ、DVD を活用する。

◆**準備学修** 授業計画における作家、作品を参考にしてどの英文学史の本でもいいので予め読んでおくとよい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 Wilde <i>The Picture of Dorian Gray</i>	9回目 20世紀の作家
2回目 E.M. Forster <i>Howards End</i>	10回目 20世紀の作家
3回目 Lawrence <i>Lady Chatterley's Lover</i>	11回目 20世紀の作家
4回目 George Orwell <i>1984</i>	12回目 20世紀の作家
5回目 Virginia Woolf <i>Mrs Dalloway</i>	13回目 20世紀の作家
6回目 James Joyce <i>Ulysses</i> など	14回目 補足説明
7回目 W.B. Yeats	15回目 まとめ
8回目 George Bernard Shaw <i>Pygmalion</i>	

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日ハンドアウトを配布する。

◆**参考書** 授業中指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・試験により総合的に評価します。毎回出席することを前提とする。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆戦争と日本経済

〔日本経済史〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：飯島 正義

◆学修到達目標 日本資本主義の構造的特徴と問題点を踏まえながら第1次大戦から高度経済成長期前までの日本経済について理解を深めることを目標とする。

◆授業方法 講義形式。当日配布するプリントを中心に授業を進めていくが、授業時における理解を確認するために数回確認プリントを実施する予定である。

◆準備学修 通信教材で関係する部分（時代）について予め読んでおくこと。また、授業時に紹介する参考文献等も利用してほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 確立期日本資本主義の構造的特徴	9回目 敗戦と占領統治
2回目 第1次大戦と日本経済	10回目 復興期における日本経済の課題
3回目 1920年代の日本経済—恐慌の時代	11回目 生産復興—傾斜生産方式
4回目 金解禁と井上財政	12回目 ドッジ・ライン
5回目 昭和恐慌と高橋財政	13回目 サンフランシスコ体制
6回目 日中戦争と戦時経済体制の構築	14回目 高度経済成長へ
7回目 戦時経済体制の崩壊（1）	15回目 まとめ
8回目 戦時経済体制の崩壊（2）	

◆教科書 **〔当日資料配布〕**授業時にプリントを配布します。

◆参考書 **〔丸沼〕『日本経済史』老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一著 税務経理協会 2002年**

〈上記の本は品切れのため図書館等を利用して下さい〉

**〔丸沼〕『概説日本経済史 近現代第3版』三和良一著 東京大学出版会 2012年 2,700円（税込）
(送料300円)**

◆成績評価基準 平常点（取組み・確認プリント等）：30%，筆記試験：70%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆企業組織法入門～会社法の基礎から学ぶ～

[商法Ⅱ]

水曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：大久保 拓也

◆**学修到達目標** この講義では、現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識の習得を目的とします。経済社会で重要な役割を担う企業組織（会社）について規律する会社法は、平成 26 年に重要な改正がなされました（平成 27 年 5 月 1 日施行予定）。実社会に与える影響も大きいため、会社に関する法規制を基本から理解を目的とした講義を行います。株式会社の機関構造（後半）、株式会社の設立、組織再編等を扱います。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、会社法制度の全体構造を理解し、会社法上の基本問題について、法的な解答を示すことのできる論理的思考力の習得ができるることを目的とします。会社法には難解に思われる複雑な規律が設けられています。その理解のため、毎回出席をとります。また、ただ漫然と授業に出席しているだけでは知識が身につかないと思いますので、講義時に何度も小テストを行い理解度をチェックすることも予定します。そのため、予習・復習も必須となります。

◆**準備学修** 会社法は、経済活動に密接に結びついた法分野です。会社法に関する法分野を理解するためには、常に新しい経済の仕組みを理解していくなければなりません。そのための最適の方法は、日刊新聞（日経新聞等）を読むことです。最近ではどのような経済問題があるのか、どのような新しい企業組織形態が誕生したのか、等について問題意識をもつて毎日欠かさず読むことが必要です。

◆授業計画【各 90 分】

1回目	ガイダンス 株式会社の機関構造 4：役員の選任・解任手続	9回目	株式会社の機関構造 12： 監査役、監査役会、会計監査人、会計参与
2回目	株式会社の機関構造 5： 競業取引と利益相反取引	10回目	資本制度と会社の計算
3回目	株式会社の機関構造 6： 善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制	11回目	株式会社の設立 1： 設立手続の概要、発起人の権限
4回目	株式会社の機関構造 7： 取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割	12回目	株式会社の設立 2： 払込の手続と仮装払込
5回目	株式会社の機関構造 8： 報酬規制	13回目	持分会社の法規制
6回目	株式会社の機関構造 9： 指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役	14回目	組織再編 1： 合併と分割、事業譲渡
7回目	株式会社の機関構造 10： 取締役の対会社責任と株主代表訴訟	15回目	組織再編 2： 株式交換と株式移転 講義のまとめ
8回目	株式会社の機関構造 11： 取締役の対第三者責任		

◆**教科書** 四沼『会社法講義 30 講』松嶋隆弘編著 中央経済社 3,780 円（税込）（送料 350 円）
六法（最新版（2015（平成 27）年版））価格未定

◆**参考書** 四沼『会社法判例百選（第 2 版）』江頭憲治郎ほか編 有斐閣 2011 年 2,344 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** ①平常点（授業中に行う「小テスト」も含みます）(20%)、②授業中にふれた重要な事項から出題する「試験」(80%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆ハイテク産業の経済地理

〔経済地理学〕

水曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：田村 和彦

◆学修到達目標 ハイテク産業は、経済の情報化の重要な担い手になっていると同時にグローバル化を推進させている。そこから生じる諸問題に考えてみる。

◆授業方法 講義方式。

◆準備学修 教科書を読んで予習するだけでなく、マスメディアを通して経済状況についても考えること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 経済のサービス化と情報化とは。	9回目 企業の海外立地戦略。
2回目 経済のソフト化について。	10回目 日本企業の海外進出①。
3回目 経済の情報化とハイテク産業とは。	11回目 日本企業の海外進出②。
4回目 ハイテク産業の定義。	12回目 日本企業の多国籍企業化。
5回目 情報ネットワーク化社会。	13回目 農業の企業家・ハイテク化。
6回目 サービス化社会の進展。	14回目 農業と関連産業。
7回目 ハイテク産業の立地の特徴。	15回目 まとめ
8回目 経済のグローバル化の進展。	

◆教科書 通材『経済地理 S32200／経済地理学 R32600』 通信教育教材（教材コード 000233）
2,050 円（送料込）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 最終筆記試験。

◆授業相談（連絡先）：

◆英文法再起

〔英語 K〕

水曜日 1 時限

開講単位 1 単位 担当者：小澤 賢司

◆学修到達目標 【前期講座の続きとなります】「再起」とは「悪い状態立ち直ること」を言います。本授業では、英文法をもう一度基礎から学び、その有用性に気づき、そして「良い状態にすること」を目標としています。淡々と学んでいくのではなく、一定量の英文を読みながら、それらがどう用いられているかも見ていきます。上記の内容のため、初級者向けの講座です。

◆授業方法 毎週 1 unit 進むことを目標とし、1つ1つの文法項目を丁寧に解説します。そのため授業スピードは緩やかに設定しています。適宜、質疑応答の時間も設けます。また、英文の音読等もしてもらいます。

◆準備学修 以下のことを行ってください。

- ① Unit 冒頭の英文を訳してくる
- ② 見本の音声をもとに音読をしてくる
- ③ 学習した文法項目の復習（これらには時間をかけてください）

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス（前期の復習）	9回目 接続詞（1）
2回目 不定詞	10回目 接続詞（2）
3回目 動名詞	11回目 関係詞（1）
4回目 現在完了（1）	12回目 関係詞（2）
5回目 現在完了（2）	13回目 5文型
6回目 受動態	14回目 これまでの復習
7回目 比較（1）	15回目 まとめ（テスト）
8回目 比較（2）	

◆教科書 丸沼『Reading Steps ステップアップ英文読解と基本文法』 Robert Hickling・臼倉美里 金星堂
2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 英和辞典を必ず持参してください。

◆成績評価基準 試験 70%, 平常点 30% ※毎回出席することを前提としています（出席点はありません）。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界の友だち**[英語 C]****水曜日 2 時限****開講単位 1 単位 担当者：飯野 朝世**

- ◆学修到達目標** ①6つの英語圏各地のトピックに興味を持ち、アイ・シャドウイングを通して、英語のまま内容を把握できる。
 ②様々な発信型アクティヴィティーを通して、使える英語力を身につける。
 ③①②の目標は毎回クラスに参加し、各作業を通じて習得できるものですので欠席が多かったり、受験英語を目的とした場合は効果が得られないと思われます。

- ◆授業方法** ①各ユニットを2回に亘って学習します。各第2回目では、アイ・シャドウイングとリスニングを小テストとして実施し、内容が理解できているか確認します。
 ②随时、授業内容について質問したり、ペアプラクティスを行いますので積極的に参加して下さい。
 ③最終授業はReview Unit の Mini-Presentation です。

- ◆準備学修** ①授業前に必ず Self-Study 用の DVD を何度も見て、英語の音やイントネーションに慣れておいて下さい。
 ②授業中の作業に集中できるよう、わからない単語等は前もって調べておいて下さい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス（授業の進め方、成績評価について等）	9回目 Unit 11 England Doc. 小テスト
2回目 Unit 8 New Zealand Introduction	10回目 Unit 12 The Bahamas Introduction
3回目 Unit 8 New Zealand Intro. 小テスト	11回目 Unit 12 The Bahamas Intro. 小テスト
4回目 Unit 9 New Zealand Documentary	12回目 Unit 13 The Bahamas Documentary
5回目 Unit 9 New Zealand Doc. 小テスト	13回目 Unit 13 The Bahamas Doc. 小テスト
6回目 Unit 10 England Introduction	14回目 Presentation 準備 (Unit 14 My Best Friend)
7回目 Unit 10 England Intro. 小テスト	15回目 まとめ
8回目 Unit 11 England Documentary	

各UnitのIntroductionとは、各英語圏の特徴ある英語を用いて登場人物がその地域の文化、地理、風土などを紹介するユニットです。それに続くDocumentaryとは、登場人物自身の現在の姿や、将来に対するビジョンが語られているユニットです。

- ◆教科書 因沼『World Wide English on DVD』森田彰, 山本由布子, 他著 成美堂 2,592 円（税込）（送料 300 円）(Self-Study DVD 付)**

- ◆参考書** 特に指定しませんが、参考になる WEB-SITE に Access して情報をチェックしましょう。

- ◆成績評価基準** ①期末テスト：50% ②小テスト：20% ③平常点（授業参加度、授業態度、積極性など）：30%
 ④その他欠席、遅刻、早退、テキストなし、私語、居眠りなどによる減点。①～④により総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆書くためのドイツ語を学びましょう

[ドイツ語Ⅰ・Ⅱ]

水曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：中島 伸

◆**学修到達目標** 本講座では、書くためのドイツ語、すなわち「独作文」をする上で必要なドイツ語文法と語順の知識の習得、そして語彙力の強化を目標とします。ドイツ語は英語に比べると馴染みの薄い言語ですが、ドイツ語文における語順は日本語とよく似ているため、皆様にとってドイツ語は英語よりも取り付き易い言語です。英語を6年以上学んで身に付かなかった方は、これを機にドイツ語に転換しましょう。ドイツ語を学べば学ぶほど、英語にはない言語の奥深さがドイツ語にはあることをきっと理解できることでしょう。

◆**授業方法** 前期は独作文の土台となる文法事項の説明と語彙力の強化を行います。以下の授業計画で挙げられている項目の説明後、練習問題で定着させていきます。後期は前期に説明した文法事項の確認を行ながら、並べられた単語を使ってドイツ語文を完成させる練習（日本語文をいきなりドイツ語文にするのは余りにも負担が大きくなるので行いません）、そして前期に引き続き語彙力の強化を行います。また、前期と後期に2回ずつ小テストを行い、間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却致します。

◆**準備学修** 既習の文法事項の復習をするようにして下さい。特に、動詞の現在人称変化と名詞の性、そして冠詞の格変化の知識は、ほぼ全ての文法事項で必要となります。そのため、これら3つの項目に関する提出課題を解き、冠詞の格変化を紙に書いて覚えるようにして下さい。反復練習こそが言語習得への近道です。

◆**授業計画 [各 90 分]**

1回目 (不) 定冠詞を含む文の独作文	9回目 現在完了形を含む文の独作文
2回目 不規則な現在人称変化をする動詞を含む文の独作文	10回目 zu不定詞の用法と独作文
3回目 命令文・冠詞類を含む文の独作文	11回目 再帰動詞の用法と独作文
4回目 前置詞を含む文の独作文	12回目 形容詞の格変化と独作文
5回目 分離・非分離動詞を含む文の独作文	13回目 形容詞の比較表限と独作文
6回目 話法の助動詞を含む文の独作文	14回目 関係代名詞を含む文の独作文
7回目 副文の用法と独作文	15回目 接続法を含む文の独作文・まとめ
8回目 過去形を含む文の独作文	

◆**教科書** 丸沼『CD付き シュリット・フュア・シュリット [改訂版] たくさん練習して学ぶドイツ語』
今井田 亜弓・前田 織絵著 三修社 2,916円(税込)(送料300円)

◆**参考書** 独和辞典が必要となります。なお、推奨独和辞典は初回スクーリング時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点(30%)・小テスト(30%)・試験(40%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談 (連絡先) :**

◆憲法を考える

[憲法]

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：名雪 健二

◆**学修到達目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法の判例をみることで、生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆**授業方法** 憲法の解釈論が中心となる。また、判例を取り上げるが、そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

本講義（後期）では、統治機構（国会、内閣、裁判所）をみていく。

◆**準備学修** 1) 後期における授業計画が記載されているので、授業を理解する前提として、教科書を読んでおくこと。
2) 授業の範囲内における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。
3) 授業で聞いたこと、また、授業でノートしたことを確認し、整理するといった復習を必ずすること。

◆**授業計画 [各 90 分]**

1回目 国会の性格、国会の組織	9回目 内閣の総辞職、内閣の権能
2回目 国会議員の特典、国会の活動	10回目 内閣の責任、裁判所の性格
3回目 国会の活動、国会の権能	11回目 最高裁判所
4回目 国会の権能	12回目 最高裁判所
5回目 議院の権能	13回目 下級裁判所、司法権の独立
6回目 議院の権能	14回目 財政、地方自治
7回目 内閣の性格・組織	15回目 後期の総括
8回目 内閣総理大臣の地位・権能	

◆**教科書** 丸沼『日本国憲法』名雪健二 有信堂 3,780円(税込)(送料350円)

◆**参考書** 丸沼『増補ゼミナール憲法』名雪健二他 南窓社 3,456円(税込)(送料350円)
丸沼『3訂日本国憲法要論』廣田健次 南窓社 3,497円(税込)(送料350円)

◆**成績評価基準** 授業態度・小テスト（前期1回、後期1回）・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

◆**授業相談 (連絡先) :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の音声現象の基礎理解**(英語音声学)**

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：森 晴代

- ◆**学修到達目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を追及する。

◆**授業方法** 英語音声学の観点から後期は子音、音声変化、イントネーションの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。必要に応じてプリントを配布し補足説明します。8名から10名のグループを作り、発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆**準備学修** テクストには専門用語が数多くでできますので、前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は、子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また、辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 子音の分類説明	9回目 音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習
2回目 閉鎖音の説明及び発音練習	10回目 音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習
3回目 摩擦音の説明及び発音練習	11回目 音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習
4回目 破擦音の説明及び発音練習	12回目 イントネーションの説明及び文の発音練習（長文）
5回目 鼻音の説明及び発音練習	13回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 1
6回目 流音、半母音の説明及び発音練習	14回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 2
7回目 子音連続の発音練習	15回目 発音テスト
8回目 子音の演習問題配布及び解答	

◆**教科書** 丸沼『A Way to Better English Pronunciation - 英語の発音、リスニング、スピーキングへの近道』
英潮社フェニックス 2009年 池田紅玉、森晴代著 2,376円（税別）（送料 215円）

◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』 大修館書店 新装版 CD付 川越いつえ著 2,592円（税込）（送料 300円）
※授業では使用しません。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、小テスト（20%）、発音テスト（10%）、試験（50%）。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆古墳時代・古代の社会を学びましょう**(考古学概説)**

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：野中 和夫

◆**学修到達目標** 佐賀県吉野ヶ里遺跡や奈良県纏向遺跡の発掘によって、邪馬台国論争が再燃している。「魏志倭人伝」には何が記されているのか、発掘された資料との照合によって事實を知ることができる。さらに、古墳時代から古代にかけての主要な遺跡を取上げ、そこから発掘された遺物・遺構がどのように評価されているのか理解することを目標とする。

◆**授業方法** 講義形式、考古資料はもとより、史料も活用することによって、考古学と文献史学の接点についても触れる予定。

◆**準備学修** ノート、プリント、参考書等々を利用して復習すること。講義内で遺跡・博物館見学等々をすることができないので、遺跡の見方や注目される展示会を紹介するので、見学し、感想及び調べたことをレポートにし、提出すること。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 遺跡の理解	9回目 武藏国分寺の造営と国府
2回目 「魏志倭人伝」と考古学（1）	10回目 瓦の生産と供給
3回目 「魏志倭人伝」と考古学（2）	11回目 影向寺跡と橘郡街
4回目 古墳時代の概要と代表的な古墳	12回目 「无射志国荏原評」銘の古瓦
5回目 埼玉古墳群と稻荷山古墳	13回目 藤原京の発掘
6回目 金象嵌鉄剣の銘文と文字史料	14回目 平城京の造営
7回目 豪族の居館と家形埴輪	15回目 古墳時代と古代の社会・まとめ
8回目 古墳時代のイエとムラ	

◆**教科書** 当日資料配布] 当日プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『古墳時代の考古学』①～⑧巻 同成社 〈図書館等を利用してください〉
丸沼『平城京の時代』坂上康俊 岩波書店 885円（税込）（送料 215円）

◆**成績評価基準** 平常点 15% レポート 20% 試験 65%

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業機能、機構、機関の捉え方

〔商学総論〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 商学の中心的課題である機能観の変遷、商学の仕組み、仕組みを構成する機関について理解する。

◆授業方法 テキスト及び参考資料に基づく講義形式。

◆準備学修 テキストに目を通しておくこと

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 流通機能とは	9回目 助成的機能
2回目 アメリカにおける機能分析の展開	10回目 収集、分散機構
3回目 我が国における機能分析の展開	11回目 卸売業及び卸売市場
4回目 需給統一の意義	12回目 小売業の意味と小売業の役割
5回目 需給統一の方法（1）	13回目 小売商圈の設定
6回目 需給統一の方法（2）	14回目 小売商業機関（1）
7回目 物流とは	15回目 小売商業機関（2）・まとめ
8回目 物流の諸機能	

◆教科書 通材『商学総論 S20100』 通信教育教材（教材コード 000356） 3,250 円（送料込）

◆参考書 講義の中で必要に応じ指示。

◆成績評価基準 授業への参加、テストにより総合的に評価。

◆授業相談（連絡先）：

◆近現代日中関係史を学ぶ

〔歴史学 A〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国とともに厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代と共に生きた日中両国民の足跡をたどりながら、確かな歴史的素養もって日中関係を考え語れるようになることを目標とする（後期は日中戦争開始後～今日まで）。

◆授業方法 毎回レジメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や意見発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 「歴史とは現代と過去との対話である」（E・H・カーラー）。戦後 70 年を迎える今年にあってなお、日中関係は緊張を高めている。そんな今日こそ、日頃から日本・中国の近現代史、日中関係史に関する書物に親しんだり、日中関係の時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 滿州事変と日中戦争の諸相	9回目 中国の国連代表権獲得と日本
2回目 汪兆銘「対日協力政権」	10回目 日中國交回復
3回目 アジア太平洋戦争と中国	11回目 改革開放路線と日本
4回目 戦争と新聞メディア	12回目 香港の盛衰
5回目 終戦前後の東アジア	13回目 領土問題・戦後補償・歴史認識
6回目 国共内戦下の中国と日本	14回目 後期の総括
7回目 中国革命の衝撃	15回目 まとめ
8回目 文化大革命と日本	

◆教科書 [当日資料配布] 特に指定せず、レジメ及びプリント資料を当日配布する。

◆参考書 丸沼『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への朝鮮』久保亨 岩波新書 864 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『シリーズ中国近現代史⑤ 開発主義の時代へ』高原明生・前田宏子 岩波新書 842 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『日中関係一戦後から新時代へ』毛利和子 岩波新書 864 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『新しい東アジアの近現代史（上・下）』日中韓 3 国共同歴史編纂委員会編 日本評論社
(上) 2,700 円（税込）(送料 300 円), (下) 2,700 円（税込）(送料 300 円)
(上) + (下) (送料 350 円)

◆成績評価基準 前期・後期と合わせ、平常点 20%，試験 80% で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆行動を科学する

[心理学 A]

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：野村 康治

◆**学修到達目標** 「心」の理解はともすれば主観的なものになりがちであり、主観的理解は思い込みや誤解を生むことがある。この授業では「行動」をキーワードとして、心理学が「心」に関する問題にいかに取り組み、どのようなことを見出してきたかを学ぶ。そして、「心」に問題に対する思考力の育成を目指す。

◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員から質問をしたり、意見を求めることがある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆**準備学修** 科学は疑問を持つこと、つまり問題を見つけることから始まる。そして、心に関する問題は日常の生活場面に溢れている。日常場面での様々な心の問題を見つけ出し、そのことに疑問を持ちながら毎回の授業に臨んで欲しい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 行動の生起、動機づけについて学ぶ	9回目 行動の獲得 2、発達とは何かを学ぶ
2回目 欲求と欲求不満、葛藤について学ぶ	10回目 発達の規定因に関する諸研究を学ぶ
3回目 適応行動と不適応行動について学ぶ	11回目 行動の個人差 1、知能とは何かを学ぶ
4回目 人間成長を促す動機づけを学ぶ	12回目 知能の測定と知能理論について学ぶ
5回目 行動の獲得 1、学習とは何かを学ぶ	13回目 行動の個人差 2、性格とは何かを学ぶ
6回目 学習理論（連合説）について学ぶ	14回目 性格理論と性格検査について学ぶ
7回目 学習理論（認知説）について学ぶ	15回目 後期授業まとめ
8回目 社会的学習について学ぶ	

◆**教科書** 通材『心理学 B12100』 通信教育教材（教材コード 000483） 2,850 円（送料込）
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一編（福村出版）と同一です〉

◆**参考書** 必要に応じて授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英文の基本構造を理解する

【英語 D】

水曜日 3 時限

開講単位 1 単位 担当者：北原 安治

◆学修到達目標 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになることを目標とする。

◆授業方法 予習段階で英文を5行ほどの間隔でノートに写す。その英文の下にS(主語)、V(動詞)などを書いてもらい、訳を付ける。細かく板書するので訳が書き取れないということはない。予習の段階で必ず本文をノートに写していくこと。各色のマーカーなど持ってくると良い。受講者の速度に合わせるので、かならずしも授業計画どおりにはならない。本文のみやり練習問題はやらない。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。ノートはルーズリーフでもよいが、必ず書いた分は全てのページを毎回持って来ておくこと。ノート無きものは単位を与えない。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。前期の続きから始める。

◆準備学修 予習段階で英文を5行ほどの間隔でノートに写す。板書のときは英文の下に訳を書くが、ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけてても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくること。教科書を毎回持ってくること。ノート検査のときに教科書を持って来ているか調べる。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 第2章の英文構造と和訳	9回目 第3章の英文構造と和訳
2回目 第2章の英文構造と和訳	10回目 第3章の英文構造と和訳
3回目 第2章の英文構造と和訳	11回目 第3章の英文構造と和訳
4回目 第2章の英文構造と和訳	12回目 第3章の英文構造と和訳
5回目 第2章の英文構造と和訳	13回目 第3章の英文構造と和訳
6回目 第3章の英文構造と和訳	14回目 第3章の英文構造と和訳
7回目 第3章の英文構造と和訳	15回目 まとめと試験（辞書および参照物なし）
8回目 第3章の英文構造と和訳	

◆教科書 丸沼『Major Countries in the World～世界の主要国～』 小泉和弘編、鳳書房 1,944 円（税込）
(送料 300 円) (Tel/Fax (03) 3483-3723)

◆参考書 丸沼『ロイヤル英文法』旺文社 1,944 円（税込）(送料 350 円) この本は講義では使わない。辞書は毎回持つてること。辞書を持って来ているか検査をする。

◆成績評価基準 試験、実力テストなどの総合評価。皆出席を望む。前期試験はなし。欠席1回で何点か引く。出席点とノート点は加点しない。出席してノートを取るのは当然のことだからである。30回目に授業内試験を行う（辞書は参考不可）。抜き打ちの実力テストも何回か行う。板書事項を全部書いているかを調べるノート検査をして不備の者は不合格。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典文学作品から時代を読む

〔国文学基礎講義〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：木村 一

◆**学修到達目標** 本講義は基本的に「国文学基礎講義」(前期)の流れの中にあり、前期からの流れにおいて後期に継承される。後期においては、『源氏物語』を読む。対象とする巻々は、「桐壺」と「葵」である。物語世界の時代背景、当時の生活様式が当然認識されていることが理想的であり、その理解のもとにおいて物語を読む。物語ということの捉え方、『源氏物語』についての基本的捉え方ができるようになります。

◆**授業方法** 講義形式で授業を行います。指定テキストの解説と併せ、実際に文学作品を読んでいきます。ただし、ただ文学作品の内容を捉えることが目的ではありません。受講生諸君に積極的に思考・考察してもらうために、授業時間内に複数回にわたって〈小課題〉を課すこととします。その課題は各セクションにおける各自の理解度・把握度を計る目安となるものです。その課題に対応するべく、各自積極的に講義ノートをとること。

◆**準備学修** 指定したテキストの内容と流れとを事前に把握しておくこと。授業範囲の専門用語を事前に把握しておくこと。毎回の授業後、各自の講義ノートと指定テキストを基とし、整理復習をしっかりとこなし、次の講義につなげる努力をすること。次回の予告を聞き逃さず、次回の展開に即した指定テキスト内容の把握と作品内容の読み込みを行うこと。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 導入 どう進めるか	9回目 光源氏誕生
2回目 『源氏物語』入門	10回目 光源氏の結婚とタブー
3回目 『源氏物語』とは何か	11回目 桐壺巻以降、葵巻まで
4回目 読み始めよう、桐壺巻	12回目 葵と六条御息所と
5回目 一夫多妻制と後宮ということ	13回目 斎院御禊の日と車の所争い
6回目 第二皇子の誕生	14回目 苦惱と物の怪
7回目 帝とその更衣の死	15回目 まとめ
8回目 第二皇子臣籍降下	

◆**教科書** 丸沼「Next 教科書シリーズ『日本古典文学』」弘文堂 2,376 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 実際の作品については、必要に応じプリントを配布する。なお、電子辞書があると便利（電子端末不可）。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の状況により総合的に評価します。
受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

◆授業相談（連絡先）：

◆英語学を基礎から学びましょう

〔英語学概説〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：青木 克憲

◆**学修到達目標** 英語学がどのような学問なのか、形態論、統語論、意味論の分野で必要な基礎知識を修得することを目的とします。

◆**授業方法** ①「英語についての 26 章」(英宝社) で本文を読んでもらい、その後で関係する箇所を②「英語学の基礎」(くろしお出版) で説明を加える形で授業を行なっていきます。[受講条件] 昼間スクーリング英語学演習 平成 26 年度(青木克憲) の受講者は一部内容が重複するので受講しないでください。

◆**準備学修** ①「英語についての 26 章」はシラバスを参照して、次回に行なう所をよく理解しておくこと。
②「英語学の基礎」は事前に一通り読んでおいてから、次回に行なう箇所を読み返してみること。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ①のテキスト Language Variation	9回目 ①のテキスト The Importance of Language
2回目 // Meaning in words and Sentences	10回目 // Language Learning
3回目 ②のテキスト「認知意味論」について	11回目 ①のテキスト Slang
4回目 ①のテキスト Japanese English	12回目 // Language and Computers
5回目 // Word Formation in English	13回目 // English in Scotland
6回目 ②のテキスト「形態論」について	14回目 // Pidgin English
7回目 ①のテキスト Spelling and English Pronunciation	15回目 まとめ
8回目 ②のテキスト「音韻論」について	

◆**教科書** 丸沼『英語についての 26 章』英宝社 2,052 (税込) (送料 300 円)

丸沼『日英対照英語学の基礎』くろしお出版 1,944 (税込) (送料 300 円)

◆**参考書** 授業中に必要に応じて紹介します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（予習状況・練習問題）(30%)、試験(70%)で評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本人の美意識

〔日本思想史 I〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：島田 健太郎

◆学修到達目標 本年度は中世の芸道論を題材に、そこに見られる当時の人々の美意識について考えていきます。中世には、「幽玄」・「わび」・「さび」などの独自の美的価値を持つ語が現れ、それは現代の私たちの美意識にも影響を及ぼしています。後期では主に「わび」・「さび」について考えます。これらの美的価値の検討を通して、中世の人々のものの考え方を理解するとともに、日本文化をより深く考えるための視野を広げることを目標とします。

◆授業方法 プリントとして配布する原典や史料を参考にしながら、講義形式で行います。中世の芸道論ということもあり、聞き慣れない言葉や難解な専門用語などが多くあります。それらには適宜説明を加えます。またプリントには読みがなと現代語訳をつけるので、古文の読解に自信がなくても構いません。

◆準備学修 授業でも概要は説明しますが、まず扱われる芸道がどのようなものなのか、あらかじめ調べておくとよいと思います。また中世の出来事や、芸道の大まかな流れ（たとえば茶の湯が隆盛した時期や、松尾芭蕉や本居宣長はいつごろの人など）を頭に入れておくと、授業が聞きやすくなります。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 「わび」・「さび」—「冷えさび」—	9回目 「わび」・「さび」—芭蕉—
2回目 「わび」・「さび」—茶の湯—	10回目 //
3回目 //	11回目 もののあはれ—本居宣長—
4回目 //	12回目 //
5回目 //	13回目 「いき」—江戸町人の美意識—
6回目 //	14回目 //
7回目 庭園論・花道論	15回目 まとめ・試験
8回目 「わび」・「さび」—芭蕉—	

◆教科書 特に使用しません。**〔当日資料配布〕** 当日にプリントを配布します。

◆参考書 授業中に適宜紹介します。

◆成績評価基準 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆とある日本の歴史学

〔歴史学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 浮世絵が西洋絵画に影響を与えたように、アニメはグローバル文化に組み込まれている。そのアニメには日本の歴史的背景が多く組み込まれている。日本の歴史背景とは多くの海外文化を吸収し習合させたという意味で、この点こそが日本のマンガ・アニメが無国籍な空間を持ち、多くの国で違和感なく受け入れられた理由である。決して「アニメ顔」や「萌え」の要素のみではない。いくつかの作品を通して、日本の歴史がどのようにマンガ・アニメに反映されているかを再確認し、これを通じて日本の歴史への理解を深める。

◆授業方法 講義形式で行う。適宜 DVDなどを利用する。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修 授業計画に挙げたマンガ・アニメ作品については、ある程度事前に見たり読んでいることが望ましい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 はじめに 日本の伝統文化系譜上に位置するマンガ・アニメ	9回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結界師』から見る日本歴史
2回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史	10回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結界師』から見る日本歴史
3回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史	11回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史
4回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史	12回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史
5回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史	13回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史
6回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史	14回目 マンガ・アニメから見る日本歴史とは
7回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史	15回目 まとめ
8回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結界師』から見る日本歴史	

◆教科書 使用しない。**〔当日資料配布〕** 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 平常点 20%，試験 80%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆私たちと法の関わりを知りましょう

〔法学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：高須 則行

◆**学修到達目標** 現代社会における紛争解決で重要視されている法的思考の道具立てを理解し、それが現実の社会の中でどのように機能しているかを理解してもらうことを目的とする。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けたいと思います。

◆**準備学修** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 法の解釈（I）解釈の意義	9回目 国家の組織と作用に関する法（1）
2回目 法の解釈（II）解釈の技法（1）	10回目 国家の組織と作用に関する法（2）
3回目 法の解釈（III）解釈の技法（2）	11回目 市民生活に関する法（1）
4回目 法の解釈（IV）解釈の技法（3）	12回目 市民生活に関する法（2）
5回目 法の解釈（V）解釈の技法（4）	13回目 現代資本主義社会の法
6回目 法の種類（IV）不文法（1）	14回目 法の構造（2）
7回目 法の種類（V）不文法（2）	15回目 法の目的・まとめ
8回目 法の種類（VI）不文法（3）	

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 特定の教科書は使用せず、授業中にプリント（当日）を配布します。

◆**参考書** その都度、授業中に指示します。

◆**成績評価基準** 試験を実施し、得点によって評価します。3分の2以上の出席を要します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆行動を科学する

〔心理学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：野村 康治

◆**学修到達目標** 「心」の理解はともすれば主観的なものになりがちであり、主観的理解は思い込みや誤解を生むことがある。この授業では「行動」をキーワードとして、心理学が「心」に関する問題にいかに取り組み、どのようなことを見出してきたかを学ぶ。そして、「心」に問題に対する思考力の育成を目指す。

◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員から質問をしたり、意見を求めることがある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆**準備学修** 科学は疑問を持つこと、つまり問題を見つけることから始まる。そして、心に関する問題は日常の生活場面に溢れている。日常場面での様々な心の問題を見つけ出し、そのことに疑問を持ちながら毎回の授業に臨んで欲しい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 行動の生起、動機づけについて学ぶ	9回目 行動の獲得 2、発達とは何かを学ぶ
2回目 欲求と欲求不満、葛藤について学ぶ	10回目 発達の規定因に関する諸研究を学ぶ
3回目 適応行動と不適応行動について学ぶ	11回目 行動の個人差 1、知能とは何かを学ぶ
4回目 人間成長を促す動機づけを学ぶ	12回目 知能の測定と知能理論について学ぶ
5回目 行動の獲得 1、学習とは何かを学ぶ	13回目 行動の個人差 2、性格とは何かを学ぶ
6回目 学習理論（連合説）について学ぶ	14回目 性格理論と性格検査について学ぶ
7回目 学習理論（認知説）について学ぶ	15回目 後期授業まとめ
8回目 社会的学習について学ぶ	

◆**教科書** **『心理学 B12100』 通信教育教材（教材コード 000483） 2,850 円（送料込）**
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一編（福村出版）と同一です〉

◆**参考書** 必要に応じて授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本近代文学の展開

〔国文学講義V（近代）〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：永岡 健右

◆学修到達目標 明治 20 年代から大正期までの社会思潮、文芸思潮を作家と作品を具体的に把握しながら学習します。

◆授業方法 講義方式で指定テキストを読み進めます。後期では第 4 章以降が中心になります。

◆準備学修 具体的な作品を各自文庫本等で読み込むことが望されます。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 後期授業の進め方	9回目 森鷗外の文学
2回目 正岡子規の文学	10回目 荷風の文学
3回目 浪漫主義文学（晶子）	11回目 谷崎潤一郎の文学
4回目 フランス自然主義について	12回目 白樺派の文学
5回目 島崎藤村の文学	13回目 芥川文学の特性
6回目 日本自然主義の文学	14回目 プロレタリア文学
7回目 無理想無解決の文学	15回目 まとめ
8回目 夏目漱石の文学	

◆教科書 通材『国文学講義V（近代） M30900』 通信教育教材（教材コード 000094） 2,750 円（送料込）

〈この教材は市販の『現代日本文学のながれ』金沢近代文芸研究会編（おうふう）と同一です〉

◆参考書 各章巻末に参考文献をあげてあります。学習指導書で各章の内容を要約してあります。

◆成績評価基準 試験（80%）小テスト、レポート（各 10%）

◆授業相談（連絡先）：

◆日本史（近世～近代）に関する基礎的事実の確認をしてみよう 〔日本史概説〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：横山 則孝

◆学修到達目標 我が国の歴史的展開を世界的視野からとらえ、日本史（近世～近代）を政治・経済・社会・文化など、歴史を構成する諸要素を統合して幅広い見方で大きく把握することができるようになります。

◆授業方法 講義形式でおこなうが、テーマごとに高等学校の教科書でも言及されている基礎的事実を質問によって確認し、その上でその事実がもつている意味について考えてみる。

◆準備学修 毎回講義の終了時に次回の内容について簡単にのべることにするので、そのテーマに関連する部分について教科書と高等学校の教科書の記述がどうなっているのか予習しておくとよい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 織豊政権の成立	9回目 江戸幕府の三大改革
2回目 太閤検地と刀狩（兵農分離）	10回目 開国
3回目 江戸幕府の成立	11回目 幕末の政争と明治維新政府の成立
4回目 近世の大名	12回目 近世の文化
5回目 旗本と御家人	13回目 自由民権運動の展開
6回目 近世の朝廷	14回目 帝国憲法と初期議会
7回目 近世の宗教統制	15回目 まとめ
8回目 幕府政治の展開	

◆教科書 通材『日本史概論 K32200／日本史概説 Q30200』 通信教育教材（教材コード 000382）
2,500 円（送料込）

〈この教材は市販の『概論 日本歴史』佐々木潤之介（吉川弘文館）と同一です〉

◆参考書 丸沼『日本史B』高等学校教科書 出版社は問わない。

◆成績評価基準 リポート 15%，ミニテスト 15%，試験 70%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆家計と企業および市場の分析

〔経済原論〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：片平 光昭

◆**学修到達目標** 前期の講義に引き続き、家計（消費者）と企業（生産者）のそれぞれの行動を詳しく考察し、その両者の行動によって市場ではどのように均衡価格や均衡取引量が決定されるかを理解します。

◆**授業方法** 前期の講義と同様に、この講義では多くのグラフや簡単な式数が用いられます。その使い方や意味をその都度簡単に説明します。またこれらの分析がわれわれの日常の生活にどのように関連しているかを現実に即して説明します。

◆**準備学修** この講義は、経済学の基礎的知識を土台にしてミクロ経済分析を行います。そのために、この講義を受講する前に「経済学」あるいは「経済学概論」を受講しておく方が望ましいでしょう。また毎回の講義はその前回の講義を理解したものとして継続的に進められますので、欠席せずに必ず前回の講義内容を把握しておくことが重要です。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 平均費用と限界費用	9回目 需要曲線のシフト要因
2回目 総費用曲線と市場価格	10回目 供給曲線のシフト要因
3回目 総収入と総費用と利潤	11回目 余剰分析と資源配分
4回目 価格変化と利潤最大化	12回目 不完全競争市場の形成要因
5回目 短期と長期の供給曲線	13回目 独占価格と寡占価格の決定理論
6回目 市場の分類および完全競争市場の成立条件	14回目 市場の失敗
7回目 均衡取引量と均衡価格	15回目 後期のまとめとテスト
8回目 需給均衡への調整過程	

◆**教科書** 通材『経済原論 R20100／経済学原論 L31300』 通信教育教材 (教材コード 000159)
2,350 円 (送料込)

◆**参考書** 必要に応じて講義中に指示します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に、中間テスト、小テスト、学年末テストにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆サブカルなんていわせない！マンガもアニメも日本の伝統文化だ！〔文化史〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：渡邊 浩史

◆**学修到達目標** 現在の日本においてサブカルチャーと言われているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察する事によって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているかを理解できるようにする。

◆**授業方法** 授業の中では、出来るだけ多くの資料を提示したいと考えている。授業計画にあるように、それぞれの時代の文化についての概説を述べた後に各論を開く。なお、計画は目安であり変更する場合もある。

◆**準備学修** 授業を受ける前に、最低限高校日本史教科書レヴェルの知識は付けておいて欲しい。その前提で授業を進める。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 はじめに	9回目 能・狂言2
2回目 中世の文化	10回目 中世の旅1
3回目 絵巻物3	11回目 中世の旅2
4回目 絵巻物4	12回目 近世の文化
5回目 地獄1	13回目 近世の旅
6回目 地獄2	14回目 近世の食文化
7回目 一揆の芸能	15回目 まとめ
8回目 能・狂言1	

◆**教科書** 使用しない。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 試験 (80%), 平常点 (20%)

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語力の底上げ

〔英語 E〕

水曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：石川 勝

◆学修到達目標 テキストの読解を中心に、文法の説明やリスニングを行い、英語の力の底上げを図ることを目的とする。テキストは大学生がアメリカを旅行する内容で親しみやすいと思われる。

◆授業方法 事前にテキストの訳をやってきてもらい、授業中指名して発表してもらう形をとる。その後で英文の構造や背景の説明を行う。

◆準備学修 前の授業で指示された個所の予習を必ずしておくこと。2回予習していない場合は単位を認めない。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 unit 7	9回目 unit 11
2回目 続き	10回目 続き
3回目 unit 8	11回目 unit 12
4回目 続き	12回目 続き
5回目 unit 9	13回目 unit 13
6回目 続き	14回目 続き
7回目 unit 10	15回目 まとめ
8回目 続き	

◆教科書 丸沼『Jiro Goes to America』金星堂 1,566 円（税込）（送料 215 円）

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 数回行う小テストの結果で成績を判断する。

◆授業相談（連絡先）：

◆法に関する常識を疑ってみませんか？

〔法哲学〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：高須 則行

◆学修到達目標 皆さんは法についての何らかのイメージを持っていることでしょう。そのイメージをちょっとばかり疑ってみませんか？ というのも、法哲学は「当たり前」と思われて、誰からも疑われてこなかった法的な事柄をひとまず疑ってみて、その上で、できる限りその根拠を探り当ててみようとする知的営みだからです。そのことによって、自分たちの抛って立つ知的基盤を反省し、より深い知識を習得してもらうことを目標としています。

◆授業方法 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けたいと思います。

受講者の人数にもありますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。

◆準備学修 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 法哲学へのいざない	9回目 法価値論（I）：法と正義：正義の分類
2回目 法的世界の概要（刑事訴訟を前提に）	10回目 法価値論（II）：ラードブルフの法理念論
3回目 法規範の構造：行為規範・裁判規範・組織規範	11回目 法価値論（III）：功利主義
4回目 法規範の機能： 抑止＝保障機能・活動促進機能・紛争解決機能・資源配分機能	12回目 法価値論（IV）：ロールズの公正としての正義
5回目 法律学方法論（I）：法的三段論法と法源論	13回目 生命と法（I）：脳死・臓器移植
6回目 法解釈方法論（II）：法解釈の技法（1）： 文理解釈・拡張解釈・縮小解釈	14回目 生命と法（II）：安楽死・尊厳死
7回目 法解釈方法論（III）：法解釈の技法（2）：反対解釈と類推適用	15回目 法哲学の整理・まとめ
8回目 法解釈方法論（IV）：法解釈の技法（3）：体系的解釈	

◆教科書 特定の教科書は使用せず、〔当日資料配布〕授業中にプリント（当日）を配布します。

◆参考書 その都度、授業中に指示します。

◆成績評価基準 試験を実施し、100%の得点によって総合的に評価します。3分の2以上の出席を必要します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆国語学がどういう学問かを知る

(国語学概論)

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：保科 恵

◆学修到達目標 ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆授業方法 講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目についての小テストを行なったりします。

◆準備学修 特別なことは必要ありませんが、いろいろな国語の現象に対する興味を持っていることが前提です。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 文法（その1）	9回目 語彙（その4）
2回目 文法（その2）	10回目 語彙（その5）
3回目 文法（その3）	11回目 文体（その1）
4回目 文法（その4）	12回目 文体（その2）
5回目 文法（その5）	13回目 言語生活
6回目 語彙（その1）	14回目 方言・系統
7回目 語彙（その2）	15回目 まとめ
8回目 語彙（その3）	

◆教科書 丸沼『国語学要論』福島邦道 笠間書院 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 特になし。

◆成績評価基準 試験 70%。平常点 30%。

◆授業相談（連絡先）：

◆古典文学の捉え方、その先へ

(国文学基礎演習)

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：木村 一

◆学修到達目標 本講座で対象とするのは、平安時代の文学作品である。そのジャンルは、漢詩集・和歌集・物語文学・隨筆と多岐にわたる。そのジャンルに貫通する時代を体感すること、文学作品に描かれていることを通じて、その時代に生きた人々の物の見方を知ることを主眼とする。本講座は「演習」である。次のステップの「〈本〉演習」への橋渡しとしたい。調査・研究の方法、古典文学の捉え方・見方ができるようになることを目標とする。

◆授業方法 本講座は「演習」である。受講生諸君が主体となり、〈調査〉・〈研究〉を経て口頭発表を行う。具体的には、指定テキストに対して担当者を決め、読み込んだ上で、どうしてそのような〈展開〉・〈結論〉になるのか、という論理展開をたどることを主眼とする。〈発表〉と〈質疑応答〉という討論形式で進めることになる。「国文学基礎講義」・「国文学概論」を履修し終えていることが望ましい。

◆準備学修 受講生各自、口頭発表をするという自覚を持つこと。指定テキストに対して、自身の担当箇所をしっかりと読み込むこと。その上で内容をしっかりと把握すること。さらに、執筆者の言いたいことは何か、問題点はどのようなことか、といったことを洗い出していくこと。口頭発表であるから、レジュメを作ること。発表担当ではない者も該当箇所を読み込んで、質問事項を用意しておくこと。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 後期導入 どう進めてきたか確認	9回目 受講生による口頭発表（後期物語②）
2回目 受講生による口頭発表（源氏①）	10回目 受講生による口頭発表（暮らし①）
3回目 受講生による口頭発表（源氏②）	11回目 受講生による口頭発表（暮らし②）
4回目 受講生による口頭発表（枕①）	12回目 受講生による口頭発表（特定作品①）
5回目 受講生による口頭発表（枕②）	13回目 受講生による口頭発表（特定作品②）
6回目 受講生による口頭発表（歌学①）	14回目 受講生による口頭発表（特定作品③）
7回目 受講生による口頭発表（歌学②）	15回目 後期まとめ・総まとめ
8回目 受講生による口頭発表（後期物語①）	

◆教科書 丸沼『中古文学研究』神作光一編 双文社出版 2,376 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 電子辞書（電子端末不可）があると便利。〔当日資料配布〕発表レジュメは当日配布。その他必要に応じてプリントを当日配布する。

◆成績評価基準 発表内容 70%・質疑応答 10%・リポート 20%で総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆民衆動員から見た日中戦争・太平洋戦争史

〔東洋史特講Ⅱ〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：堀井 弘一郎

◆**学修到達目標** 日中戦争や太平洋戦争においては中国、台湾、朝鮮、東南アジア各地で対立勢力が民衆動員を競った。本講座では徴兵、移民、引揚げ、留用などを含めた民衆の動員という視点から日中戦争・太平洋戦争史を再構成し、民衆にとっての戦争の意味を考察する歴史的教養を培うことを目標とする。後期は太平洋戦争開始後が対象。

◆**授業方法** 毎回レジメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や意見発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。教科書も適宜活用する。

◆**準備学修** 戦後 70 年を迎える今年は、戦争を巡る話題や議論には事欠かないであろう。日頃から日中戦争や太平洋戦争に関する書物に親しんだり、戦争の史実や記憶、歴史認識を巡る新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。教科書指定図書も一読しておいてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 太平洋戦争下の日本の民衆	9 回目 「留用」される日本人（1）
2 回目 植民地朝鮮の民衆	10 回目 「留用」される日本人（2）
3 回目 植民地台湾の民衆	11 回目 日本人の引揚げ
4 回目 日本軍占領下の東南アジア	12 回目 残留孤児と残留婦人
5 回目 慰安婦・戦時性暴力	13 回目 シベリア抑留
6 回目 太平洋戦争下の日系アメリカ人・ブラジル人	14 回目 後期の総括
7 回目 捕虜となった日本兵	15 回目 まとめ
8 回目 戦前・戦後の沖縄民衆	

◆**教科書** 丸沼『「満州」から集団連行された鉄道技術者』堀井弘一郎 創土社 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 丸沼『シリーズ中国近現代史③ 革命とナショナリズム』石川禎浩 岩波新書 885 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『シリーズ日本近現代史⑥ アジア太平洋戦争』吉田裕 岩波新書 885 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** 前期・後期と合わせ、平常点 20%，試験 80% で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Oscar Wilde の童話を読む

[英語 F]

木曜日 1 時限

開講単位 1 単位 担当者：鈴木 ふさ子

◆**学修到達目標** 英文の正確な把握力を高めることを目標とします。作品の文化や時代背景について理解し、作者の意図を汲むことで作品を深く、多面的に解釈できるようになること、童話にふさわしい表現を翻訳する技法とセンスを身につけることを目標とします。

◆**授業方法** イギリス 19 世紀末の童話を主なテキストとし、音読と翻訳を通して英語の文章を正確に読み取っていきます。単語ひとつの解釈をめぐってディスカッションすることもあります。毎回進んだ範囲から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。

◆**準備学修** 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、情景をイメージしながら自分なりの翻訳を作ってきて下さい。また、自分なりに作品の解釈をしてまとめた上で授業に臨んで下さい。

◆**授業計画 [各 90 分]**

1回目 ガイダンス（授業の内容・進め方など）	9回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
2回目 Wilde の童話をプリントで読む	10回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
3回目 Wilde の童話をプリントで読む	11回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
4回目 Wilde の童話をプリントで読む	12回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
5回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・確認テスト	13回目 "The Star Child" 精読・ディスカッション
6回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・確認テスト	14回目 期末試験
7回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・確認テスト	15回目 試験の解説
8回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・ディスカッション	

◆**教科書** 丸沼『The Happy Prince & Other Tales』Oscar Wilde 英光社 1,620 円（税込）（送料 215 円）

◆**参考書** 丸沼『オスカー・ワイルドの曖昧性』鈴木ふさ子著 開文社 2,484 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 每回出席することを前提として、平常点（授業への参加・貢献、予習）30%、確認テスト 30%、最終（期末）試験 40%で評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆行政管理や行政統制を中心に学びましょう

[行政学]

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：関根 二三夫

◆**学修到達目標** 行政の実施過程において、行政の目標を明確に定め、公務に従事する職員の努力を通して、その目標を統一的に実現するためにはどのような事が必要なのか、また、その実施過程において、行政部全体を外部から、また内部においてどのように統制すべきなのかを目標に学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知る得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学修** 政策の立案や決定もしくは執行がどのように行われるかを、メディアの情報等を通して考え、各单元、テキストを参考に 2 時間程度の予習と 2 時間程度の復習が必要になります。

◆**授業計画 [各 90 分]**

1回目 行政管理 ※原則を説明します。	9回目 情報公開 ※意義や沿革を説明します。
2回目 行政管理 ※機能を説明します。	10回目 情報公開 ※プライバシーの保護について説明します。
3回目 行政管理 ※コミュニケーションの機能を中心に説明します。	11回目 オンブズマン制度 ※意義や沿革を説明します。
4回目 行政管理 ※コミュニケーションの方向を中心に説明します。	12回目 わが国の行政相談 ※意義や内容を説明します。
5回目 行政管理 ※リーダーシップと指導者の役割を説明します。	13回目 地方自治 ※沿革を中心に説明します。
6回目 行政管理 ※稟議制について説明します。	14回目 戦前の官吏制から戦後の公務員制への変遷と行政との関係
7回目 行政統制 ※外在的統制を説明します。	15回目 講義内容の総括
8回目 行政統制 ※内在的統制を説明します。	

◆**教科書** 通材『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 000084）2,700 円（送料込）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、質問や小テストへの解答も重視しますので、受講に際しては欠席しないように注意して下さい。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆東北アジアの民族と交流

〔東洋史入門〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：綿貫 哲郎

◆学修到達目標 東北アジアとくに黒龍江（アムール川）下流域の先住民社会は、平和で変化がないと思われてきたが、13世紀以降にはダイナミックな動きと連動し日本を巻き込み変化に富む時代を経験する。この地域の歴史や文化そして日本と関係を学ぶことで、異文化との接触を考えることができるようになる。

◆授業方法 以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って、講義形式でおこなう。講義の理解を深めるため、視覚教材を適宜併用する。必要に応じて、授業時間内外でレポートを課す予定である。

◆準備学修 高校までに学んだ通史やキーワードの理解を前提として講義を進める。復習は隨時おこなってもらいたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス、導入	9回目 清朝と辺民社会（2）
2回目 モンゴルの権太遠征	10回目 江戸幕府の北方政策（1）
3回目 明朝のアムール・権太統治（1）	11回目 江戸幕府の北方政策（2）
4回目 明朝のアムール・権太統治（2）	12回目 江戸幕府の北方政策（3）
5回目 ヌルハチの女真統合	13回目 サンタン交易（1）
6回目 露清紛争とアムール下流域（1）	14回目 サンタン交易（2）
7回目 露清紛争とアムール下流域（2）	15回目 まとめ、試験
8回目 清朝と辺民社会（1）	

◆教科書 なし。〔当日資料配布〕 当日プリント資料を配付する。

◆参考書 授業中に適宜指示する。

◆成績評価基準 試験（60%）、平常点〔授業態度・レポートなど〕（40%）。毎回出席することを前提として総合的に評価する。

◆授業相談（連絡先）：

◆知的活動の道具としてのコンピュータ（2）

〔情報概論 A〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：中村 典裕

◆学修到達目標 この講義では、単にマニュアル通りにコンピュータが操作出来るだけの人間を育成しようとは考えていない。コンピュータを知的活動の道具として使いこなせなければならない。特にオフィスソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）が十分に活用できるだけの技術を習得する事を目標としている。

◆授業方法 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆準備学修 情報化社会と言われる現在、コンピュータやインターネットは非常に身近なものになっている。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの報道に関心を持つとともに、身近な情報機器の操作方法を改めて確認するなどの態度が望まれる。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 表計算ソフトとは、Excel 入門	9回目 Excel 演習 8、グループ化・串刺し集計
2回目 Excel 演習 1、平均・四則演算	10回目 Excel 演習 9、マクロとは何か
3回目 Excel 演習 2、グラフの活用	11回目 Excel 演習 10、VB 入門
4回目 Excel 演習 3、書式、条件付書き式	12回目 HTML の基礎
5回目 Excel 演習 4、関数入門	13回目 ICT と 21世紀の社会
6回目 Excel 演習 5、IF・表参照関数	14回目 総合演習
7回目 Excel 演習 6、フィルタ / データベース	15回目 最終課題
8回目 Excel 演習 7、ピボットテーブル	

◆教科書 特に指定しない。プリントと講義専用ウェブサイト上で資料を提供する。
(ウェブサイトのアドレスは授業中に指示する。)

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 平常点（30%）、平常課題（30%）、最終課題レポート（40%）。毎回出席する事を前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆知的活動の道具としてのコンピュータ（2）

〔情報概論 C〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：久東 義典

◆**学修到達目標** この講義では、単にマニュアル通りにコンピュータが操作出来るだけの人間を育成しようとは考えていない。コンピュータを知的活動の道具として使いこなせなければならない。特にオフィスソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）が十分に活用できるだけの技術を習得する事を目標としている。

◆**授業方法** 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆**準備学修** 情報化社会と言われる現在、コンピュータやインターネットは非常に身近なものになっている。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの報道に関心を持つと同時に、身近な情報機器の操作方法を改めて確認するなどの態度が望まれる。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 表計算ソフトとは、Excel 入門	9回目 Excel 演習 8、グループ化・串刺し集計
2回目 Excel 演習 1、平均・四則演算	10回目 Excel 演習 9、マクロとは何か
3回目 Excel 演習 2、グラフの活用	11回目 Excel 演習 10、VB 入門
4回目 Excel 演習 3、書式、条件付書き	12回目 HTML の基礎
5回目 Excel 演習 4、関数入門	13回目 ICT と 21 世紀の社会
6回目 Excel 演習 5、IF・表参照関数	14回目 総合演習
7回目 Excel 演習 6、フィルタ / データベース	15回目 最終課題
8回目 Excel 演習 7、ピボットテーブル	

◆**教科書** 特に指定しない。プリントと講義専用ウェブサイト上で資料を提供する。
(ウェブサイトのアドレスは授業中に指示する。)

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点 (30%)、平常課題 (30%)、最終課題レポート (40%)。毎回出席する事を前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆英語パラグラフの習得

〔英語 G〕

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：岡田 善明

◆**学修到達目標** パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングの学習により、英語の客観的な読解力と表現能力を育成し、即席のパラグラフ・スピーキングの能力をも習得する。

◆**授業方法** 「英語教育の精神と実践」第5章「生きた英語能力の育成」をテキストにして、パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングを基本に学び、英語読解演習と表現演習を行う。

◆**準備学修** 「英語教育の精神と実践」第5章「生きた英語能力の育成」のパラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングを読み、予習プリントの問題を必ず事前に学習する。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 パラグラフの構成と展開	9回目 問題演習
2回目 1. Development by Examples 法	10回目 5. Development by Comparison
3回目 問題演習	11回目 問題演習
4回目 2. Development by Time Order	12回目 6. Development by Cause and Effect
5回目 問題演習	13回目 問題演習
6回目 3. Development by Process	14回目 パラグラフの構成と展開まとめ
7回目 問題演習	15回目 まとめ
8回目 4. Development by Giving Reasons	

◆**教科書** 丸沼『英語教育の精神と実践』岡田善明 春風社 1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** スクーリングで紹介。

◆**成績評価基準** 試験を基本に、スクーリングの問題演習等も加味して評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆500点を目指そう！

(TOEIC A)

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：鈴木 ふさ子

◆学修到達目標 演習問題を通して、日常生活やビジネスで必要とされる基本語彙や会話表現を身につけ、基礎的な文法事項を修得します。さらに、TOEICの各Partの特徴をつかみ、時間内で解く練習をすることで、試験の形式に慣れ、本番で実力を発揮できるようにします。(※ TOEIC初心者用クラスなので、500点以上のスコアを持つ方には適さない)

◆授業方法 授業の冒頭(休憩後)にテキストの各Unitのボキャブラリーの小テストを実施。その後、予習してきた文法事項とListeningとReadingのWarm Upの答え合わせと解説をし、指定時間内にListeningとReadingの演習問題を解いた後、答え合わせと解説をします。授業内で映像を聞き取り、Listening力をつけます。

◆準備学修 テキストの冒頭にあるボキャブラリーのCDを聞いて、単語を書き取ってきて下さい。何度も聞いてわからないものがあったら、単語の意味や各Unitの内容からどの単語なのか推測した上で辞書で調べて下さい。また、各Unitの文法事項の確認、穴埋め問題、Warm Upの問題を解いて、授業時に当てられた時に答えられるように準備すること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 授業ガイダンス	9回目 小テスト Unit 8 映像の聞き取り
2回目 ミニ模擬テスト	10回目 小テスト Unit 9 映像の聞き取り
3回目 TOEICの学習方法について	11回目 小テスト Unit 9 映像の聞き取り
4回目 小テスト Unit 6 映像の聞き取り	12回目 小テスト Unit 10 映像の聞き取り
5回目 小テスト Unit 6 映像の聞き取り	13回目 小テスト Unit 10 映像の聞き取り
6回目 小テスト Unit 7 映像の聞き取り	14回目 実力テスト
7回目 小テスト Unit 7 映像の聞き取り	15回目 期末試験
8回目 小テスト Unit 8 映像の聞き取り	

◆教科書 丸沼『Kick Off for the TOEIC Test』 金星堂 2,106円(税込)(送料300円)

◆参考書 授業時に適宜紹介します。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とするので、欠席はしないようにしましょう。

平常点(授業への貢献・貢献・予習)20%, 小テスト30%, 最終試験50%で評価します。

◆授業相談(連絡先) :

◆宮沢賢治の「外国」を探る

(国文学演習)

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 賢治が「外国」をどのように受け入れていたのかを探ることにより、作家の感性や作品の本質を知ることができます。また、口頭発表することでプレゼンテーション能力も身につく。文献調査方法も身につくことで卒業論文に役立つ。

◆授業方法 各自テーマを決めて考察したものを、約20分ぐらいの時間で口頭発表してもらう。参加者は質問、意見を出し、発表者は応答するという形式である。人数分レジュメを用意して欲しい。

◆準備学修 「外国」とは、どんな国々なのか。辞典の索引などを利用し作品を読んでおいて欲しい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 学生の発表 7
2回目 賢治と外国について	10回目 学生の発表 8
3回目 学生の発表 1	11回目 学生の発表 9
4回目 学生の発表 2	12回目 学生の発表 10
5回目 学生の発表 3	13回目 学生の発表 11
6回目 学生の発表 4	14回目 学生の発表 12
7回目 学生の発表 5	15回目 まとめ
8回目 学生の発表 6	

◆教科書 特になし。各自のテーマとかかわる作品。

◆参考書 丸沼『宮沢賢治イーハトーヴ学事典』天沢退二郎他編 弘文堂 15,120円(税込)(送料460円)
『新宮沢賢治語彙辞典』原子朗 東京書籍
(上記の本は品切れのため図書館等を利用して下さい)

◆成績評価基準 発表内容(50%), 質疑応答(20%), 最終リポート(30%)

◆授業相談(連絡先) :

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の過去・現在そして未来は？

[英語史]

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：真野 一雄

◆**学修到達目標** 英文の読解力を高めるとともに、英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を修得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆**授業方法** テキストⅡ章「音韻論」・Ⅳ章「語形論」を、『学習指導書』を併用しながら、読む予定です。テキストは私達にとって必要な箇所を重点的に読みます。なお、試験は途中退出なしで実施します。

◆**準備学修** 毎回、テキスト（英文）を読み、『学習指導書』の問の解答を用意しておいてください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 Ⅱ章・母音交替	9回目 Ⅳ章・代名詞（1）
2回目 Ⅱ章・グリムの法則（1）	10回目 Ⅳ章・代名詞（2）
3回目 Ⅱ章・グリムの法則（2）	11回目 Ⅳ章・動詞（1）
4回目 Ⅱ章・母音変異	12回目 Ⅳ章・動詞（2）
5回目 Ⅱ章・大母音推移（1）	13回目 Ⅳ章・動詞（3）
6回目 Ⅱ章・大母音推移（2）	14回目 Ⅳ章・動詞（4）
7回目 Ⅳ章・名詞（1）	15回目 試験+質疑応答
8回目 Ⅳ章・名詞（2）	

◆**教科書** 通材『英語史 N30300』 通信教育教材（教材コード 000117） 2,600 円（送料込）
〈この教材は市販の『詳注ブルック英語史』 G. L. Brook（南雲堂）と同一です〉

◆**参考書** 丸沼『英語の歴史—過去から未来への物語』 寺澤盾著 中公新書 1971 842 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書 958 799 円（税込）（送料 215 円）
(※自学用で、授業中に参照することはありません。)

◆**成績評価基準** 受講状況（10%）、試験（90%）で評価の予定。6回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

◆**授業相談（連絡先）：**

◆ 17世紀フランスの哲学者が書いた教科書を通じて、 西洋近代の思考法と人間観を考察する

[哲学基礎講読]

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位 担当者：瀧田 寧

◆学修到達目標 現代の私たちが受け入れている考え方の多くが、17世紀以降の西洋で発展した学問に依拠していることを考えると、その学問の前提となる思考法や人間観を学ぶことは重要であると言える。

本講義では、17世紀フランスの哲学者たちが執筆した教科書『論理学』別名『思考の技法』（以下『思考の技法』と略記）を読み解しながら、そこに見いだされる思考方法や人間観を考察し、それを自分なりに説明できるようになることを目標とする。

◆授業方法 講義形式で進めるが、講読の授業なので、まずは皆さんにテキストを順番に読んでいただく。

但し、テキストは一読して直ちに理解できるものではないので、講師の方でも同じ文章を繰り返し読みながら解説を加える。

また、講義後は毎回「コメント」を書いていただく（1～3, 14, 15回目は除く）。

なお、講義形式なので、質問や意見等は授業後に受けるが、特に重要だと判断した講義後の「コメント」は、授業の中で紹介することもある。

◆準備学修 『思考の技法』については、テキストに収録されている解説部分を、よく読んでおきましょう。

また、本書の著者たちが影響を受けているデカルトの哲学を、『方法序説』などを通じて理解しておくことも重要です。

なお本科目は、哲学科以外の学生でも、下記①～③の意識を持つ人には馴染みやすいようです。

① 異なる時代の価値観にも寛容でいられる。

② すぐに答えを欲しがらない。

③ 自分の日常を少し掘り下げた視点から見直してみたい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 本講義の方法・計画等の説明	9回目 『思考の技法』第1部 (4)
2回目 17世紀後半の西洋思想の流れを概観する	10回目 『思考の技法』第4部 (1)
3回目 『思考の技法』の概略説明	11回目 『思考の技法』第4部 (2)
4回目 『思考の技法』の第一序説～前文 (1)	12回目 『思考の技法』第4部 (3)
5回目 『思考の技法』の第一序説～前文 (2)	13回目 『思考の技法』第4部 (4)
6回目 『思考の技法』第1部 (1)	14回目 『思考の技法』以後の展開
7回目 『思考の技法』第1部 (2)	15回目 まとめと試験
8回目 『思考の技法』第1部 (3)	

◆教科書 通材『哲学基礎講読 P20100』 通信教育教材（教材コード 000042） 3,650 円（送料込）

◆参考書 授業の中で紹介する。

◆成績評価基準 毎回（但し1～3, 14, 15回目は除く）の講義終了後に書いていただく「コメント」(50%), 試験(50%)

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ *Dubliners の The Dead を読む***[英米文学演習]****木曜日 3 時限****開講単位 1 単位****担当者：猪野 恵也****◆学修到達目標** *Dubliners の The Dead* について知り、言葉に対する感覚を身に着ける。**◆授業方法** 学生の発表を中心に進める。毎回 5 ページ程度読む予定。進め方は追って指示する。**◆準備学修** 発表をしなくてもテキストに目を通し、必ず予習をすること。**◆授業計画 [各 90 分]**

1回目 イントロダクション	9回目 <i>The Dead</i> を読む
2回目 <i>The Dead</i> を読む	10回目 <i>The Dead</i> を読む
3回目 <i>The Dead</i> を読む	11回目 <i>The Dead</i> を読む
4回目 <i>The Dead</i> を読む	12回目 <i>The Dead</i> を読む
5回目 <i>The Dead</i> を読む	13回目 <i>The Dead</i> を読む
6回目 <i>The Dead</i> を読む	14回目 補足説明
7回目 <i>The Dead</i> を読む	15回目 まとめ
8回目 <i>The Dead</i> を読む	

◆教科書 **事前資料送付** 事前にハンドアウトを配布する。**◆参考書** 授業中指示する。**◆成績評価基準** 授業への取り組み・試験により総合的に評価します。毎回出席することを前提とする。**◆授業相談 (連絡先) :****◆中国の〈いま〉を読む****[東洋史概説]****木曜日 3 時限****開講単位 2 単位****担当者：菊池 敏夫****◆学修到達目標** 辛亥革命から現在に至る約 100 年間の中国の歴史を「グローバル化」の視点から多面的に再検証し、それを土台として現代中国の当面する諸問題を洗い直すとともに、歴史のパースペクティブにおいて現代の中国が理解できるようにする。**◆授業方法** 原則として教科書に沿って講義の形で進めるが、必要に応じて発表、討議の形をとる。具体的なイメージづくりのためフォト、動画、図像など「非文字資料」も多用して具象化を高める工夫をする。**◆準備学修** 教科書を使用するので、シラバスの内容に即して当該授業の範囲を事前に熟読しておくこと。さらに、キーワードなども下調べをしておき、具体的で深みのある内容理解ができるようにしておくこと。**◆授業計画 [各 90 分]**

1回目 中国とは何か—ガイドンス	9回目 共産党中国と冷戦 社会主義へ
2回目 中華民国の誕生 20世紀初めの中国	10回目 共産党中国と冷戦 文革とその破綻
3回目 中華民国の誕生 地方の時代	11回目 共産党中国と冷戦 画一化された社会
4回目 中華民国の誕生 民族運動の展開	12回目 現代中国と世界 改革開放と天安門事件
5回目 中華民国の誕生 革命政党の政治	13回目 現代中国と世界 冷戦終結と経済成長
6回目 国民党中国と抗日 自立への模索	14回目 現代中国と世界 多様化の時代
7回目 国民党中国と抗日 戦時体制と都市	15回目 まとめ 中国の可能性と私たちの課題
8回目 共産党中国と冷戦 国共内戦	

◆教科書 **丸沼『現代中国の歴史』** 久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士 東京大学出版会 3,024 円 (税込)
(送料 300 円)**◆参考書** 指定しない。**◆成績評価基準** 授業への取り組み (2000 字程度の課題リポート 1 回あり) とテストにより総合的に評価する。毎回出席することを前提として評価する。**◆授業相談 (連絡先) :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆参考文献を読む技術の獲得をめざす

〔日本史演習〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 史学専攻生として身につける技術は、史料読解法と論文作成技術です。史料は読むだけではなく選択や読解が必要です。本演習では、特に参考文献（論文や概説）を使って、論文を執筆するために必要な技術の獲得をめざします。なお、本演習は、前期と合わせて受講すると学修効果がより高まりますが、後期のみの受講も可能です。

◆授業方法 グループワークによる学修を基本とします。はじめの数回を講師による解説とし、以後、特定の課題作業を通して、ひとつの作品を作っていくます。グループ間での話し合いや情報交換、講師の解説から、典拠史料の探索・読解、先行研究チェック、注釈付けなどの方法を作業しながら学びます。なお、課題テキストは初日に配布します。

◆準備学修 いわゆる「論文の書き方」に関する本を読んでおくとよい。毎回の授業進行・グループワークの内容・進度にあわせ、グループごとで事前学修内容を決めます。全体として事前学修すべきことは、講師から伝えます。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回目 日本史演習の方法・課題提示	9 回目 文献講読とグループ作業
2 回目 文献の基礎的情報	10 回目 文献講読とグループ作業
3 回目 Web の活用と実践	11 回目 文献講読とグループ作業
4 回目 文献註記のパターン・方法	12 回目 文献講読とグループ作業
5 回目 文献講読とグループ作業	13 回目 グループ課題最終調整
6 回目 文献講読とグループ作業	14 回目 グループ課題完成
7 回目 文献講読とグループ作業	15 回目 日本史演習総括講評
8 回目 文献講読とグループ作業	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 当日プリント配布。

◆参考書 適宜、授業のなかで紹介する。

◆成績評価基準 作業への積極度 (60%)、理解度チェック (20%)、全体講読の評価 (20%) で総合評価。なお、講義に毎回出席した場合に 100% の評価対象となります。

◆授業相談 (連絡先) :

◆マクロ経済学入門

〔経済学概論〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：陸 亦群

◆学修到達目標 この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、ミクロ経済学、マクロ経済学の 2 つの部分から構築されている。初步的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆授業方法 本講義は原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して具体例や経済動向を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆準備学修 講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆授業計画 [各 90 分]

1 回目 オリエンテーション	9 回目 貨幣需要と利子率
2 回目 マクロ経済学とは	10 回目 貨幣の供給
3 回目 マクロ経済分析の基本的枠組み	11 回目 資産市場の均衡と利子率の決定
4 回目 国民経済計算	12 回目 財市場・資産市場の均衡と IS・LM 曲線
5 回目 経済成長と物価	13 回目 IS・LM 分析と財政金融政策
6 回目 国民所得の決定	14 回目 財政赤字の経済学
7 回目 乗数と政府部門	15 回目 講義のまとめ
8 回目 資産市場と資産の特性	

◆教科書 **〔丸沼〕『Next 教科書シリーズ経済学入門』山口正春・楠谷清編 弘文堂 2015 2,160 円 (税込)
(送料 300 円)**

◆参考書 授業時に適宜指示する。

◆成績評価基準 筆記試験。基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆授業相談 (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史の中に商業を見る

〔商業史〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：横山 則孝

◆学修到達目標 商業を学ぶにあたって、ひととおり商業の歴史にも通じておくことは必要であろう。そこで、商業の歴史的展開についての概要的理解を深める。

◆授業方法 講義形式を中心であるが、必要に応じて「史料」の読みもおこなうので、その際には各自に読んでもらうことも考えている。

◆準備学修 高等学校の教科書「日本史 B」の中に登場する商業関連の用語をひろっておいてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 近世封建社会と商業	9回目 間屋制の成立
2回目 初期特権商人から新興商人へ	10回目 近世前期の商業政策
3回目 三井高利	11回目 石門心学
4回目 鴻池家	12回目 近世中後期の商業
5回目 住友家	13回目 専売制の展開
6回目 近江商人中井源佐衛門	14回目 近世奉公人制度
7回目 三井家の家訓	15回目 まとめ
8回目 三井家の歴史	

◆教科書 通材『商業史 S32100』 通信教育教材（教材コード 000197） 3,950 円（送料込）
〈この教材は市販の『日本商業史』藤田貞一郎他著（有斐閣）と同一です〉

◆参考書 『体系日本史叢書 13 流通史 1』豊田武 児玉幸多編 山川出版社
〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉

◆成績評価基準 平常点 30% 試験 70%

◆授業相談（連絡先）：

◆教師としての考え方

〔現代教職論〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 教職の意義、教員の資質、及び教員の役割、教員の職務内容（服務）、等に関する理解を深めることをねらいとする。自らの教職者としての適性を問い合わせ、教員に必要なものとは何かを考え深めることとする。現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考察していく。

◆授業方法 講義形式を中心とするが、グループワーク等の演習方式もとりいれる。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバックにより、さらに学習効果があがるよう試みる。

◆準備学修 この授業は、教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を《題材（教材）》としてとりあげ学んでいくことで、諸々の問題に対して“教員としてどのように考えるのか”という意識・心得をつくりあげられるようになります。授業以外にも、様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心をもち、のぞんでください。4・5回目までに、各々過去に受けた教育から判断できる「教員に必要とされる能力」について考え、ノート等に記し、発言の準備をしておくこと。9回目までの内容では「教師としてどのように動くべきか」という判断力について考えていくので、事前に様々なケースを想定してシミュレーションしておくこと。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 教職を履修する意味（教職の二本柱）	9回目 学級運営・教師の対応
2回目 教師の他者理解能力	10回目 諸外国の教師養成のしくみ
3回目 教師の一日・教師の成長	11回目 教師観・教員養成の歴史的変遷（近代以降）
4回目 理想の教師とは？（グループワーク）	12回目 教師（教員）・教育に関する法規
5回目 仮想・教職員会議（ロールプレイ）	13回目 教員の研修（向上するための現職教育）
6回目 最近の子ども事情（非行）	14回目 現場で求められる力とは？
7回目 最近の子ども事情（いじめ）	15回目 教師としての考え方
8回目 最近の子ども事情（不登校）	

◆教科書 [当日資料配布] 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 [当日資料配布] 授業中に指示する。適宜に資料・レジュメを配布する。

◆成績評価基準 この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Tuesdays with Morrie を読む

〔英語 H〕

木曜日 4 時限

開講単位 1 単位

担当者：大住 有里子

◆学修到達目標 辞書を片手に、英語の本を楽しめるようになることを目標とします。テキストは *Tuesdays with Morrie*。著者 Mitch がかつての大学の恩師 Morrie に再会し、人生哲学の教えを受けていく話です。私達の日常をふと思いつ返させるものがちりばめられています。英文の大まかな内容を取り、Morrie 先生の教えを味わいたいと思います。英文レヴェルは TOEIC470 ~と出版社は言っています。

◆授業方法 事前にそれぞれ予習の分担を決めます。担当の方に一段落程読んで頂き、その大まかな内容を言って頂きます。予習して分からなかったことも発表して下さい。英文構造の説明も交えて、内容を確認し、読み進めていきます。後期は前期からの続きより読み進めます。テキストは予定通りに進まないこともあります。

◆準備学修 事前にテキストを読んで授業に臨んで下さい。分からない箇所を明らかにすること。更に、わからない単語を辞書で調べ、テキスト又はノートにメモすること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス The Fourth Tuesday	9回目 The Eleventh Tuesday
2回目 The Fifth Tuesday	10回目 The Audiovisual, Part Three
3回目 The Sixth Tuesday	11回目 The Twelfth Tuesday
4回目 The Professor, Part Two	12回目 The Twelfth Tuesday
5回目 The Seventh Tuesday	13回目 The Thirteenth Tuesday
6回目 The Eighth Tuesday	14回目 The Fourteenth Tuesday
7回目 The Ninth Tuesday	15回目 後期復習と試験
8回目 The Tenth Tuesday	

◆教科書 丸沼『モーリー先生との火曜日 Tuesdays with Morrie』、Mitch Albom 講談社インターナショナル 842 円（税込）（送料 215 円）

◆参考書 指定しない。

◆成績評価基準 授業への参加の様子と試験で総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆英文法をより深く

〔英文法〕

木曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：真野 一雄

◆学修到達目標 英文学専攻の学生として必要な英文法知識を全般的により深く修得します。

◆授業方法 原則、3回の授業で 1 章を見ていきます。

テキスト本文の解説、補足説明を行います。設問、練習問題も行います。必要に応じて別途、練習問題を行うこともあります。

◆準備学修 毎回、テキストを読み、練習問題の解答を用意しておいてください。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 第6章 受動文	9回目 第9章 名詞句と文構造の多様性
2回目 第6章 受動文	10回目 第9章 名詞句と文構造の多様性
3回目 第6章 受動文	11回目 第10章 代用表現
4回目 第7章 準動詞	12回目 第10章 代用表現
5回目 第7章 準動詞	13回目 第11章 関係詞
6回目 第7章 準動詞	14回目 第11章 関係詞
7回目 第8章 形容詞	15回目 第11章 関係詞 および 試験+質疑応答
8回目 第8章 形容詞	

◆教科書 丸沼『大学生のための現代英文法』開拓社 2,376 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 丸沼『現代英文法講義』安藤貞雄 開拓社 7,128 円（税込）（送料 460 円）

◆成績評価基準 受講状況（10%）、試験（90%）で評価の予定。6 回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆『現代の哲学』を読む

〔哲学演習〕

木曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：中澤 瞳

◆**学修到達目標** 木田元の『現代の哲学』は、『反哲学史』の続編として、20世紀の思想を扱う著作である。本授業では、V章からなるこの著作のうち、I章「20世紀初頭の知的状況」、II章「人間存在の基礎構造」、III章「身体の問題」を扱う。本授業は、『現代の哲学』の内容の理解はもちろん、哲学書を読み、まとめ、説明できるようになること、また討論相手の考え方をよく聞き、理解し、さらに自分で考えるという態度を身につけることも目的とする。

◆**授業方法** 初回と2回目は講義形式で行う。また、初回では3回目以降の、各回の担当者をそれぞれ決める。

3回目以降は、担当者になったものが、教科書の担当箇所のまとめ、発表を行う。担当者は、担当回では発表だけでなく、他の参加者と意見交換、議論などを含めた話し合いの中心になる。各回の担当者以外も、意見交換、議論に積極的に参加することが求められる。

◆**準備学修** 担当者は、予め割り振られた担当箇所のまとめと発表を行うための準備を行う。

担当者は、一回の授業で、教科書とする著作『現代の哲学』の約8頁～10頁を扱うことを予定している。

担当者以外も、予め該当箇所を読んでおき、授業までに考えを整理しておく。

進行具合によっては、授業計画の一部を変更する場合があるが、その際は、隨時授業中に指示する。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス、序 (1)	9回目 『現代の哲学』 II. 4
2回目 序 (2)	10回目 『現代の哲学』 II. 5 (1)
3回目 『現代の哲学』 I. 1	11回目 『現代の哲学』 II. 5 (2)
4回目 『現代の哲学』 I. 2	12回目 『現代の哲学』 II. 6
5回目 『現代の哲学』 I. 3	13回目 『現代の哲学』 III. 1
6回目 『現代の哲学』 II. 1	14回目 『現代の哲学』 III. 2
7回目 『現代の哲学』 II. 2	15回目 『現代の哲学』 III. 3・まとめ
8回目 『現代の哲学』 II. 3	

◆**教科書** 丸沼『現代の哲学』木田元 講談社学術文庫 950円（税込）（送料215円）

【授業で使用しますので、各自で準備してください。】

◆**参考書** 授業中に随时紹介するが、たとえば 丸沼『KAWADE 道の手帖 木田元』河出書房新社 1,836円（税込）（送料300円）など。

◆**成績評価基準** 発表(30%)、授業への参加、貢献、発言(30%)、レポート(40%)により総合的に評価する。
なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆近代から現代を中心に

〔西洋思想史Ⅱ〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：中澤 瞳

◆**学修到達目標** 本授業では、近代から現代の西洋に焦点を合わせ、哲学的な思想の展開をたどっていく。哲学者たちが生きた時代はどのような時代だったのか、そこで哲学者たちはなにを考えたのかについて理解することを目指す。さらに参加者それぞれが自分の視点を意識しながら、哲学に向き合うことができるようになることも目的とする。後期は『西洋哲学史』の8章から14章までの内容の理解を目指す。

◆**授業方法** 教科書とする著作『西洋哲学史』を、各章ごと、数回に分けて読み進めつつ、まとめていく。

授業の進行具合によっては、予定は変更する場合がある。その際は、随时授業中に指示する。
授業は、講義を基本としながら、グループ・ディスカッション、小レポートなども行う。

◆**準備学修** 参加者は、事前に各回の予定箇所を読み、内容の理解に努め、考えを整理しておく。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	9回目 『西洋哲学史』 11章 (2)
2回目 『西洋哲学史』 8章 (1)	10回目 『西洋哲学史』 12章
3回目 『西洋哲学史』 8章 (2)	11回目 『西洋哲学史』 13章 (1)
4回目 『西洋哲学史』 8章 (3)	12回目 『西洋哲学史』 14章 (1)
5回目 『西洋哲学史』 9章	13回目 『西洋哲学史』 14章 (2)
6回目 『西洋哲学史』 10章 (1)	14回目 『西洋哲学史』 14章 (3)
7回目 『西洋哲学史』 10章 (2)	15回目 まとめ
8回目 『西洋哲学史』 11章 (1)	

◆**教科書** 丸沼『西洋哲学史 近代から現代へ』熊野純彦、岩波新書 928円（税込）（送料215円）

【授業で使用しますので、各自で準備してください。】

◆**参考書** 授業中に随时紹介する。

◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。
なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆史料に学ぶ「危機の時代」

〔東洋史演習〕

木曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 日中戦争から太平洋戦争に至る「危機の時代」について『尾崎秀実時評集』を講読しながら、史料批判・研究史整理など歴史研究ための基礎力を養成します。

◆授業方法 テキスト史料・米谷匡史編『尾崎秀実時評集』(平凡社 東洋文庫)を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆準備学修 予めテキスト史料を学習し講読の準備を行う。また研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 講義「尾崎秀実とその時代」	9回目 史料講読・報告・討論(7)
2回目 史料講読・報告・討論(1)	10回目 同上(8)
3回目 国会図書館見学	11回目 同上(9)
4回目 同上(2)	12回目 同上(10)
5回目 同上(3)	13回目 同上(11)
6回目 同上(4)	14回目 同上(12)
7回目 同上(5)	15回目 後期総括討論
8回目 同上(6)	

◆教科書 丸沼『尾崎秀実時評集』米谷匡史編 平凡社(東洋文庫) 3,024円(税込)(送料300円)

◆参考書 授業時に適宜紹介します。

◆成績評価基準 講読・発表(60%)、平常点(20%)、リポート(20%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆授業相談(連絡先) :

◆オープンマクロと世界経済

〔国際経済論〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：陸 亦群

◆学修到達目標 戦後の国際経済の発展過程をたどり、国際経済学に関する基礎理論としての比較優位の理論や国際貿易に関する基礎的な理論、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について解説し、グローバル経済の進展および国際経済問題に関する幅広い知識を提供する。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆準備学修 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論(経済学原論)、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を温故し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 オリエンテーション	9回目 国際マクロ経済政策②
2回目 国際収支統計	10回目 外国為替相場の決定メカニズム①
3回目 外国為替市場	11回目 外国為替相場の決定メカニズム②
4回目 対外収支と貯蓄投資バランス	12回目 為替相場の変動と市場介入
5回目 外国貿易乗数と弾力性アプローチ	13回目 外国為替制度の選択と国際通貨制度
6回目 マクロ経済分析の基礎	14回目 市場化とグローバリゼーション
7回目 IS-LM-BP 分析	15回目 講義のまとめ
8回目 国際マクロ経済政策①	

◆教科書 通材『国際経済論 R31100』通信教育教材(教材コード 000281) 1,950円(送料込)

◆参考書 講義内容に応じて随時紹介する。

◆成績評価基準 筆記試験。国際経済学の基礎知識を身に付けているかを判定する。

◆授業相談(連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆哲学・宗教・倫理の教材をつくる**[社会科・公民科教育法Ⅰ]****木曜日 5 時限****開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹**

◆学修到達目標 社会科・公民科教育の目的と教育内容について理解を深め、実践的な授業方法を身につけられるようになる。「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各分野について必要とされる基礎知識を学び、適する教授方法を考えていく。特に「倫理」「哲学」「宗教」の課題を中心にして授業づくりをしていきたい。

◆授業方法 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自1回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆準備学修 中学校（社会科）・高等学校の公民科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておくと、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 公民科授業のねらい（学習指導要領）	9回目 模擬授業（2）
2回目 中学校「社会」の指導要領とねらい	10回目 模擬授業（3）
3回目 指導案作成の方法と授業の手法	11回目 生徒参画型の授業設計
4回目 「思考力」「言語活動」を含む授業計画	12回目 模擬授業（生徒参画型の授業）
5回目 「倫理」の授業づくり（古代の思想）	13回目 観点別評価をマスターする
6回目 「倫理」の授業づくり（中世の宗教観）	14回目 公民科教員としての授業力とは
7回目 「倫理」の授業づくり（近代の哲学）	15回目 総括（教材・授業設計の確認）
8回目 模擬授業（研究成果を授業に反映する）	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆成績評価基準 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆市民に役立つ刑事訴訟法

〔刑事訴訟法〕

金曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：船山 泰範

◆学修到達目標 市民の目で刑事訴訟法を見ることにするが、後期では、応用問題に取り組む。なお、刑法のまとめを行う。

◆授業方法 講義を中心とするが、質問の時間を設けるので、遠慮なく質問し、できるだけ疑問を解消してほしい。刑務所参観（あるいは更生施設）を組み込むので、必ず参加すること。

◆準備学修 教科書ならびに参考書を予習して臨んでほしい。刑法総論・各論を復習しておいて頂きたい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 刑法に見る刑事訴訟法	9回目 少年法は刑訴法の究極か
2回目 犯罪阻却理論のねらい	10回目 違法収集証拠の排除法則
3回目 規範としての刑事訴訟法	11回目 疑わしきは被告人の利益に
4回目 なぜ社会的弱者が起訴されるか	12回目 死刑存廃論
5回目 冤罪の責任は誰が負う	13回目 なぜ刑事の模擬裁判でなければならないか
6回目 量刑の判断基準	14回目 法育をすすめる
7回目 懲役刑は再犯防止に役立っているか	15回目 刑務所参観（更生施設）・まとめ
8回目 取り返しがつかない刑罰は許されるか	

◆教科書 丸沼『NEXT 教科書シリーズ 刑事訴訟法』関正晴編 弘文堂 2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 丸沼『NEXT 教科書シリーズ 刑事法入門』船山泰範編 弘文堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 期末試験 80%，平常点 20%。

◆授業相談（連絡先）：

◆中国古代の哲学思想

〔東洋思想史 I〕

金曜日 1 時限

開講単位 2 単位 担当者：本間 直人

◆学修到達目標 中国古代の哲学思想を概観します。後期は荀子、老子、莊子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の学者・思想家たちの言葉は国を超えて、時代を超え、現代に生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。

さらに、研究の意義、必要性などについても学びます。

◆授業方法 中国古代の学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら、発表形式で授業を行います。又、レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが、漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めています。したがって、東洋思想に興味を持ちながら、漢文に対する抵抗感から、今まで本格的な学習を思いとどまっていた方の受講も歓迎します。

◆準備学修 授業で取り上げる学者・思想家についての参考書は、数多く出版されています。図書館、又は書店で実際に手に取り、気に入った本を読んでみて下さい。すんなりと頭に入る事柄もあれば、すぐには理解できない事柄もあることでしょう。しかしながら、そのことについて、じっくりと時間をかけ、自分の頭で考えることは、これから学習に特に重要なことです。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス・荀子の思想について（人物・生涯）	9回目 老子の思想について（<道>の体現）
2回目 荀子の思想について（理論的思惟）	10回目 老子の思想について（<道>の展開—市中の隠者—）
3回目 荀子の思想について（定命論）	11回目 老子の思想について（<道>の行為—<無為>—）
4回目 荀子の思想について（礼）	12回目 莊子の思想について（人物・生涯）
5回目 荀子の思想について（定命論的礼理論と宿命論的現象）	13回目 莊子の思想について（万物齊同）
6回目 荀子の思想について（定命論的礼理論の限界）	14回目 莊子の思想について（その人となり）
7回目 老子の思想について（<道>—真理・力—）	15回目 学習内容のまとめ・試験
8回目 老子の思想について（<道>への道程—修行—）	

◆教科書 通材『東洋思想史 I P20300』通信教育教材（教材コード 000392）1,900 円（送料込）
【当日資料配布】プリント配布（当日）。漢和辞典を用意してください。

◆参考書 使用しません。

◆成績評価基準 授業への取り組み（発表等）・レポート・テストにより総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「反哲学」からみる哲学

[哲学 B]**金曜日 2 時限****開講単位 2 単位 担当者：中澤 瞳**

◆学修到達目標 本授業は、前期に引き続き『反哲学史』を取りあげ、木田の目を通した哲学史について知り、さらに参加者それぞれが自分の視点を意識しながら、哲学に向き合うことができるようになることを目的とする。後期は『反哲学史』の7章から10章までの理解を目指す。

◆授業方法 教科書とする著作『反哲学史』を、一回の授業で約8頁を読み進めつつ、まとめていく。
授業の進行具合によっては、予定は変更する場合がある。その際は、随時授業中に指示する。
授業は、講義を基本としながら、グループ・ディスカッション、小レポートなども行う。

◆準備学修 参加者は、事前に各回の予定箇所を読み、内容の理解に努め、考えを整理しておく。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	9回目 『反哲学史』9章(2)
2回目 『反哲学史』7章(1)	10回目 『反哲学史』10章(1)
3回目 『反哲学史』7章(2)	11回目 『反哲学史』10章(2)
4回目 『反哲学史』7章(3)	12回目 『反哲学史』10章(3)
5回目 『反哲学史』7章(4)	13回目 『反哲学史』10章(4)
6回目 『反哲学史』8章(1)	14回目 『反哲学史』10章(5)
7回目 『反哲学史』8章(2)	15回目 まとめ
8回目 『反哲学史』9章(1)	

◆教科書 **丸沼**『反哲学史』木田元、講談社学術文庫 972円（税込）（送料215円）
【授業で使用しますので、各自で準備してください。】

◆参考書 授業中に随时紹介する。

◆成績評価基準 授業への参加、貢献(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)により総合的に評価する。
なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中学英語を仏語に変換します

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 2 時限

開講単位 1 単位 担当者：大庭 克夫

◆学修到達目標 英語にすれば中1～中2レベルの内容が、フランス語で言えて・書けて・聴き取れるようになるのが目標です。また11月のフランス語検定試験5級（意欲のある人なら4級も可能）にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業でも過去問を使ってそのための演習時間を割く予定です。

◆授業方法 後期は何といつても不規則動詞の活用（大切なものの10数種類）を身に付けるのがメインです。授業自体は前期同様＜ゼミ形式＞で進めています。1回の業で最低5～6回は当てて答えてもらいます

◆準備学修 外国語の学習はレンガを1段ずつ積み上げていくのと同じです：2段目のレンガは1段目の上にしか載せられないように、仏語も前週の内容をきちんと身につけない限り次週の内容を習得することは不可能です。その意味で、授業で習った事柄しっかり覚えてから次の授業に臨んでください。これが取りも直さず最大の予習です。

◆授業計画〔各90分〕

1回目 数・曜日・月・季節の習得1	9回目 仏語検定試験演習2
2回目 数・曜日・月・季節の習得2	10回目 不規則動詞の活用と用例4
3回目 <第2規則動詞>の活用と用例	11回目 不規則動詞の活用と用例5
4回目 不規則動詞の活用と用例1	12回目 不規則動詞の活用と用例6
5回目 不規則動詞の活用と用例2	13回目 期末試験範囲まとめとヒヤリング演習
6回目 不規則動詞の活用と用例3	14回目 後期期末試験
7回目 後期中間試験	15回目 期末試験の返却と解説、今後の課題
8回目 仏語検定試験演習1	

なお初めて習う外国語ですから授業への出席は必須ですが、覚える努力を伴わない出席は完全に無意味であることをお忘れなく。授業はあくまで仏語の仕組みを説明することしかできません：授業で習った事柄を時間と労力を割いて覚えることこそが履修です。

◆教科書 授業時で用いるプリントとCDはこちらで配布します。いずれも市販の教科書よりはるかに分かりやすく・丁寧にできているという自信はあります。

◆参考書 **通材**『フランス語Ⅰ E10100』通信教育教材（教材コード000372）2,650円（送料込）

通材『フランス語Ⅱ E10200』通信教育教材（教材コード000373）2,500円（送料込）

週に1回の授業だけでは文法・語彙ともに扱えることは限られます。それを補う意味でこの2冊は最適です〔特に検定4級を目指すならば〕。

◆成績評価基準 試験は中間と期末の2回行い、成績はこの試験の結果＝努力の結果で判定します。なお試験は全問<和文仮訳>と<ヒヤリング形式>（原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・択一等は一切出題しません。

◆授業相談（連絡先）：

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆東欧とロシアの歴史

〔西洋史特講Ⅰ〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：池本 今日子

◆**学修到達目標** ヨーロッパ諸国の国家や社会のあり方について、近世を中心に学びます。近世の統治体制といえば絶対主義ですが、絶対王政下において、君主は、かつてイメージされたような権力を実際には持っていました。また、この時代、ヨーロッパ諸国における王権と貴族の関係はじつに様々でした。後期はロシアとポーランドを取り上げます。

◆**授業方法** 講義を行います。受講生にアクション・ペーパーを任意に提出してもらい、授業の冒頭で復習をかねて、その中から質問に答えます。

◆**準備学修** それぞれの国の歴史の流れについて予習しておくこと。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 導入	9回目 モスクワ大公国
2回目 『法の精神』における共和政	10回目 ピョートル大帝の改革
3回目 ポーランド中世	11回目 エカテリーナ2世の改革
4回目 ポーランド貴族共和政	12回目 19世紀ロシア
5回目 ヘンリク条項	13回目 ロシア近代化とヨーロッパ
6回目 ポーランド分割と5月3日憲法	14回目 ポーランドとロシア
7回目 分割後のポーランド	15回目 まとめ
8回目 『法の精神』におけるロシア	

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 当日プリント配布。

◆**参考書** 教場で紹介する。

◆**成績評価基準** 試験の成績で評価するが、アクション・ペーパーの提出があれば、その内容を考慮する。

◆**授業相談(連絡先)：**

◆市場のコミュニケーション

〔広告論〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：樋口 紀男

◆**学修到達目標** マーケティングや広告は社会や市場の変化の兆しを読み、対応することが求められます。後期では前期の応用として、具体的に戦略立案を中心に進めます。戦略立案のポイントを習得できるようにします。

◆**授業方法** 基本的には、テキストとプリント配布によって講義中心に進めます。さらに、受講生の疑問や意見に答えるようにするために、授業の後アクション・ペーパーを提出していただき翌週の授業で応えるようにします。

◆**準備学修** 講義で使われる言葉が多岐に渡りますので、事前にテキストに目を通すこと。さらに、事典辞書で言葉の意味を調べる癖をつけて下さい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンスと後期の授業コンセプト	9回目 グローバル化とは何か
2回目 商学と広告、マーケティング	10回目 グローバル広告戦略
3回目 マーケティングと広告	11回目 インターネットの特性
4回目 メディア・情報・メッセージ	12回目 インターネット広告戦略
5回目 マーケティングの変遷	13回目 広告の新たな方向性
6回目 統合型マーケティング	14回目 広告のメタ構想力
7回目 ブランドは何か	15回目 まとめ（後期総括）
8回目 ブランド広告戦略	

◆**教科書** **〔通材〕『広告論 S30900』** 通信教育教材（教材コード 000481）1,500円（送料込）

◆**参考書** **〔因沼〕『高校生のための評論文キーワード』** 中山元 ちくま新書 842円（税込）（送料 215円）

◆**成績評価基準** アクション・ペーパーに基づく平常点（30%）、小テストまたはリポート（20%）、学年末試験（50%）

◆**授業相談(連絡先)：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世の中の出来事を英語で読もう！2

〔英語 J〕

金曜日 3 時限

開講単位 1 単位 担当者：中村 則子

◆学修到達目標 英語で書かれた社会事象についての文章を読むことで、英文読解のスキルを向上させる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストは reading の学習のみならず、その他の英語技能 (listening, speaking, writing) も学べるよう構成されている。テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、これらの4技能を習得していく。毎回、英文読解の発表をしてもらうことになる。小グループに分かれての活動も考えている。授業の進み具合により、シラバス通りにいかない場合があることをおことわりしておく。

◆準備学修 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、テレビのニュースをまず、日本語放送で聞く、二か国語対応のニュースを英語で聞く、日本語の新聞を読む、やさしく解説してあるような英字新聞を読む等により、世界でおこっている出来事に興味をもち、まずは日本語で、そして英語でメディアから情報を入手する作業をしてほしい。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス	9回目 Uni10 Sushi
2回目 Unit7 Academy Awards	10回目 Uni11 Living in a Ubiquitous Society
3回目 Unit7 Academy Awards	11回目 Uni11 Living in a Ubiquitous Society
4回目 Unit8 California, Here I Come	12回目 Unit12 The "Freeter" Phenomenon
5回目 Unit8 California, Here I Come	13回目 Unit12 The "Freeter" Phenomenon
6回目 Uni9 Anyone for a Cup of Tea?	14回目 復習
7回目 Uni9 Anyone for a Cup of Tea?	15回目 まとめ
8回目 Uni10 Sushi	

◆教科書 丸沼『A Complete College English Program Book 1』 土屋武久他著 金星堂 1,890 円（税込）
(送料 215 円)

◆参考書 ガイダンスにて指示。〔当日資料配布〕適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆授業相談（連絡先）：

◆政治を見る眼を養う

〔政治学原論〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：吉野 篤

◆学修到達目標 主として現代の政治過程のさまざまなアクター、中でも政党、選挙制度を中心に取り上げ、政治過程の諸側面について考察することで、政治の現実的な営みを理解すること。併せて 20 世紀の政治学の歩みを振り返ることで、学問としての政治学の概要を理解すること。

◆授業方法 基本的には講義形式で行い、時宜に応じて新聞報道を題材として配布し、現実の政治問題がどのように生起し、どのような解決を迫られているかを考える。

◆準備学修 メディアの政治報道を注意深く観察して、興味を高めること。もちろん、テキストの該当箇所をよく読み、問題点を整理すること。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 政治過程論の概説	9回目 政治過程論の概要
2回目 大衆社会論	10回目 シカゴ学派の生成と展開
3回目 政党の概念と機能	11回目 行動論政治学の特質
4回目 政党システムの分析枠組み①	12回目 政治システム論の概要
5回目 政党システムの分析枠組み②	13回目 脱行動論革命について
6回目 選挙の意義と機能	14回目 政治学の新展開①
7回目 選挙制度の諸側面	15回目 政治学の新展開②・まとめ
8回目 アメリカ政治学の特質	

◆教科書 丸沼『政治学』山田光矢編著 弘文堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 授業の中で指示する。

◆成績評価基準 基本的には期末試験で評価する。場合によっては出席点を加味する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界、日本とのアメリカ経済の学修

[アメリカ経済論]

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：小林 通

◆**学修到達目標** 本講義の到達目標は、アメリカ経済の動向を時系列的経緯や経済理論との関連によって学修し、そこから現実のアメリカ経済が、世界・日本経済にどのような影響を与えているのかを理解することにあります。具体的には新聞・雑誌に掲載されているアメリカに関する経済記事や経済問題を世界との動向でそれを理解できることにあります。

◆**授業方法** 授業方法は、講義の内容が一方的にならないように注意し、その理解度を勘案して双方的な関係で受講生の自主性や学習意欲を高めるように工夫します。具体的には受講生の質問を通じてその理解度を測ったり、単元ごとに講義の内容に沿った課題を授業中に出題し、受講生みんなでその問題について回答するように進めていきます。

◆**準備学修** 準備学修は、以下のような授業計画によって講義を進めていますが、講義の内容や時間の都合によって思ったように実施できないこともあります。そのため受講生は、新聞などをできるだけ毎日読むようにしていただきたいと思います。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 1970 年代のアメリカ経済	9回目 リーマン・ショック
2回目 2 度のオイル・ショック	10回目 サブプライムローン問題
3回目 ニクソン・ショック	11回目 アメリカ経済不況の影響
4回目 スミソニアン合意	12回目 北米自由貿易協定
5回目 レーガノミクスの実施	13回目 TPP とアメリカ経済
6回目 G5 のプラザ合意	14回目 TPP における米国の役割
7回目 レーガノミクスの明暗	15回目 今後のアメリカ経済・まとめ
8回目 グローバル化時代の米国	

◆**教科書** 使用せず。

◆**参考書** 丸沼『国際政治経済学新論』川戸 円居 小林共編 時潮社 2013 年 3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 受講生の出席を前提として、単位ごとの終了した後の課題、小テストおよび学期末試験の成績により評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆分析手法の背景を理解する

[市場調査論]

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位 担当者：最上 健児

◆**学修到達目標** 分析手法を前提とするデータの形式を理解する
最小二乗法と非線形最小二乗法の違いを理解する。
二項ロジットモデルとロジスティック回帰分析の違いを理解する

◆**授業方法** 各回の講義の前半の時間を使い、その日に使う数学的な質問を確認し、各種の統計モデルを詳細に説明する。

◆**準備学修** 毎回の授業では一回ごとに完結する話題となるよう配慮しているが、全講義を通じて大きな一つの話題を取り扱っている。欠席した場合などは欠席したときの資料を熟読し、内容を把握しておくことが望ましい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 x^n の微分と対数変換	9回目 第一種極値分布
2回目 需要の価格弾力性	10回目 2 項ロジットモデルの確率的部分
3回目 確率の推定方法	11回目 2 項ロジットモデルの確定的部分
4回目 ロジスティック曲線	12回目 多変数化と選択肢固有の魅力度
5回目 ロジスティック変換による推定	13回目 多項ロジットモデル
6回目 最尤推定による夕推定	14回目 無関係な選択肢からの独立性
7回目 ロジスティック回帰分析の解釈	15回目 まとめ
8回目 2 項ロジットモデルと確率の公理	

◆**教科書** インターネットより配信する
http://www.geocities.jp/mogami_shiryoukan/

◆**参考書** 丸沼『リテールデータ分析入門』上田 隆穂他（株）中央経済社 発行 3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** レポートにより評価する。（100%）

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆現代の国際社会

〔社会学 A〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：服部 慶亘

◆学修到達目標 今や、この地球において異文化や諸外国と接触せずに日常生活を送ることは不可能に近いと言える。本講義は、そんな現実を前提としつつ、受講学生が社会学的な視点から国際社会や異文化交流を多角的にとらえられるようになることを目的として開講される。

◆授業方法 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD, DVD, マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。

◆準備学修 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義目標・目的の確認	9回目 代表的国家体制④ 国家の所有者
2回目 国際社会とは？① 国家の定義	10回目 国際関係と温度差① 歴史問題
3回目 国際社会とは？② 国家と社会	11回目 国際関係と温度差② 情報の循環過程
4回目 国際社会とは？③ 宇宙船地球号	12回目 国際社会と大衆文化① 大衆文化の定義
5回目 国際社会とは？④ 國際空港	13回目 国際社会と大衆文化② コンテンツ
6回目 代表的国家体制① 思想的区分	14回目 国際社会と大衆文化③ 韓流その前後
7回目 代表的国家体制② 財産所有	15回目 まとめ
8回目 代表的国家体制③ 主権者	

◆教科書 前期の「社会学」で使用した教科書・参考書（のいずれか）を使用する予定（開講時に指示）。

◆参考書 現在出版準備中の文献を使用する予定のため、開講時に指示。

◆成績評価基準 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆授業相談（連絡先）：

◆楽しみながら学ぶ英語の基礎2

〔英語基礎 B〕

金曜日 4 時限

開講単位 1 単位 担当者：中村 則子

◆学修到達目標 英語の基本文法を早い演習問題を解きながら楽しんで学んでいく。
最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の4技能のうち主に reading のスキルを習得していく。毎回、発表をしてもらうことになる。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおこごわりしておく。

◆準備学修 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、やさしく解説してあるような英字新聞を読んだり、英語の曲を聴いたり、洋画を見たりと、とにかく英語の世界に触れてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンス	9回目 Unit19 受動態、Unit20 5文型
2回目 Unit13 時の前置詞	10回目 Unit20 5文型、Unit21 比較
3回目 Unit13 時の前置詞、Unit14 場所の前置詞	11回目 Unit21 比較、Unit22 接続詞
4回目 Unit14 場所前置詞、Unit15 不定詞動名詞	12回目 Unit22 接続詞、Unit23 助動詞
5回目 Unit15 不定詞動名詞、Unit16 現在完了	13回目 Unit23 助動詞、Unit24 関係詞節
6回目 Unit16 現在完了、Unit17 too / enough	14回目 Unit24 関係詞節、復習
7回目 Unit17 too / enough、Unit18 句動詞他	15回目 まとめ
8回目 Unit18 句動詞他、Unit19 受動態	

◆教科書 丸沼『Reading Steps』 Robert Hickling 他著 金星堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 ガイダンスにて指示。適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本政治の今を考える（2）

〔政治学特殊講義〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：秋山 和宏

◆学修到達目標 日本の政治を理解し、考える力を向上させる。本講においては、政治過程の観点から日本の政治の「現状」と「問題点」について学ぶ。

◆授業方法 主に講義のかたちで進めるが、質疑応答を交えたものにしたい。

◆準備学修 授業の性格上時事的な政治問題に強い関心を払ってほしい。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 日本政治の諸アクター (1) 概観	9回目 日本政治過程 (1) 選挙過程
2回目 // (2) 有権者<1>	10回目 // (2) 立法過程
3回目 // (2) 有権者<2>	11回目 // (3) 予算編成過程
4回目 // (3) 政治家と官僚<1>	12回目 // (4) 中央・地方関係
5回目 // (3) 政治家と官僚<2>	13回目 わが国の政治の問題点と課題 (1) 問題の所在
6回目 // (4) 政党	14回目 // (2) 課題についての考察
7回目 // (5) 圧力団体	15回目 // (3) 展望・まとめ
8回目 // (6) マスメディア	

◆教科書 指定しない。

◆参考書 **畠沼『新版現代政治の理論と諸相』秋山和宏編著 三和書籍 3,240 円（税込）（送料 350 円）**

◆成績評価基準 試験（70%）とレポート（30%）で評価。

◆授業相談（連絡先）：

◆近世芸能の世界－演劇と音曲－

〔国文学概論〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：山崎 泉

◆学修到達目標 近世文学には多種多様なジャンルが存在しますが、本講義では芸能、その中でも特に演劇と音曲を取り上げます。

近世に花開いた演劇の二大種目である人形浄瑠璃と歌舞伎、さらには演劇と共に今まで脈々と継承され続けてきた音曲の世界を概観することにより、生きた古典作品の魅力発見を目指します。

◆授業方法 主に講義形式で行います。配布したプリントの内容に即した講義を行って各ジャンルの特色及び歴史を概観した後、文字資料及び視聴覚資料を活用した作品の鑑賞を行い、具体的な作品への理解を深めていきます。

◆準備学修 図書館にある文学史関連の文献を活用して、近世文学史を一通り予習しておいて下さい。また、『国文学概論』テキストの「浄瑠璃」「歌舞伎狂言」の項目にも目を通しておきましょう。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 三味線の伝来と人形浄瑠璃・歌舞伎	9回目 作品鑑賞（江戸歌舞伎と所作事）①
2回目 浄瑠璃の歴史とその作品①	10回目 作品鑑賞（江戸歌舞伎と所作事）②
3回目 浄瑠璃の歴史とその作品②	11回目 音曲の歴史とそのジャンル①
4回目 作品鑑賞（時代物と世話物）①	12回目 音曲の歴史とそのジャンル②
5回目 作品鑑賞（時代物と世話物）②	13回目 作品鑑賞（江戸長唄・豊後系浄瑠璃）①
6回目 歌舞伎の歴史とその作品①	14回目 作品鑑賞（地歌筝曲・古曲）②
7回目 歌舞伎の歴史とその作品②	15回目 現代に生きる音曲・まとめ
8回目 歌舞伎の歴史とその作品③	

◆教科書 **〔当日資料配布〕** 当日、プリントを配布します。

◆参考書 授業時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）、試験（80%）。毎回出席することを前提として採点します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界の多様な宗教を理解する2

[宗教学概論]

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位 担当者：合田 秀行

◆学修到達目標 世界の諸宗教に関する幅広い知識の習得を目的とする。特に後期は、日本とも関わりの深い仏教や神道を軸として、その歴史的変遷とともに現代におけるそれぞれの在り方についても確認する。最後に宗教学に特有な方法論とその意味を理解する。

◆授業方法 指定した教科書に基づいて、講義形式で進めますので、必ず下記のテキストを用意して下さい。第一章後半から第二章までは、テキストに従って進めていきますが、第三章・第四章の宗教学用語の解説と第五章の基本文献の紹介については、随時、具体的な宗教の概説と関連づけるなどして取り上げます。映像資料も活用して理解を深めます。

◆準備学修 予め指定した教科書の範囲に目を通して講義に臨んで下さい。特に講義の軸となる第一章「世界の諸宗教」の第6節から第14節の概説が軸になりますので重点的に予習しておくこと。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 インドの宗教1 ヒンドゥー教	9回目 神道・民俗信仰1
2回目 インドの宗教2 映像資料鑑賞	10回目 神道・民俗信仰2
3回目 インドの仏教1	11回目 新宗教・ニューエイジ
4回目 インドの仏教2 映像資料鑑賞	12回目 宗教へのアプローチ
5回目 中国・朝鮮半島の仏教	13回目 宗教学の方法と意味の探究1
6回目 日本の仏教1 南都仏教・平安仏教	14回目 宗教学の方法と意味の探究2
7回目 日本の仏教2 鎌倉仏教	15回目 まとめ
8回目 道教・儒教	

◆教科書 丸沼『宗教学入門』棚次正和・山中弘編著 ミネルヴァ書房 3,024円（税込）（送料 300円）

◆参考書 講義内で指示します。また、教科書の各節の末尾にある「参考文献」も参照のこと。

◆成績評価基準 平常点(30%)、試験(70%) 講義に取り組む姿勢と試験などで総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：

◆言語と私たちの関わり

[英語学演習]

金曜日 5 時限

開講単位 1 単位 担当者：青木 克憲

◆学修到達目標 言語分類法、言語と方言の違い、言語の変遷、規範主義と記述主義等言語学に関する問題を扱ったテキストを使い、その理解を深める。

◆授業方法 受講生に発表してもらう形で授業を行なう。本文の英文は5行ぐらい和訳してもらいうその後で説明・補足などを加えて内容を検討する。練習問題は解答を答えてもらう。

◆準備学修 シラバスを参照して、次回に行なう箇所の中で辞書を引き、内容をまとめておくこと。問題は自分の解答を用意しておくこと。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 The Role of Teaching Methods	9回目 言語の変遷について（補足説明）
2回目 Ways of Organizing Languages	10回目 Prescriptivism and Descriptivism
3回目 Ryukyuan : Language or Dialect	11回目 Loan words
4回目 Official Languages : Harmful or Beneficial	12回目 規範主義と記述主義、借用語について（補足説明）
5回目 言語と方言について（補足説明）	13回目 Why do Languages Disappear
6回目 The English-Only Movements in the u.s.	14回目 授業全体のまとめ
7回目 Esperante	15回目 試験
8回目 Language Change	

◆教科書 丸沼『Language and Our World』三修社 1,944円（税込）（送料 215円）

◆参考書 授業中に必要に応じて紹介します。

◆成績評価基準 授業への取り組み（予習状況、練習問題）(30%) 試験(70%) で評価します。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史の論文を書く**[西洋史演習]****金曜日 5 時限****開講単位 1 単位 担当者：藤井 信行**

- ◆学修到達目標** 4年間の歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。授業をとおして卒業論文のテーマ決定、文献目録の作成、研究史の整理、資料の収集、文献の読解などを指導し、歴史の論文を書くことを学びます。西洋史での卒業論文を予定している学生は、3年次・4年次と継続して受講することが望ましい。
- ◆授業方法** 「第一次世界大戦の勃発とイギリス外交政策」をケーススタディとして、文献目録の作成、研究史の整理、文献の読解などをゼミナール形式の授業で行います。3年生は同じステップを各自の論文のテーマで行い、4年生はこうしたステップを各自のテーマでいま一度確認するとともに、二度の報告をとおして論文の章立て、実証方法、脚注の書き方などを学びます。
- ◆準備学修** 3年生は卒業論文のテーマになるような出来事・人物などを考えておいてください。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 参考文献目録の提出	9回目 研究史の整理④
2回目 3年生の卒論テーマ決定①	10回目 論文を読む①
3回目 同②	11回目 同②
4回目 4年生の卒論最終報告①	12回目 同③
5回目 同②	13回目 同④
6回目 研究史の整理①	14回目 3年生／卒論の章立て①
7回目 同②	15回目 同②／研究史整理の提出
8回目 同③	

◆教科書 特に使用せず。**〔当日資料配布〕**プリントを配付する。**◆参考書** 特になし。**◆成績評価基準** レポート2回（前・後期）50%，報告内容50%**◆授業相談（連絡先）：****◆情報検索・Web ページ作成法****[情報概論 B]****金曜日 5 時限****開講単位 2 単位 担当者：一島 力男**

- ◆学修到達目標** まず、Windows 8 の基本操作とネットワーク上のパソコン利用について学ぶ。その上で、WWWによる情報収集、HTML と CSS を利用した Web ページの作成について学ぶ。
- ◆授業方法** 本講座では講義と演習の両方を行う。講義ではコンピュータネットワークの仕組と歴史などについて学ぶ。演習では、Web ページを作成することができるよう課題に取り組む。
※授業は、Windows 8 の環境で実施する。
- ◆準備学修** Windows 8 の環境でのパソコン操作を確認しておくこと。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 ガイダンス	9回目 授業内テスト 1
2回目 コンピュータネットワークについて	10回目 CSS の基礎
3回目 ネットワーク環境と Windows 8 の基本操作	11回目 CSS の応用 1
4回目 メモ帳とペイントの活用法	12回目 CSS の応用 2
5回目 HTML の基礎	13回目 CSS の応用 3
6回目 HTML の応用 1	14回目 総合課題
7回目 HTML の応用 2	15回目 まとめ
8回目 HTML の応用 3	

◆教科書 指定しない。**◆参考書** 授業中に指示する。**◆成績評価基準** 実習課題（30%）、提出課題（30%）、授業内テスト（60%）により総合評価する。**◆成績評価基準** ※授業に毎回出席することを前提に評価する。**◆授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆現代の国際社会

〔社会学 B〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位 担当者：服部 慶亘

◆**学修到達目標** 今や、この地球において異文化や諸外国と接触せずに日常生活を送ることは不可能に近いと言える。本講義は、そんな現実を前提としつつ、受講学生が社会学的な視点から国際社会や異文化交流を多角的にとらえられるようになることを目的として開講される。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD, DVD, マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。

◆**準備学修** 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 講義目標・目的の確認	9回目 代表的国家体制④ 国家の所有者
2回目 国際社会とは？① 国家の定義	10回目 國際関係と温度差① 歴史問題
3回目 国際社会とは？② 国家と社会	11回目 國際関係と温度差② 情報の循環過程
4回目 国際社会とは？③ 宇宙船地球号	12回目 国際社会と大衆文化① 大衆文化の定義
5回目 国際社会とは？④ 國際空港	13回目 国際社会と大衆文化② コンテンツ
6回目 代表的国家体制① 思想的区分	14回目 国際社会と大衆文化③ 韓流その前後
7回目 代表的国家体制② 財産所有	15回目 まとめ
8回目 代表的国家体制③ 主権者	

◆**教科書** 前期の「社会学」で使用した教科書・参考書（のいずれか）を使用する予定（開講時に指示）。

◆**参考書** 現在出版準備中の文献を使用する予定のため、開講時に指示。

◆**成績評価基準** 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マクロ経済学**〔経済学〕**

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：田村 和彦

◆学修到達目標 経済諸問題についての理解力・思考力を高めてもらいたい。

◆授業方法 講義方式。

◆準備学修 各自教科書を読み、予習すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 完全競争市場	9回目 国民所得の計算①
2回目 不完全競争市場	10回目 国民所得の計算②
3回目 貨幣経済①	11回目 ケインズ型消費関数
4回目 貨幣経済②	12回目 国民所得の決定
5回目 マクロ経済学の定義	13回目 投資乗数・乗数効果・公共投資
6回目 国民経済の構造と循環	14回目 景気循環
7回目 国民資本と国民所得	15回目 経済の情報化とグローバル化・まとめ
8回目 国民所得の定義	

◆教科書 通材『経済学 B11800』 通信教育教材 (教材コード 000450) 1,950 円 (送料込)

内沼『経済学』瀬川浩・田村和彦編著 桜門書房 3,024 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 最終試験。

◆授業相談(連絡先)：

◆土曜日集中 TOEIC チャレンジ**〔TOEIC B〕**

土曜日 1・2 時限

開講単位 1 単位 担当者：町田 純子

◆学修到達目標 TOEIC の出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力を養成する事を目的とします。又同時に最低限の基礎文法知識の定着を図り、語彙力増強も図ります。

◆授業方法 2 コマ連続の土曜日講座です。TOEIC のリスニング (Part1 ~ Part4) 及びリーディング (Part5 ~ Part7) の練習問題形式のテキストに沿い、発音練習、基礎文法、速読力、読解力増強を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、話し言葉特有のリスニングに慣れれます。全 7 回で中学生レヴェルの基礎英単語から TOEIC 頻出範囲までの単語熟語力チェックテストを行います。

◆準備学修 ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、授業計画を確認の上、予習、復習をしてください。単語の教材を使用した 7 回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、10 月の初回講義前に教材を購入して、準備を始めて定着を図ってください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1回目 ガイダンスと Mini-Test 及び解説	9回目 Unit 8 Working in the office 単語テスト 4
2回目 Unit 1 Going overseas	10回目 Unit 9 Paying the bills
3回目 Unit 2 Going shopping 単語テスト 1	11回目 Unit 10 Advertising a new product 単語テスト 5
4回目 Unit 3 Talking about food and health	12回目 Unit 11 Renting an apartment
5回目 Unit 4 Sports & entertainment 単語テスト 2	13回目 Unit 12 Troubleshooting 単語テスト 6
6回目 Unit 5 Preserving nature	14回目 Review Test 及び解説
7回目 Unit 6 Giving directions 単語テスト 3	15回目 まとめ
8回目 Unit 7 Going job hunting	

◆教科書 内沼『TOEIC TEST : On target Book1』 大賀リエ William J. Benfield 他 南雲堂 2,160 円 (税込) (送料 300 円)

内沼『Word Builder』基礎から学ぶ TOEIC テスト英単熟語 語学教育教材開発研究会 南雲堂 1,188 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 英和辞書(電子辞書でも可)は必携です。

◆成績評価基準 全出席を前提に平常点評価として総合的にだします。単熟語小テスト 7 回 (35%) と期末試験 (50%) +宿題等取り組み (15%)

◆授業相談(連絡先)：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆『源氏物語』「賢木」「花散里」巻を読む [国文学講義Ⅱ(中古)]

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：笹生 美貴子

◆学修到達目標 日本古典文学の極北とされる『源氏物語』を取り上げ、吟味することによって、物語の読みの広がりや解釈を学ぶ。また、周辺作品との関連にも触れながら、『源氏物語』の文学的位置についても考えていく。文学作品にふれることにより、心の豊かさや、物語作品に込められたメッセージを読み取る力を養うこととする。

◆授業方法 作品の講読というスタイルをとる。文脈の一つ一つを丹念に追いかけて作品世界を読解し、その魅力を明らかにする。また、『源氏物語』に影響を与えた作品についても取り上げる。当時の文化・年中行事・俗信など、日本独自の伝統文化についても併せて勉強していく。また、最終日に小論文（授業内容を踏まえたまでの論述）を書いてもらい、試験の代わりとする。

◆準備学修 事前に「賢木」「花散里」巻（教科書）全体に目を通し、内容を把握しておくこと。また、難解な語については古語辞典を用いて予習を行うことが望ましい。登場人物が多く複雑なため、教科書に載っている人物系図等を参考にしつつ把握しておくこと。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 ガイダンス 概説	9回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解⑦
2回目 『源氏物語』の周辺作品について学ぶ	10回目 『源氏物語』「花散里」巻の読解①
3回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解①	11回目 『源氏物語』「花散里」巻の読解②
4回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解②	12回目 『源氏物語』の現代語訳①（谷崎訳・与謝野訳を中心に）
5回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解③	13回目 『源氏物語』の現代語訳②（谷崎訳・与謝野訳を中心に）
6回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解④	14回目 『源氏物語』受容の多様性について学ぶ
7回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解⑤	15回目 まとめ
8回目 『源氏物語』「賢木」巻の読解⑥	

◆教科書 **丸沼**『古典セレクション 源氏物語③』阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 小学館 1,728 円（税込）
(送料 300 円)

◆参考書 多岐にわたるので、授業時に伝える。

◆成績評価基準 「授業後提出の意見・質問」40%、「試験（小論文）」60%
毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

◆中国経済の実態を学びましょう

[中国経済論]

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：齊 中凌

サイ チュウリョウ

◆学修到達目標 日本と中国の経済関係はこの 30 年間で大きく拡大したが、一方で近年は政治的な緊張関係も強まっている。我々は、中国という国の仕組みや経済建設の経緯が日本と大きく異なることを認識した上で、現在起きている事象の本質を理解し、直面する事態と向き合っていかなければならない。この講義では、中国経済の各部門の特徴について基礎となる知識を習得し、中国経済に対する理解を深めることを目指す。

◆授業方法 講義は、配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業時間内に、出欠を兼ねて、筆記課題やクイズへの回答を提出してもらうこともある。中国を身近に感じられるように、可能な限り写真や映像なども取り入れて講義を進めたいと考えている。また、足下の中国の経済・社会動向や世界経済・国際金融情勢との関係など時事問題についても、講義の中で解説を加える。

◆準備学修 テキストの第 2 部と第 3 部を事前に読んでおいていただきたい。なお、中国は変化のペースが非常に速いため、参考図書や資料は、講義の際にテーマに応じて適宜紹介する。

◆授業計画 [各 90 分]

1回目 世界経済における中国経済の位置づけ	9回目 人民元の為替相場、金利と資本取引
2回目 GDP 大国における人々の生活（1）	10回目 一人っ子政策と労働力市場の変容
3回目 GDP 大国における人々の生活（2）	11回目 経済発展とともに強くなる財政力
4回目 中国の GDP の構成と特徴（1）	12回目 中国の土地政策と不動産バブル
5回目 中国の GDP の構成と特徴（2）	13回目 国進民退といわれている中国企業
6回目 経済を支える対外貿易（1）	14回目 「投機市場」の色彩が濃厚な株式市場
7回目 経済を支える対外貿易（2）	15回目 中国の環境問題とグリーン GDP・まとめ
8回目 中国の銀行システムと金融政策の概要	

◆教科書 **丸沼**『現代中国経済論』加藤弘之・上原一慶 ミネルヴァ書房（2011 年 4 月）3,456 円（税込）
(送料 350 円)

◆参考書 使用しない。

◆成績評価基準 期末テスト、出席の成績を総合して評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆簿記の基本を学びましょう

[簿記論 I]

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：遠藤 洋介

◆**学修到達目標** 初めて簿記を勉強する方を対象に、簿記の一連の流れ（会社の成績表ができるまでの流れ）を学んで頂きます。『帳簿をつける』ということや『決算』というものはどういうものなのかを理解して頂き、会社の成績表をつくれるようになることを目標にしています。

◆**授業方法** まず、黒板を使って、テキストに書いている内容を簡単にまとめて解説します。

テキストには例題もありますので、黒板で解き方を解説し、イメージをもって頂きます。

その後、テキストやワークブックにある練習問題を各自で解いて頂き、解説や補足説明等を行います。

なお、後期の授業では、なるべく問題を解いて頂く時間を多めにとろうと考えています。

◆**準備学修** 授業内容は毎回つながっていますので、復習が大変重要になります。各回の授業で勉強したことは、次回の授業までにもう一度復習するようにして下さい。また、授業では電卓が必要となります（最初の授業の際に説明します）。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 簿記の意義としくみ	9回目 有価証券
2回目 仕訳と転記	10回目 固定資産
3回目 決算（その1）	11回目 資本金と引出金
4回目 現金と預金	12回目 収益と費用
5回目 商品売買	13回目 伝票
6回目 売掛金と買掛金	14回目 決算（その2）
7回目 その他の債権と債務	15回目 まとめ
8回目 受取手形と支払手形	

◆**教科書** 丸沼『検定簿記講義 3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社 756 円（税込）
(送料 300 円)

丸沼『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子 中央経済社 756 円（税込）
(送料 300 円)

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 原則として、試験の結果により評価をしますが、授業中に小テストを実施した場合にはそれを加味することがあります。

◆**授業相談（連絡先）：**

◆授業デザイン力につける

[教育の方法・技術論]

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位 担当者：古賀 徹

◆**学修到達目標** この授業は、「教員としての授業実践力」を修得することを目的としています。そのためにはどのような順序で学びます。①「授業が成り立つ条件」を理解する。②様々な授業形態を歴史的に、あるいは諸外国と比較することでより深く理解する。③カリキュラム構成方法を修得することで、学習指導計画を組み立てられるようにする。④実際に作業することで教育方法のコツを修得する。①～④によって、授業づくりと実践力とをつけ（増し）ていきましょう。

◆**授業方法** 講義形式、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどをとりいれる。

◆**準備学修** 方法論の理論やその種類・系統を理解するだけではなく、さらにその理解したことを実際に活用すること、生徒の理解を前提とする授業を構成することができるようになることが大事です。

他の各教科の指導法（教科教育法）の授業やテキストの記述からも（実施する）「授業」に関するイメージを具体的にあらわせるように学んでおくことをおすすめします。毎回、前回までの授業と必ず関連した内容になっていますので、復習をしっかりとしておくこと。それが最終回までの授業でつながっていきます。

◆授業計画【各 90 分】

1回目 「教える」と「学ぶ」こと	9回目 問題解決学習と系統学習
2回目 「学習」観が問題となる現代社会	10回目 カリキュラム構成の方法
3回目 教育方法学の歴史（西洋教育方法史）	11回目 カリキュラムづくりの実習
4回目 教育方法学の歴史（日本の教育内容の変遷）	12回目 学校カリキュラムを構成する
5回目 「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論）	13回目 学習指導案の種類とその構成
6回目 授業形態の多様化（バズ学習、T.T 等）	14回目 学習実践のロールプレイ
7回目 「はなす」と「聞く」こと	15回目 教材研究・教育評価の方法
8回目 「はなす・聞く・かく・まとめる」	

16（最終）試験

*1と2で1日目、3・4（2日目）、5・6（3日）、7・8（4日目）、9・10（5日）、11・12（6日）、13・14（7日目）、15+16（8日目）

◆**教科書** [当日資料配布] 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。[当日資料配布] 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

VIII 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。

1 学生証裏面学籍シールへの記入

- ① 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。
- ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。

2 購入手続き

- ① 「学生証」及び「通学定期乗車券発行控」（※昼間スクーリング受講手続説明会にて配付）持参で事務取扱時間内に学生課窓口に来校し、所定の用紙に記入して「在籍確認」印の押印を受けてください。
- ② 通学定期券取扱い駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。

3 学生課窓口で記入する所定用紙について

- ① 通学定期乗車券発行控（全員必要）
- ② 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
- ③ 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合に必要）

4 対象区間

自宅（又は滞在先）の最寄り駅から以下「通信教育部最寄り駅」までの最短経路を対象とします。

【通信教育部最寄駅】

鉄道会社	最寄駅（市ヶ谷キャンパス）
JR 東日本	市ヶ谷駅
都営地下鉄	
東京メトロ	

※ 最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※ 途中経路や迂回経路は一切認められません。

5 禁止事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。

また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。
不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用一覧】

① 住所を偽って通学証明書の発行を受けること。	② 他人に譲渡・貸与すること。
③ 記名人以外が使用すること。	④ その他、不正に使用すること。

6 その他注意事項

- ① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出してください。
- ② 年度内に「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出してください。
- ③ 「在籍確認」印は、年度内に限り有効です。

MEMO

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

シラバスと使用教材
(火曜日)シラバスと使用教材
(水曜日)シラバスと使用教材
(木曜日)シラバスと使用教材
(金曜日)シラバスと使用教材
(土曜日)通学定期券
購入手続の

各種用紙

- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材用）

時間割

開講講座表

受講講座の選定

受講手続

受講及び試験

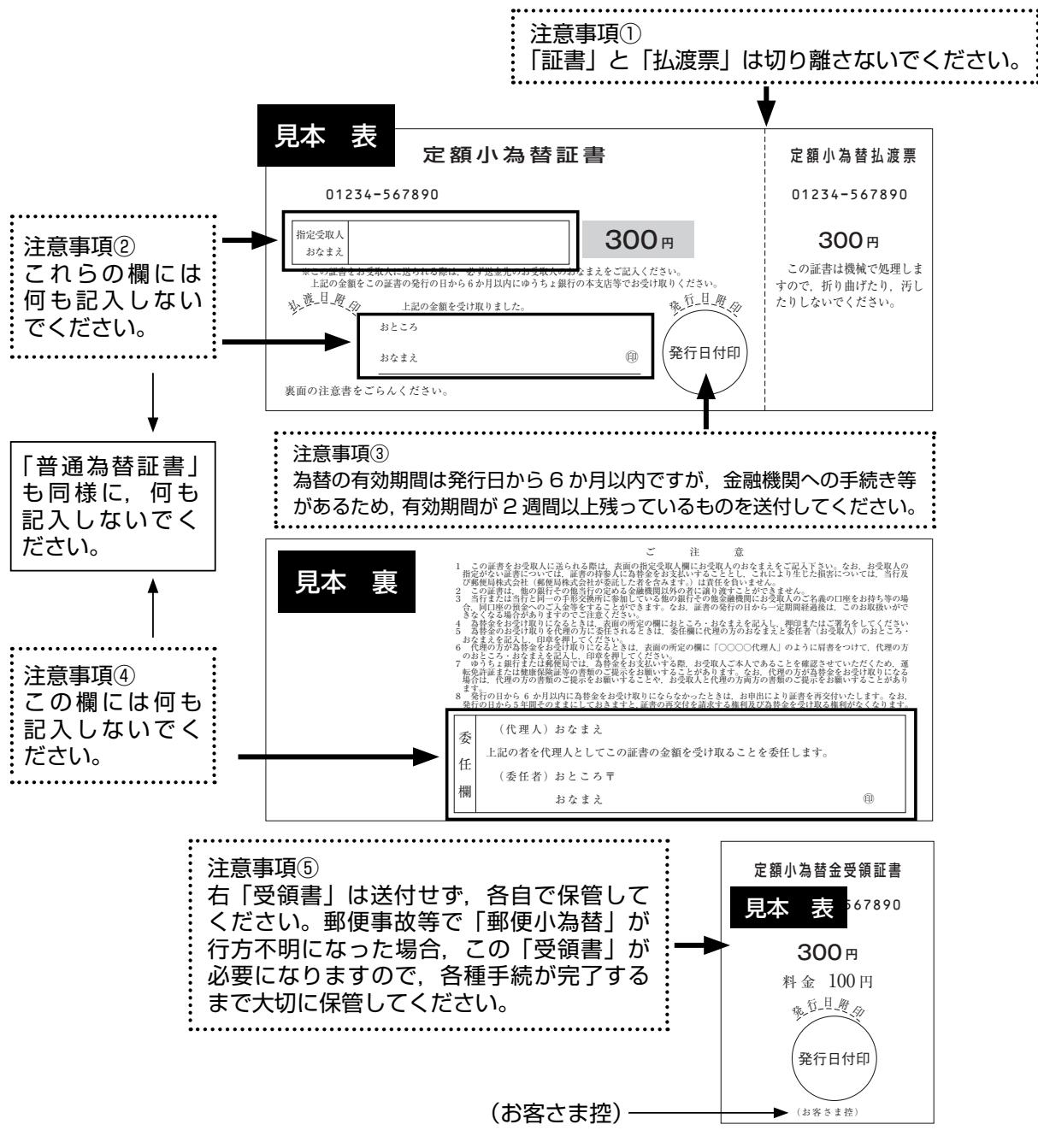
シラバスと使用教材
(火曜日)シラバスと使用教材
(水曜日)シラバスと使用教材
(木曜日)シラバスと使用教材
(金曜日)シラバスと使用教材
(土曜日)通学定期券の
購入手続

各種用紙

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。



丸沼

教材購入用紙(丸沼書店用)

市販教材(市販本) 購入用

※**丸沼**印の教材を郵送にて購入の際は、この用紙で申し込んでください。
詳細は、「使用教材の購入」のページを参照してください。

(送付先) 丸沼書店

平成27年度 昼間・土曜スクーリング			
申込日	平成 27 年 月 日		
科目名	書名	教材費(税込)	送料
小計		円	円
合計		円	
購入方法 (いずれかに○)	①代金引換 ②定額小為替・郵便為替 ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送 り 先	住 所	〒 -
	氏 名	
	電話番号	()

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。
※不足する場合は複写の上、使用してください

購入方法は裏面を参照してください。

【購入方法】

(1) ~ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、以下宛に郵送又は FAX をしてください。

(2) 郵便為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額分の定額小為替 又は郵便為替を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額を同封して下記 へ郵送してください。

不明な場合は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので、郵便為替・現金書留の場合、ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については、ご返金いたします。また、代金引換払の場合、書籍代 + 送料（実費） + 手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

(書 店 名) (株) 丸沼書店
(所 在 地) 〒 101-0061
東京都千代田区三崎町 2-8-12
(電 話) 03-3261-4540
(F A X) 03-3261-0118
(営 業 時 間) 9:00 ~ 20:00 (日曜日は休み)

通材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先:会計課)

教材購入願 (通信教育教材用)

学 生 番 号						氏 名	フリガナ
連絡先電話番号(携帯電話可)						- - -	

教材コード	科 目 名	金 額	スクーリング種別
			講 座 名
1 0 0 0			
2 0 0 0			
3 0 0 0			
4 0 0 0			
5 0 0 0			
6 0 0 0			
合計科目数		合計金額	
		_____	円

(太線枠内にボールペンで記入してください)

- ※ボールペンで記入してください。
- ※「教材コード・科目名・金額」は『部報』・『各種スクーリング手引』で確認し、必ず記入してください。
- 「教材コード(6桁)」と「科目コード(6桁)」は異なりますので、注意してください。
- ※「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育部教材』を使用する場合にのみ記入してください。
- ※『スクーリングの手引』における各講座の「シラバスと使用教材」の教科書(参考書)欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材(教材コード 000279)」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください(受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入)。

会計課領収印

「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』を購入する場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

1 購入手続

① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口（1号館2階）へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください）。

② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。その際、必ず釣り銭のないようにしてください。

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償もありませんので、必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用して下さい。
為替には何も記入せず送付してください。

2 教材購入対象者

- ① 面接授業（スクーリング）、メディア授業で『通信教育教材』を使用する場合
- ② 教材を紛失した場合
- ③ 学習する際に、参考として使用する場合
- ④ 教材が改訂された場合
- ⑤ 配本申請単位、回数をこえた場合
- ⑥ 科目履修生

3 注意事項

- ① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もしませんので注意してください。
- ② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、**窓口ではお渡ししません。**
教材が手元に届くまでに約1週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は「受講許可通知書」を確認した後、速やかに購入手続きをしてください。
- ③ 「教材購入願」で入手した教材でリポート提出はできません。リポート+科目修得試験方式、スクーリング併用試験方式、メディア授業併用試験方式で単位修得する場合は、履修登録（履修届・追加科目履修届）で教材を入手してください。

校舎案内

市ヶ谷キャンパス

【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28



JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車 徒歩 3 分

都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩 2 分

丸沼書店案内図



JR 中央・総武線（各駅停車）、都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩 3 分

都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A4 出口から 徒歩 5 分



DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY
編集兼発行人 福田弥夫 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部